

(様式第 10)

海大第 968 号
令和元年 10 月 28 日

厚生労働大臣

殿

北海道大学総長職務代理 笠原正典 (印)

北海道大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
氏 名	国立大学法人北海道大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立大学法人北海道大学 北海道大学病院

3 所在の場所

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目 電話(011) 716 - 1161
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	④	無
内科と組み合わせた診療科名等		
1呼吸器内科	② 消化器内科	③ 循環器内科
⑤ 神経内科	⑥ 血液内科	7 内分泌内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	4 腎臓内科 8 代謝内科 11 リウマチ科
診療実績		
呼吸器内科、感染症内科、腎臓内科、内分泌内科、リウマチ科及び代謝内科は内科、アレルギーは耳鼻咽喉科が当該医療の提供を行っている。		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 6心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績 心臓外科、血管外科及び心臓血管外科は循環器外科、内分泌外科は乳腺外科が当該医療の提供を行っている。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 ①小児歯科 ②矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 腫瘍内科 2 循環器外科 3 形成外科 4 リハビリテーション科 5 病理診断科 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
70床	0床	0床	0床	874床	944床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	237人	284.3人	521.3人	看 護 補 助 者	131人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	92人	54.9人	146.9人	理 学 療 法 士	16人	臨床検査技師	78人
薬 剤 師	67人	0人	67人	作 業 療 法 士	10人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	11人	そ の 他	0人
助 産 師	27人	0人	27人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	891人	18.3人	909.3人	臨 床 工 学 士	18人	医療社会事業従事者	12人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	34人
歯科衛生士	13人	0人	13人	歯 科 技 工 士	6人	事 務 職 員	310人
管理栄養士	7人	0人	7人	診 療 放 射 線 技 師	57人	そ の 他 の 職 員	138人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	65人	眼 科 専 門 医	23人
外 科 専 門 医	70人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	18人
精 神 科 専 門 医	19人	放 射 線 科 専 門 医	38人
小 児 科 専 門 医	44人	脳 神 経 外 科 専 門 医	16人
皮 膚 科 専 門 医	18人	整 形 外 科 専 門 医	41人
泌 尿 器 科 専 門 医	19人	麻 酔 科 専 門 医	30人
産 婦 人 科 専 門 医	21人	救 急 科 専 門 医	15人
		合 計	437人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (寶金清博) 任命年月日 平成25年4月1日

「医療安全管理委員会委員」	
ME機器管理センター長	平成22年4月1日～
医療安全管理部長 (副病院長)	平成22年9月1日～
病院長	平成25年4月1日～平成31年3月31日

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	737人	15人	752人
1日当たり平均外来患者数	2,403人	698人	3,101人
1日当たり平均調剤数			1,453 剤
必要医師数			213人
必要歯科医師数			37人
必要薬剤師数			26人
必要(准)看護師数			480人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	920m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	10床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 222m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	6床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 13m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	93m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	173m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) オートクレーブ			
病理検査室	799m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 切り出し台			
病理解剖室	208m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 剖検台			
研究室	2,031m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 安全キャビネット			
講義室	37m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	1室	収容定員	50人
図書室	178m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	4室	蔵書数	1,400冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	86.0%	逆紹介率	47.3%
算出根拠	A：紹介患者の数			15,652人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			9,030人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			777人
	D：初診の患者の数			19,104人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
大島寿美子	北星学園大学		医師・患者関係に精通	無	2
加藤紘之	斗南病院		医療安全に精通	無	1
橋本暁良	札幌医科大学		医療安全に精通	無	1
中村隆	札幌総合法律事務所	○	法律に精通	無	1
生駒一憲	北海道大学病院		医療を提供する者	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法 本学ホームページ及び本院ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
陽子線治療	21人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	1人
全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法	0人
オクトレオチド皮下注射療法 先天性高インスリン血症(生後二週以上十二月未満の患者に係るものであって、ジアゾキサイドの経口投与では、その治療に係る効果が認められないものに限る。)	1人
11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による再発の診断 頭頸部腫瘍(原発性若しくは転移性脳腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))又は上咽頭、頭蓋骨その他脳に近接する臓器に発生する腫瘍(放射線治療を実施した日から起算して半年以上経過した患者に係るものに限る。))であり、かつ、再発が疑われるものに限る。)	1人
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	0人
周術期カルペリチド静脈内投与による再発抑制療法	0人
テモゾロミド用量強化療法	0人
11C標識メチオニンを用いたポジトロン断層撮影による診断 初発の神経膠腫が疑われるもの(生検又は手術が予定されている患者に係るものに限る。)	9人
陽子線治療 (切除不能肝細胞がん)	0人
肺癌腹膜転移に対するS-1+パクリタキセル経静脈腹腔内投与併用療法	0人
陽子線治療 (根治切除が可能な肝細胞がん)【陽子線治療を実施する施設】	1人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 (進行再発固形がん)	5人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	13	56	ベーチェット病	218
2	筋萎縮性側索硬化症	37	57	特発性拡張型心筋症	94
3	脊髄性筋萎縮症	6	58	肥大型心筋症	66
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	13	60	再生不良性貧血	44
6	パーキンソン病	243	61	自己免疫性溶血性貧血	7
7	大脳皮質基底核変性症	10	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	87
9	神経有棘赤血球症	2	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	39
11	重症筋無力症	82	66	IgA腎症	53
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	158
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	109	68	黄色靱帯骨化症	14
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	24	69	後縦靱帯骨化症	146
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クロー・深瀬症候群	3	71	特発性大腿骨頭壊死症	120
17	多系統萎縮症	28	72	下垂体性ADH分泌異常症	50
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	164	73	下垂体性TSH分泌亢進症	6
19	ライソゾーム病	11	74	下垂体性PRL分泌亢進症	14
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	26
21	ミトコンドリア病	16	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	150	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	93
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	282
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	2	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	24
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	2
28	全身性アミロイドーシス	13	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	234
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	52
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	36
32	自己貪食空胞性ミオパチー	1	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	38
34	神経線維腫症	43	89	リンパ脈管筋腫症	24
35	天疱瘡	67	90	網膜色素変性症	44
36	表皮水疱症	9	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	14	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	91
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	9
40	高安動脈炎	54	95	自己免疫性肝炎	41
41	巨細胞性動脈炎	7	96	クローン病	136
42	結節性多発動脈炎	31	97	潰瘍性大腸炎	246
43	顕微鏡的多発血管炎	50	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	24	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	18	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	15	101	腸管神経節細胞減少症	1
47	パージャー病	17	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	5	103	CFC症候群	1
49	全身性エリテマトーデス	503	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	186	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	126	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	45	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	387	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	19	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	9	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	2	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	35
113	筋ジストロフィー	19	163	特発性後天性全身性無汗症	1
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	4
118	脊髄髄膜瘤	4	168	エーラス・ダンロス症候群	1
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	1	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	9
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	1	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	1
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠伸てんかん	1	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	8	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	1	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	5	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	4	210	単心室症	3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	1	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	10
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	59	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	0
224	紫斑病性腎炎	6	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	1	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	5	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	5	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	3	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	2
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	3
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	8
249	グルタル酸血症1型	1	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	1	300	IgG4関連疾患	12
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	1	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	1	304	若年発症型両側性感音難聴	1
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	13

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β ーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	1	330	先天性気管狭窄症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1 精神病棟13対1)	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・臨床研修病院入院診療加算 1基幹型 2協力型	・救急搬送患者地域連携受入加算
・救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	・呼吸ケアチーム加算
・超急性期脳卒中加算	・後発医薬品使用体制加算1
・妊産婦緊急搬送入院加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・診療録管理体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算2
・医師事務作業補助体制加算1	・データ提出加算2
・急性期看護補助体制加算1	・入退院支援加算2
・看護職員夜間配置加算	・認知症ケア加算2
・看護補助加算2	・精神疾患診療体制加算2
・療養環境加算	・精神科急性期医師配置加算
・重症者等療養環境特別加算	・特定集中治療室管理料4
・無菌治療室管理加算1及び2	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・緩和ケア診療加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料)
・精神科身体合併症管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(新生児集中治療室管理料)
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料2
・がん診療連携拠点病院加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・感染防止対策地域連携加算	
・抗菌薬適正使用支援加算	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・植込型除細動器移行期加算	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・高度難聴指導管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・喘息治療管理料	・持続血糖測定器加算
・糖尿病合併症管理料	・造血器腫瘍遺伝子検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料1	・骨髄微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料2	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)
・がん患者指導管理料3	・抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・外来緩和ケア管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後、造血幹細胞移植後)	・検体検査管理加算(IV)
・糖尿病透析予防指導管理料	・国際標準検査管理加算
・小児運動器疾患指導管理料	・遺伝カウンセリング加算
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・外来放射線照射診療料	・植込型心電図検査
・ニコチン依存症管理料	・時間内歩行試験
・療養・就労両立支援指導料の注2に規定する相談体制充実加算	・胎児心エコー法
・がん治療連携計画策定料	・ヘッドアップティルト試験

施設基準の種類	施設基準の種類
・がん治療連携管理料	・人工臓腑
・肝炎インターフェロン治療計画料	・皮下連続式グルコース測定
・排尿自立指導料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1 ハイリスク妊産婦連携指導料2	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・薬剤管理指導料	・脳磁図(旧 神経磁気診断)
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・脳波検査判断料1
・医療機器安全管理料1	・遠隔脳波診断
・医療機器安全管理料2& 歯科	・神経学的検査
・ロービジョン検査判断料	・精神科作業療法
・小児食物アレルギー負荷検査	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・内服・点滴誘発試験	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・センチネルリンパ節生検(併用)	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・医療保護入院等診療料
・画像診断管理加算1(歯科以外)	・硬膜外自家血注入
・ポジトロン断層撮影 ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・エタノールの局所注入(甲状腺・副甲状腺)
・CT撮影及びMRI撮影	・人工腎臓
・冠動脈CT撮影加算	・導入期加算2
・心臓MRI撮影加算	・透析液水質確保加算
・大腸CT撮影加算	・慢性維持透析濾過加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・一酸化窒素吸入療法

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来化学療法加算1	・磁気による膀胱等刺激法
・無菌製剤処理料	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・心大血管疾患リハビリテーション料 I	・皮膚移植術(死体)
・初期加算	・組織拡張器による再建手術〔乳房(再建手術)の場合に限る〕
・脳血管疾患等リハビリテーション料 I	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)
・初期加算	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・運動器リハビリテーション料 I	・腫瘍脊椎骨全摘術
・初期加算	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・呼吸器リハビリテーション料 I	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。) 脳刺激装置交換術
・初期加算	・脊髄刺激装置植込術 脊髄刺激装置交換術
・がん患者リハビリテーション料	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
・児童思春期精神科専門管理加算	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・救急患者精神科継続支援料	・緑内障手術〔緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)〕
・認知療法・認知行動療法1	・緑内障手術〔水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術〕
・網膜再建術	・植込型補助人工心臓(拍動流型)
・人工内耳植込術	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・同種心移植術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・経皮的動脈遮断術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る) 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)	・ダメージコントロール手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・胃瘻造設術

施設基準の種類	施設基準の種類
・乳がんセンチネルリンパ節加算1	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・肺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・食道縫合術(穿孔、損傷)等(内視鏡によるもの)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・経皮的冠動脈形成術	・腹腔鏡下肝切除術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・生体部分肝移植術
・胸腔鏡下弁形成術 胸腔鏡下弁置換術	・同種死体肝移植術
・経皮的冠動脈弁置換術	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・ペースメーカー移植術 ペースメーカー交換術 リードレスペースメーカー移植術	・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術
・植込型心電図記録計移植術 植込型心電図記録計摘出術	・同種死体膵移植術 同種死体膵腎移植術
・両心室ペースメーカー移植術 両心室ペースメーカー交換術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・植込型除細動器移植術 植込型除細動器交換術	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下小切開腎摘出術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・補助人工心臓	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)

施設基準の種類	施設基準の種類
・同種死体腎移植術	・麻酔管理料(I)
・生体腎移植術	・麻酔管理料(II)
・膀胱水圧拡張術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・外来放射線治療加算
・人工尿道括約筋植込・置換術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)	・粒子線治療(一連につき)
・内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	・粒子線治療適応判定加算
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・粒子線治療医学管理加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・輸血管理料 I	・病理診断管理加算2
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・
・コーディネート体制充実加算	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・内視鏡手術用支援機器加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・粒子線治療 1 希少な疾病にたいして実施した場合 □ 陽子線治療の場合 ※先進医療で実施されていた疾患について保険適用	・
・粒子線治療 2 1以外の特定の疾病に対して実施した場合 □ 陽子線治療の場合 ※先進医療で実施されていた疾患について保険適用	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	病理診断科 約300回/年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 24例 / 剖検率 5.7%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
医療技術：安全性確保に立脚した新規医療技術開発推進に関する研究	寶金 清博	病院長	190,000,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
橋渡し研究：新規医療技術の持続的創出を実現するオープンアクセス型拠点形成	寶金 清博	病院長	153,726,019	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
平成30年度造血幹細胞移植医療体制整備事業	寶金 清博	病院全体	18,242,000	補委	支出官 厚生労働省大臣官房会計課長
統合失調症に対する認知リハビリテーションが脳の神経活動に与える効果の解明	井上 貴雄	リハビリテーション部	910,000	補委	日本学術振興会
瞑想が外傷性脳損傷患者の脳活動、認知機能に与える影響	吉田 一生	リハビリテーション部	910,000	補委	日本学術振興会
高齢ラットにおけるストレッチによる筋力増強効果の分子生物学的検討	池田 聡	リハビリテーション部	1,690,000	補委	日本学術振興会
体重心視覚フィードバックバランス練習の姿勢制御メカニズムへの効果の解明	萬井 太規	リハビリテーション部	780,000	補委	日本学術振興会
胸部悪性疾患に対する腫瘍特異的細径ナノ粒子を用いた光線力学的治療法の確立	加藤 達哉	臨床研修センター	300,000	補委	日本学術振興会
胸部悪性疾患に対する腫瘍特異的細径ナノ粒子を用いた光線力学的治療法の確立	加藤 達哉	臨床研修センター	735,058	補委	日本学術振興会
非小細胞肺がんの根治に向けた術後補助化学療法後の新規ペプチドワクチン維持療法の開発研究	加藤 達哉	臨床研修センター	576,924	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
FDiFA-PETを用いた新しい低酸素評価方法の確立	岡本 祥三	核医学診療科	1,170,000	補委	日本学術振興会
低酸素腫瘍に対する新たな治療戦略の構築	志賀 哲	核医学診療科	7,020,000	補委	日本学術振興会
Precision Medicine時代を切り拓く11C標識メチオニンの脳腫瘍診断に関する研究—薬剤自動合成装置の医療機器承認取得を目指して—	志賀 哲	核医学診療科	71,099,999	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
FDG/FMISO PETのtexture解析による脳腫瘍の新たな診断法の確立	小林 健太郎	核医学診療科	2,080,000	補委	日本学術振興会
PET用低酸素イメージング薬剤であるFMISOを用いた心サルコイドーシスの評価	真鍋 治	核医学診療科	1,430,000	補委	日本学術振興会
網脈絡膜組織に対する網膜色素上皮由来胎盤成長因子の保護効果	安藤 亮	眼科	1,560,000	補委	日本学術振興会
糖尿病の脈絡膜厚調節に対するVEGF- α B-クリスタリン系の関与	加瀬 諭	眼科	1,560,000	補委	日本学術振興会
眼部腫瘍の全国症例登録システムの構築に関する研究	加瀬 諭	眼科	600,000	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
アンジオポエチン2阻害によるぶどう膜炎軽症化の検討	岩田 大樹	眼科	1,170,000	補委	日本学術振興会
受容体結合プロレニン系を標的とした網脈絡膜疾患治療戦略の確立	石田 晋	眼科	4,160,000	補委	日本学術振興会
人工多能性幹細胞由来のマクロファージ様免疫抑制性細胞を用いたぶどう膜炎網膜炎の制御	南場 研一	眼科	1,560,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：南場研一	南場 研一	眼科	1,000,000	補委	公益財団法人 日本応用酵素協会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
正常眼圧緑内障モデルマウスにおける熱ショック蛋白質を介した網膜神経保護	木嶋 理紀	眼科	1,430,000	補委	日本学術振興会
糖尿病網膜症における不飽和アルデヒドアクロレインの網膜グリア細胞活性化機構	野田 航介	眼科	1,560,000	補委	日本学術振興会
持続可能なインプラント治療を目指した生体活性ジルコニアの開発	伊藤 達郎	義歯補綴科	400,000	補委	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
スマートナノバイオマテリアルの開発と口腔領域における臨床応用への展開	横山 敦郎	義歯補綴科	4,810,000	補委	日本学術振興会
カーボンナノ物質の生物学的特性を用いた革新的組織修復・骨再生のストラテジーの構築	横山 敦郎	義歯補綴科	1,820,000	補委	日本学術振興会
義歯作製治療時のストレス解析とハグ・抱擁効果を応用した新たなストレス緩和法の構築	後藤 まりえ	義歯補綴科	1,170,000	補委	日本学術振興会
高機能化カーボンナノホーンを応用した新たなGBR法の開発	小松原 浩実	義歯補綴科	650,000	補委	日本学術振興会
カーボンナノ物質修飾による革新的表面構造を有するインプラントの開発	平田 恵理	義歯補綴科	1,820,000	補委	日本学術振興会
オッセオインテグレーション関連因子を用いた新規インプラント周囲骨再生治療の開発	堀内 留美	義歯補綴科	1,040,000	補委	日本学術振興会
自然免疫炎症反応・凝固線溶反応の心停止蘇生後臓器不全への関与	丸藤 哲	救急科	2,800,000	補委	日本学術振興会
自然免疫炎症反応・凝固線溶反応の心停止蘇生後臓器不全への関与	丸藤 哲	救急科	2,780,000	補委	日本学術振興会
エナメル質を保全できる矯正歯科治療—量子力学・錯体化学・プラズマ物理学的展開—	山方 秀一	矯正歯科	1,820,000	補委	日本学術振興会
薬剤徐放作用をもつ新規歯科矯正用接着材の開発	中西 康	矯正歯科	1,040,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金:工学研究資金:土屋 聡(672)	土屋 聡	矯正歯科	2,000,000	補委	公益財団法人日揮・実吉奨学会
ナノポーラスシリカを用いた新規多機能性歯科材料の開発	坂東 洋祐	歯学院・歯学研究院・歯学部歯科矯正学教室	1,560,000	補委	厚生労働省
メラノーマの転移機序をCirculating Tumor Cellsから捉える	前田 拓	形成外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
難治性血管奇形に対するmTOR経路に着目した血管新生阻害療法の開発	石川 耕資	形成外科	2,210,000	補委	日本学術振興会
羊膜由来間葉系幹細胞の大いなる可能性～理想的な乳房再建を目指して	舟山 恵美	形成外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
機能的リンパ組織移植法の開発!	山本 有平	形成外科	5,850,000	補委	日本学術振興会
エイズ診療向上に関する調査研究	遠藤 知之	血液内科	24,700,000	補委	北海道知事
マクロファージ-筋線維芽細胞系を標的とした慢性GVHD治療法の開発	橋本 大吾	血液内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
次世代シーケンスによる再発難治性急性白血病のゲノム構造の解析	小野澤 真弘	血液内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金:医学研究資金:小野澤 真弘	小野澤 真弘	血液内科	2,000,000	補委	公益財団法人武田科学振興財団
CRISPRスクリーニングによるT/NK細胞性リンパ腫の網羅的分子標的の同定	中川 雅夫	血液内科	1,820,000	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
奨学寄附金：医学研究資金：中川 雅夫	中川 雅夫	血液内科	2,000,000	補委	公益財団法人高松宮妃癌研究基金
奨学寄附金：医学研究資金：中川 雅夫	中川 雅夫	血液内科	1,500,000	補委	公益財団法人寿原記念財団
奨学寄附金：医学研究資金：中川 雅夫	中川 雅夫	血液内科	500,000	補委	公益信託 日本白血病研究基金 受託者 三菱UFJ信託銀行
GVHDによる腸内フローラ異常の網羅的解析と治療法の開発	豊嶋 崇徳	血液内科	4,030,000	補委	日本学術振興会
骨髓造血と腸内フローラのクロストーク	豊嶋 崇徳	血液内科	2,080,000	補委	日本学術振興会
非血縁者間末梢血幹細胞移植における新規慢性GVHD予防法と持続型G-CSFによる幹細胞動員の開発研究	豊嶋 崇徳	血液内科	7,800,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
COI：『食と健康の達人』拠点	豊嶋 崇徳	血液内科	1,500,000	補委	科学技術振興機構
羊膜由来間葉系幹細胞の再生医療等製品化と急性GVHDに対する治療応用	豊嶋 崇徳	血液内科	1,500,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
上部消化管GVHDによる組織幹細胞傷害と細菌異常増殖の解明	早瀬 英子	検査・輸血部	3,120,000	補委	日本学術振興会
早期食道腺癌・接合部腺癌の蛍光プローブによる検出に関する多施設共同研究	山本 桂子	光学医療診療部	1,560,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞を用いた広範囲内視鏡的直腸粘膜下層剥離術後狭窄の予防法の開発	桂田 武彦	光学医療診療部	1,950,000	補委	日本学術振興会
HuRをターゲットとした薬剤Suraminを用いた新しい抗がん治療の確立	格口 渉	口腔外科	2,470,000	補委	日本学術振興会
顎口腔領域疾患において喪失された骨の再生メカニズムの解明	山田 珠希	口腔外科	780,000	補委	日本学術振興会
関節窩内での関節頭位置描出への挑戦—精度の高い外科的矯正治療を目指して—	松下 和裕	口腔外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：第24回伊藤財団学会等助成：松下和裕	松下 和裕	口腔外科	100,000	補委	公益財団法人伊藤医薬学術交流財団
がんの進展に伴う腫瘍血管内皮マーカーの発現ダイナミクスの解明	松田 光平	口腔外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
骨吸収抑制剤の休薬は顎骨壊死発症の予防に有効か？マウスによる検討	鄭 漢忠	口腔外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
接着性と薬効を両立した革新的歯内療法用材料の創製と臨床応用に向けた橋渡し研究	井上 哲	口腔総合診療部	1,820,000	補委	日本学術振興会
生体内でレジン上に歯周組織形成を実現！～接着治療法の予知性向上を目指して～	田中 佐織	口腔総合診療部	1,170,000	補委	日本学術振興会
口腔がん悪性化におけるRNA編集酵素ADAR1の意義解明	坂田健一郎	口腔内科	910,000	補委	日本学術振興会
低酸素誘導因子を標的とした分子イメージング支援新規口腔癌治療戦略の確立にむけて	宮腰 昌明	口腔内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
交感神経活動の変化が慢性咀嚼筋障害の治療効果や筋病理・筋活動に及ぼす影響	佐藤 淳	口腔内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
腫瘍血管内皮サイトカインレセプターの口腔癌の予後予測診断法への応用	佐藤 千晴	口腔内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
マクロファージをターゲットにしたBRONJ発症機序の解明と治療法の開発	佐藤 明	口腔内科	1,430,000	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
MRONJへの多血小板フィブリンによる治療戦略とPETを用いた新規評価法の確立	浅香 卓哉	口腔内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
効率的な抗がん剤治療を目指したPET低酸素分子イメージングと腫瘍血管の対比検討	大賀 則孝	口腔内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
軟骨内骨化およびPTH投与における骨特異性血管の骨・血管連関	土屋 恵李佳	口腔内科	2,470,000	補委	日本学術振興会
治療抵抗性を反映した革新的分子イメージングに基づく新しい口腔癌治療戦略	北川 善政	口腔内科	4,810,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：第24回伊藤財団海外学会等出席研究交流助成：鎌口 真由美	北川 善政	口腔内科	170,000	補委	公益財団法人伊藤医薬学術交流財団
奨学寄附金：第24回伊藤財団学会等助成：北川 善政	北川 善政	口腔内科	100,000	補委	公益財団法人伊藤医薬学術交流財団
「うま味」成分配合の口腔保湿剤を利用した新たな口腔乾燥症対策	岡田 和隆	高齢者歯科	1,820,000	補委	日本学術振興会
血管内皮細胞の異常性の獲得に対し低酸素環境が及ぼす影響に関する研究	近藤 美弥子	高齢者歯科	1,430,000	補委	日本学術振興会
造血幹細胞移植患者のQOL改善に直結する薬剤性味覚障害のメカニズム解明	阿部 貴恵	高齢者歯科	1,560,000	補委	日本学術振興会
突然死の原因となり得る口腔病態の評価—Autopsy imagingをもとにして	箕輪 和行	歯科放射線科	1,560,000	補委	日本学術振興会
脳内ATPaseに対する全身麻酔薬の作用に関する研究	長谷 由理	歯科麻酔科	650,000	補委	日本学術振興会
生体モデル膜および培養細胞における全身麻酔薬の作用部位に関する研究	渋谷 真希子	歯科麻酔科	1,690,000	補委	日本学術振興会
活性酸素種の制御による腫瘍血管新生阻害の検討	北條 敬之	歯科麻酔科	1,300,000	補委	日本学術振興会
かご状の多孔質シリカ粒子を用いたう蝕予防能を持つ歯冠修復材料の開発	成徳 英理	歯冠修復科	400,000	補委	公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
奨学寄附金：第24回伊藤財団海外学会等出席研究交流助成：IAMサード ビンビン	佐野 英彦	歯冠修復科	230,000	補委	公益財団法人伊藤医薬学術交流財団
新たな根面う蝕治療に向けたバイオアクティブ材料とナノテク材料の応用	田中 享	歯冠修復科	1,820,000	補委	日本学術振興会
自律神経活動モニターシステムと精神鎮静法を用いた安心・安全な高齢者歯科治療の確立	下地 伸司	歯周・歯内療法科	1,430,000	補委	日本学術振興会
バイオミネラリゼーション法による歯周組織再生用ナノ材料の創製と応用	宮治 裕史	歯周・歯内療法科	1,300,000	補委	日本学術振興会
高周波電流で細胞の増殖と分化を促進する革新的骨再生療法の開発	菅谷 勉	歯周・歯内療法科	1,690,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：第24回伊藤財団海外学会等出席研究交流助成：薮 佳奈子	菅谷 勉	歯周・歯内療法科	220,000	補委	公益財団法人伊藤医薬学術交流財団
世界初！ナノセラミクス配合ヒトコラーゲンによる安心安全な歯周組織再生法	西田 絵利香	歯周・歯内療法科	1,040,000	補委	日本学術振興会
高齢者歯科治療時のリスク改善に効果的な精神鎮静法の応用方法の確立	竹生 寛恵	歯周・歯内療法科	780,000	補委	日本学術振興会
α TCP複合化レジンとBMP-2を用いたインプラント周囲炎の治療法の開発	中塚 愛	歯周・歯内療法科	883,500	補委	日本学術振興会
骨細胞の骨基質ミネラル維持・流出におけるPTHとビスホスホネートの相違的機序	本郷 裕美	歯周・歯内療法科	2,210,000	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
複数のスキャホールドを用いた新規空間的ドラッグデリバリーシステムの開発	齋藤 恵美子	歯周・歯内療法科	130,000	補委	日本学術振興会
高悪性度唾液腺癌に対する網羅的遺伝子解析による新規治療標的分子の発見	加納 里志	耳鼻咽喉科	2,221,000	補委	日本学術振興会
遺伝子変異および発現分子解析に基づく外耳道扁平上皮癌に対する治療戦略構築	森田 真也	耳鼻咽喉科	1,170,000	補委	日本学術振興会
眼球運動-前庭系相互作用を利用した新しい平衡リハビリテーションの開発	藤原 圭志	耳鼻咽喉科	780,000	補委	日本学術振興会
ゲノム、プロテオーム解析による後天性真珠腫シグナル伝達ネットワークの解明	福田 篤	耳鼻咽喉科	1,560,000	補委	日本学術振興会
局所進行頭頸部扁平上皮癌に対する導入化学療法（ドセタキセル＋シスプラチン＋セツキシマブ）と放射線療法及びセツキシマブ併用療法の第II相試験	本間 明宏	耳鼻咽喉科	216,000	補委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	本間 明宏	耳鼻咽喉科	18,440,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
好酸球性副鼻腔炎におけるSIRT1によるサイトカイン発現制御機序の解明	鈴木 正宣	耳鼻咽喉科	1,690,000	補委	日本学術振興会
IL-6による免疫抑制を介した大腸がん肝転移機構の解明と新規治療法開発	高橋 典彦	手術部	1,430,000	補委	日本学術振興会
PD-L1の遺伝子変異および糖鎖修飾の意義とバイオマーカー開発に関する研究	秋田 弘俊	腫瘍内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
希少がんに対する遺伝子プロファイリングと標的治療に関する前向きレジストリ臨床研究（MASTER KEY Project）	秋田 弘俊	腫瘍内科	9,100,000	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
HER2陽性再発転移の唾液腺癌に対する個別化治療の開発	秋田 弘俊	腫瘍内科	40,000,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
国内完結型がんクリニカルシーケンスの社会実装と統合データベース構築およびゲノム医療人材育成に関する研究開発	秋田 弘俊	腫瘍内科	9,620,000	補委	国立大学法人 京都大学
HER2増幅固形癌に対するトラスツズマブ・ペルツズマブ併用療法のバスケットトライアル	秋田 弘俊	腫瘍内科	2,600,000	補委	国立大学法人 東京医科歯科大学
分化型甲状腺癌を対象としたレンバチニブの治療効果探索のためのコホート研究	清水 康	腫瘍内科	86,400	補委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
糖転移酵素を標的とする非小細胞肺癌の創薬シーズ創出に関する研究	本間 理央	腫瘍内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
非小細胞肺癌における抗癌薬耐性化の克服を目指したヒストン修飾酵素阻害療法の開発	木下 一郎	腫瘍内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
熱可塑性樹脂と熱伝導部材を用いた術中変形可能な新しい人工弁輪の開発	松居 喜郎	循環器・呼吸器外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
経カテーテル大動脈弁置換術の有効性・最適化・費用対効果を明らかにする研究	安斉 俊久	循環器内科	9,999,998	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
IoTセルフケアアプリを活用した高血圧性疾患の重症化予防を目指した研究	安斉 俊久	循環器内科	39,000,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
奨学寄附金：医学研究資金：安斉 俊久	安斉 俊久	循環器内科	300,000	補委	公益財団法人 福田記念医療技術振興財団
大規模臨床データを用いたアジア欧米間心不全診療実態の解明と国際リスクモデルの開発	永井 利幸	循環器内科	2,340,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：永井 利幸	永井 利幸	循環器内科	70,000	補委	公益財団法人 伊藤医薬学術交流財団
奨学寄附金：医学研究資金：永井 利幸	永井 利幸	循環器内科	2,000,000	補委	公益財団法人 武田科学振興財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
小腸由来αディフェンシンによる腸内細菌叢制御機構に着目した心不全の進展機序解明	横田 卓	循環器内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
左室駆出率の保たれた心不全患者における心筋線維化、左室拡張機能、運動耐容能の関連	岩野 弘幸	循環器内科	2,730,000	補委	日本学術振興会
脳由来神経栄養因子によるミトコンドリア機能制御機構の解明	絹川 真太郎	循環器内科	7,670,000	補委	日本学術振興会
mitoNEETによるクリスタ構造維持をターゲットとした新規心不全治療応用	降旗 高明	循環器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：相川 忠夫	相川 忠夫	循環器内科	2,000,000	補委	公益財団法人 難病医学研究財団
奨学寄附金：医学研究資金：相川 忠夫	相川 忠夫	循環器内科	800,000	補委	公益財団法人 磁気健康科学研究振興財団
光遺伝学を用いた心室細動誘発におけるプルキンエ線維網 - 心筋接合部の役割の解明	渡邊 昌也	循環器内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
中等度のQRS幅の拡大を認める左脚ブロック症例に対するaCRTを用いた心臓再同期療法に関する医師主導型臨床研究 (MID-Q)	渡邊 昌也	循環器内科	200,000	補委	国立大学法人 筑波大学 分任 契約担当役附 属病院長
奨学寄附金：医学研究資金：渡邊 昌也	渡邊 昌也	循環器内科	1,000,000	補委	公益財団法人 福田記念医療 技術振興財団
経皮的冠動脈形成術および冠動脈バイパス術の冠血流予備能に対する効果の検討	納谷 昌直	循環器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：納谷 昌直	納谷 昌直	循環器内科	1,000,000	補委	公益財団法人 三井生命厚生 財団
奨学寄附金：医学研究資金：福島 新	福島 新	循環器内科	500,000	補委	公益財団法人 喫煙科学研究 財団
奨学寄附金：医学研究資金：福島 新	福島 新	循環器内科	1,000,000	補委	公益財団法人 ヤクルト・バイオ サイエンス研究 財団
歯牙種発症に関する研究	菊入 崇	小児・障害者 歯科	1,820,000	補委	日本学術振興会
幼少期身体抑制を経験したラットのストレス反応性亢進と大脳辺縁系及び視床下部の関係	吉原 俊博	小児・障害者 歯科	1,820,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：第24回伊藤財団招聘助成：吉原 俊博	吉原 俊博	小児・障害者 歯科	70,000	補委	公益財団法人 伊藤医薬学術 交流財団
緑茶カテキンを応用した歯科う蝕予防材料の開発	中村 光一	小児・障害者 歯科	399,800	補委	公益財団法人 北海道科学技 術総合振興セン ター
複雑な乳歯根管系の制御－確実な歯根吸収抑制と吸収部修復機構発現の解明－	八若 保孝	小児・障害者 歯科	1,430,000	補委	日本学術振興会
SLC46A1新規変異を有した遺伝性葉酸吸収不全症に関する研究	野川 奈津子	歯学院・歯学研 究院・歯学部小 児・障害者歯科 学教室	1,040,000	補委	日本学術振興会
難治性神経芽腫に対するIL2、CSF併用ch14.18免疫療法の国内臨床開発	井口 晶裕	小児科	199,999	補委	地方独立行政 法人大阪市民 病院機構
GABA持続抑制不全の多様性がもたらすアンジェルマン症候群の病態解明と治療法開発	江川 潔	小児科	9,360,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：江川潔	江川 潔	小児科	1,500,000	補委	てんかん治療 研究振興財団
産科医・小児科医養成支援特別対策事業	山田 雅文	小児科	1,202,000	補委	北海道知事
インプリンティング疾患の病因病態解明	中村 明枝	小児科	1,300,000	補委	国立研究開発 法人国立成育 医療研究セン ター

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
北海道地区における希少難治性疾患の診断	中村 明枝	小児科	5,200,000	補委	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター
治験の実施に関する研究 [WT1ペプチドワクチン]	長 祐子	小児科	390,900	補委	公益社団法人 日本医師会 治験促進センター
子どもの言語機能はどのように形成され修復されるのか？—脳磁図による検討—	白石 秀明	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ミトコンドリア病診療マニュアルの改定を見据えた、診療に直結させるミトコンドリア病・各臨床病型のエビデンス創出研究	武田 充人	小児科	450,000	補委	千葉県がんセンター
全ゲノム解析とCRISPR/Cas9を応用した大腸癌肝転移に対する新規治療戦略	本間 重紀	消化器外科 I	1,820,000	補委	日本学術振興会
CDDP耐性肝芽腫におけるメチル化異常の解明と新規治療法の探求	荒 桃子	消化器外科 I	1,690,000	補委	日本学術振興会
転移性大腸癌における原発巣切除による免疫状態変化と予後に関する検討	市川 伸樹	消化器外科 I	1,300,000	補委	日本学術振興会
肝芽腫局所進展に関わるドライバージェノム変異の解明	砂原 正男	消化器外科 I	650,000	補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患活動性関連因子に関する基礎的研究	吉田 雅	消化器外科 I	1,300,000	補委	日本学術振興会
ヒト血管移植片に対する抗ドナー抗体の病的意義と免疫抑制性細胞による治療効果の検討	後藤 了一	消化器外科 I	1,170,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：後藤 了一	後藤 了一	消化器外科 I	230,000	補委	公益財団法人 伊藤医薬学術交流財団
14-3-3とNrf2の制御による革新的な心停止腎グラフトの灌流修復法の開発	深井 原	消化器外科 I	1,950,000	補委	日本学術振興会
肝癌細胞株における糖鎖異常と浸潤能との関連性の解析	神山 俊哉	消化器外科 I	1,430,000	補委	日本学術振興会
APC結合タンパクEB1による膵癌の放射線抵抗性の画期的診断とその分子機構の解明	折茂 達也	消化器外科 I	1,820,000	補委	日本学術振興会
大腸がん微小環境下における抗原提示細胞の機能制御を基軸とした新規治療法の開発	大野 陽介	消化器外科 I	1,170,000	補委	日本学術振興会
膵島移植における長期グラフト生着のための治療法の開発	渡辺 正明	消化器外科 I	1,950,000	補委	日本学術振興会
脂肪肝切除後の分子病態解明と抗酸化能増強による易障害性、易転移性克服法の開発	島田 慎吾	消化器外科 I	780,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：島田 慎吾	島田 慎吾	消化器外科 I	500,000	補委	公益信託榎川会外科医学研究助成基金 受託者 三井住友信託銀行
炎症性腸疾患における神経ペプチドシグナルの制御機構解明と疾患治療への応用	武富 紹信	消化器外科 I	5,590,000	補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患における神経ペプチドシグナルの制御機構解明と疾患治療への応用	武富 紹信	消化器外科 I	500,000	補委	日本学術振興会
化学療法抵抗性獲得機序におけるDGK α 高発現の意義の解明とその制御法の開発研究	武富 紹信	消化器外科 I	3,770,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌との共通メカニズムに基づく肝芽腫の新規分子診断・治療開発	本多 昌平	消化器外科 I	1,950,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：本多 昌平	本多 昌平	消化器外科 I	500,000	補委	公益信託榎川会外科医学研究助成基金 受託者 三井住友信託銀行
胃癌に対する新規蛍光腹腔鏡システムを用いた光線力学的術中リンパ節転移診断法の確立	海老原 裕磨	消化器外科 II	1,300,000	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
「胃癌センチネルリンパ節診断用近赤外線蛍光画像腹腔鏡システム」の研究開発	海老原 裕磨	消化器外科Ⅱ	1,620,000	補助元	公立千歳科学技術大学
医学生に対する献体を使用した内視鏡外科教育プログラム開発とその検証	七戸 俊明	消化器外科Ⅱ	3,900,000	補助元	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：七戸 俊明	七戸 俊明	消化器外科Ⅱ	2,000,000	補助元	公益財団法人テルモ生命科学芸術財団
膵癌におけるバイオマーカーの探索および新規治療法の開発	浅野 賢道	消化器外科Ⅱ	1,170,000	補助元	日本学術振興会
内視鏡外科修練に関する全国サーベイおよび修練プログラムモデルの開発	倉島 庸	消化器外科Ⅱ	1,300,000	補助元	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：倉島 庸	倉島 庸	消化器外科Ⅱ	100,000	補助元	公益財団法人杉野目記念会
地域における重症外傷患者の救命率改善を目指した新規DCSトレーニングコースの開発	村上 壮一	消化器外科Ⅱ	2,470,000	補助元	日本学術振興会
胆道癌リンパ節転移巣における浸潤・増殖機序に関する検討	中西 喜嗣	消化器外科Ⅱ	1,430,000	補助元	日本学術振興会
難治性固形癌の局所免疫環境に着目した手術期の個別化免疫化学療法の開発	土川 貴裕	消化器外科Ⅱ	1,170,000	補助元	日本学術振興会
増殖型レトロウイルスを用いた遺伝子治療を応用した膵癌の新規治療戦略	平野 聡	消化器外科Ⅱ	5,330,000	補助元	日本学術振興会
奨学寄付金：医学研究資金：平野 聡	平野 聡	消化器外科Ⅱ	500,000	補助元	公益財団法人光科学技術研究振興財団
奨学寄付金：医学研究資金：平野 聡	平野 聡	消化器外科Ⅱ	250,000	補助元	公益財団法人杉野目記念会
胆管狭窄に対する内視鏡下初回経乳頭的胆道ドレナージに伴う膵炎発症への内視鏡的乳頭括約筋切開術の影響を検証する多施設用無作為比較試験	加藤 新	消化器内科	1,000,000	補助元	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
肝硬変の組織病態を修復する新規細胞薬物治療法の探索	坂本 直哉	消化器内科	4,940,000	補助元	日本学術振興会
肝硬変の組織学的進展を抑制する糖鎖修飾構造を標的とした薬剤開発系の構築	坂本 直哉	消化器内科	3,120,000	補助元	日本学術振興会
薬物性肝障害の臨床試料収集と関連解析	坂本 直哉	消化器内科	2,400,000	補助元	公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団
慢性肝疾患の組織病態進展機構の解析および血清組織糖鎖の網羅的探索による予後予測マーカーの構築	坂本 直哉	消化器内科	34,500,000	補助元	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
間葉系幹細胞の培養上清を用いた内視鏡的粘膜下層剥離術後の食道狭窄予防	小野 尚子	消化器内科	1,430,000	補助元	日本学術振興会
Endocytoscopyを用いた生体内細胞観察による腸管GVHDの即時診断に関する検討	小野 尚子	消化器内科	500,000	補助元	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
B型肝炎ウイルスcccDNA排除を目指した新規抗ウイルス治療の開発	森川 賢一	消化器内科	1,560,000	補助元	日本学術振興会
C末端欠損HBx 遺伝子インテグレーションによる肝発癌・悪性化機構の検討	須田 剛生	消化器内科	1,560,000	補助元	日本学術振興会
羊膜由来間葉系幹細胞がもつEPA-レゾルビン産生と早産予防効果の検討	大西 俊介	消化器内科	1,040,000	補助元	日本学術振興会
クローン病に対する羊膜由来間葉系幹細胞のfirst-in-human臨床試験	大西 俊介	消化器内科	20,000,000	補助元	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
若手研究(B)16K1932406：中井 正人：HBV感染における自然免疫系センサー分子の探索	中井 正人	消化器内科	1,170,000	補助元	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脊髄空洞症の素因遺伝子解析	佐々木 秀直	神経内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
言語理解の脳内機構	大槻 美佳	神経内科	780,000	補委	日本学術振興会
家族性進行性核上性麻痺における遺伝子解析研究に基づいた進行性核上性麻痺の病態解析	矢部 一郎	神経内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
多系統萎縮症の自然歴と新規バイオマーカー開発に関する研究	矢部 一郎	神経内科	15,210,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
治験の実施に関する研究 [ペランパネル]	矢部 一郎	神経内科	466,512	補委	公益社団法人 日本医師会 治験促進センター
治験の実施に関する研究 [サリドマイド]	矢部 一郎	神経内科	490,860	補委	公益社団法人 日本医師会 治験促進センター
複合細胞移植による新規末梢神経再生方法の開発	永野 裕介	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
軸索再生に至適なシュワン細胞の同定	河村 太介	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
神経幹細胞移植による慢性期脊髄損傷での神経回路再形成	角家 健	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
末梢神経の軸索再生を支える細胞機構と接着因子の解明	角家 健	整形外科	14,427,345	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 理事長
奨学寄附金：医学研究資金：角家 健	角家 健	整形外科	1,400,000	補委	公益財団法人 住友電工グループ社会貢献基金
奨学寄附金：医学研究資金：角家 健	角家 健	整形外科	1,000,000	補委	公益財団法人 鈴木謙三記念 医科学応用研究財団
スフィンゴ糖脂質機能解析を基盤とした関節疾患の病態解明と新規治療法の開発	岩崎 倫政	整形外科	4,940,000	補委	日本学術振興会
被損傷靭帯に出現する幹細胞様細胞が移植腱再構築過程を促進する分子機序の統合的解明	近藤 英司	整形外科	4,160,000	補委	日本学術振興会
アポトーシス応答機構を標的とした椎間板変性制御に関する統合的研究	山田 勝久	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
変形性関節症制圧を目指した新規免疫ネットワーク解析手法を用いた治療薬の開発	小野寺 智洋	整形外科	1,820,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：小野寺 智洋	小野寺 智洋	整形外科	3,500,000	補委	公益社団法人 日本整形外科学会
手掌腱膜における線維化制御機構の解明	松井 雄一郎	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
高純度硬化性ゲルによる椎間板組織自然再生誘導法の開発と組織再生メカニズムの解明	須藤 英毅	整形外科	2,990,000	補委	日本学術振興会
椎間板変性に起因した痛みと関連する血清中糖鎖の網羅的探索	須藤 英毅	整形外科	3,510,000	補委	日本学術振興会
椎間板再生治療における組織修復材の開発	須藤 英毅	整形外科	87,860,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
シスプラチンを含む化学療法を施行される子宮がん患者の嘔気・嘔吐に対する六君子湯の効果?プラセボ対照無作為化二重盲検比較検証試験	須藤 英毅	整形外科	1,700,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
慢性腎臓病におけるミネラル結晶とコラーゲン分子の組織化障害をもたらす骨脆弱性	清水 智弘	整形外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：清水 智弘	清水 智弘	整形外科	150,000	補委	公益財団法人 日本股関節研究振興財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
奨学寄附金：医学研究資金：清水 智弘	清水 智弘	整形外科	800,000	補委	公益財団法人骨粗鬆症財団
奨学寄附金：医学研究資金：清水 智弘	清水 智弘	整形外科	2,000,000	補委	公益財団法人上原記念生命科学財団
脊髄損傷に対する新規神経保護薬の開発	浅野 毅	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
新撮像法の拡散尖度画像による、躁うつ病と大うつ病患者群間の大脳白質構造差異の検出	成田 尚	精神科神経科	910,000	補委	日本学術振興会
てんかん患者の基本的な皮膚電気活動を明らかにする	堀之内 徹	精神科神経科	2,470,000	補委	日本学術振興会
読字障害における中間表現型：認知・知覚機能のサブグループ化と介入支援方法の開発	柳生 一自	精神科神経科	1,040,000	補委	日本学術振興会
双極性障害に対する認知リハビリテーションと集団認知行動療法の有効性に関する研究	賀古 勇輝	精神科神経科	1,690,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：児童思春期精神医学研究部門	久住 一郎	精神科神経科	30,000,000	補委	札幌市長
新規陰性症状評価システムの構築と、陰性症状の生物学的基盤の探索	橋本 直樹	精神科神経科	1,690,000	補委	日本学術振興会
インターネットの利用と児童の睡眠に関する客観的指標を用いた前方視的研究	須山 聡	精神科神経科	1,820,000	補委	日本学術振興会
青年期の抑うつ症状と社交不安症状に関する包括的、縦断的検討	朝倉 聡	精神科神経科	1,820,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：豊巻 敦人	豊巻 敦人	精神科神経科	1,000,000	補委	公益財団法人不二たん白質研究振興財団
発達障害診療拠点機関の機能の整備と安定的な運営ガイドラインの作成のための研究	齊藤 卓弥	精神科神経科	4,000,000	補委	厚生労働省
札幌市児童精神科医療提供体制構築・運用に関する共同研究事業	齊藤 卓弥	精神科神経科	2,300,000	補委	札幌市
外傷急性期の線溶亢進から線溶抑制への病態解明	早川 峰司	先進急性期医療センター	2,080,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：早川 峰司	早川 峰司	先進急性期医療センター	300,000	補委	公益信託 丸茂敦急医学研究振興基金 受託者株式会社 社りそな銀行
脂肪肝グRAFTのミトコンドリア機能と抗酸化能を増強する画期的な肝体外灌流法の開発	嶋村 剛	臓器移植医療部	3,400,000	補委	日本学術振興会
正常血管に作用しない悪性腫瘍特異的血管新生阻害剤のハイスループットスクリーニング	樋田 泰浩	地域医療連携福祉センター	3,648,469	補委	日本学術振興会
非小細胞肺癌手術適応症例に対する周術期hANP投与の多施設共同ランダム化第II相比較試験 (JANP study)	樋田 泰浩	地域医療連携福祉センター	702,000	補委	国立研究開発法人国立循環器病研究センター
脂質メディエーター制御因子AIMの喘息・アレルギー病態における役割の解明	木村 裕樹	内科 I	1,500,000	補委	日本学術振興会
肥満が気管支喘息病態に及ぼす分子生物学的機序の解明	今野 哲	内科 I	1,300,000	補委	日本学術振興会
肺癌組織系の違いによるNumbの肺癌増殖に対する機能について	榊原 純	内科 I	1,040,000	補委	日本学術振興会
高齢者化学療法未施行IIIB/IV期扁平上皮肺癌に対するnab-Paclitaxel + Carboplatin併用療法とDocetaxel単剤療法のランダム化第III相試験	榊原 純	内科 I	108,000	補委	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
治験の実施に関する研究 [レンバチニブ (胸腺癌)]	榊原 純	内科 I	474,500	補委	公益社団法人日本医師会 治験促進センター

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
希少遺伝子変異を有する小細胞肺癌に対する新規治療法の確立に関する研究	榊原 純	内科 I	500,000	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
遺伝子スクリーニング基盤 (LC-SCRUM-Japan) を利用した、MET遺伝子異常陽性の進行非小細胞肺癌に対する治療開発を目指した研究	榊原 純	内科 I	650,000	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
ROS1融合遺伝子陽性の進行固形がんに対する治療開発を目指した研究	榊原 純	内科 I	650,000	補委	国立研究開発法人 国立がん研究センター
第3世代EGFR-TKI投与後のIGFシグナル関連分子の発現に関する研究	水柿 秀紀	内科 I	1,430,000	補委	日本学術振興会
呼吸器疾患における気腫・気道・血流の総合的評価法の確立	清水 薫子	内科 I	1,170,000	補委	日本学術振興会
閉塞性肺疾患の多様性の理解と個別化治療に向けた探索的研究	西村 正治	内科 I	9,140,000	補委	日本学術振興会
閉塞性肺疾患の多様性の理解と個別化治療に向けた探索的研究	西村 正治	内科 I	1,500,000	補委	日本学術振興会
肺疾患合併肺高血圧症における心筋および骨格筋評価系の確立と臨床応用	辻野 一三	内科 I	2,730,000	補委	日本学術振興会
末梢血エクソソームRNA解析による閉塞性肺疾患の類似性・相違点・合併病態の解明	鈴木 雅	内科 I	1,560,000	補委	日本学術振興会
生体内の異物・不要物排除機構の解明とその制御による疾患治療	鈴木 雅	内科 I	3,900,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 理事長
遺伝子発現制御機構に基づく自己免疫疾患の患者層別化と個別化医療基盤の確立	渥美 達也	内科 II	1,209,000	補委	国立大学法人 東京大学
治験の実施に関する研究 [トシリズマブ]	渥美 達也	内科 II	199,999	補委	公益社団法人 日本医師会 治験促進センター
抗リン脂質抗体症候群の流産モデルマウスの作成	奥 健志	内科 II	1,560,000	補委	日本学術振興会
滑膜線維芽細胞特異的オートファジーの制御を介した関節リウマチの新規治療法開発	加藤 将	内科 II	1,560,000	補委	日本学術振興会
多発性嚢胞腎における嚢胞増悪の機序、および予後予測因子の解明	西尾 妙織	内科 II	1,430,000	補委	日本学術振興会
保存期慢性腎臓病患者を対象とした臨床研究—ダルベポエチンアルファ製剤低反応に関する検討— (BRIGHTEN)	西尾 妙織	内科 II	752,328	補委	公益財団法人 神戸医療産業都市推進機構
好中球プログラム細胞死をターゲットにしたANCA関連腎炎の新規治療開発	中沢 大悟	内科 II	1,690,000	補委	日本学術振興会
抗リン脂質抗体症候群における自己抗体産生機序の解明	藤枝 雄一郎	内科 II	1,430,000	補委	日本学術振興会
全身性自己免疫疾患におけるRasGRPシグナル異常の解明とその是正	保田 晋助	内科 II	1,300,000	補委	日本学術振興会
インフリキシマブ投与下で寛解または低疾患活動性にある関節リウマチ患者を対象としたインフリキシマブ休薬療法における、関節超音波を用いた再発予測精度ならびにインフリ	保田 晋助	内科 II	106,920	補委	国立大学法人 千葉大学
晩期再発乳癌の予測因子の同定と再発メカニズムの解明 —個別化治療を目指して	山下 啓子	乳腺外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
iPSを用いた難病Moyamoya病に対する慢性炎症の関与に関する基盤研究	穂刈 正昭	脳神経外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
悪性グリオーマに対するケモタキシスを応用した細胞誘殺療法の研究	茂木 洋晃	脳神経外科	1,820,000	補委	日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脳虚血再灌流障害に対するスフィンゴリン脂質の保護効果	川堀 真人	脳神経外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
ソフトマター工学を利用した“見える”粒子塞栓物質の開発	長内 俊也	脳神経外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：長内 俊也	長内 俊也	脳神経外科	2,000,000	補委	公益財団法人 小林国際奨学財団
冷却人工酸素運搬体の経動脈選択的投与による脳保護療法の開発	鏡谷 武雄	脳神経外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
もやもや病（ウイルス動脈輪閉塞症）の診断・治療に関する研究	寶金 清博	脳神経外科	8,750,000	補委	厚生労働省
脳梗塞再発高リスク患者を対象とした抗血小板薬併用療法の有効性及び安全性の検討	寶金 清博	脳神経外科	151,200	補委	公益財団法人 循環器病研究振興財団
脳梗塞急性期患者を対象とした自家BMSC脳内投与による再生治療の第1相試験（RAINBOW研究）	寶金 清博	脳神経外科	92,937,860	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
もやもや病iPS由来血管内皮細胞でみられるインテグリン発現低下の病態的意義の解明	濱内 祝嗣	脳神経外科	390,000	補委	日本学術振興会
下部尿路閉塞膀胱の慢性期における膀胱リモデリングとセロトニン受容体に関する研究	菅野 由岐子	泌尿器科	910,000	補委	日本学術振興会
高信頼性内視鏡外科医育成のための継続的教育モデルの構築	安部 崇重	泌尿器科	1,560,000	補委	日本学術振興会
ダイオキシン類介在性のアンドロゲン受容体変異体分解による去勢抵抗性前立腺癌の制御	丸山 覚	泌尿器科	780,000	補委	日本学術振興会
HLA構造解析を用いた腎移植後慢性拒絶反応発症リスク評価アルゴリズムの確立	岩見 大基	泌尿器科	1,820,000	補委	日本学術振興会
胎児期の環境化学物質曝露が性分化に与える影響と遺伝子多型による修飾	今 雅史	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会
腫瘍血管トランスポーター阻害による尿路上皮癌薬剤耐性の克服	篠原 信雄	泌尿器科	1,560,000	補委	日本学術振興会
胎児期の内分泌かく乱物質への曝露が性分化・性腺機能に及ぼす影響に関する研究	守屋 仁彦	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会
根治療法後に再発を来した非転移性の去勢抵抗性前立腺癌に対するエンザルタミドの臨床効果および安全性の検討	松本 隆児	泌尿器科	226,800	補委	公益財団法人 神戸医療産業都市推進機構
膀胱がんサバイバーの患者立脚型アウトカムを適切に測定できるQOL評価法の確立	大澤 崇宏	泌尿器科	1,820,000	補委	日本学術振興会
腎移植における慢性抗体関連型拒絶反応の早期診断法の開発	堀田 記世彦	血液浄化部	2,470,000	補委	日本学術振興会
創傷治癒における上皮系幹細胞のダイナミクス	夏賀 健	皮膚科	2,080,000	補委	日本学術振興会
表皮水疱症の治療最適化戦略	夏賀 健	皮膚科	10,400,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 理事長
奨学寄附金：医学研究資金：夏賀 健	夏賀 健	皮膚科	2,500,000	補委	公益財団法人 マルホ・高木皮膚科学振興財団
自己免疫性水疱症発症におけるTh17細胞の働きの解明	岩田 浩明	皮膚科	1,300,000	補委	日本学術振興会
水疱性類天疱瘡抗原反応性T細胞株の樹立と応用	氏家 英之	皮膚科	5,720,000	補委	日本学術振興会
奨学寄附金：医学研究資金：氏家 英之	氏家 英之	皮膚科	3,000,000	補委	公益財団法人 武田科学振興財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
奨学寄附金：医学研究資金：氏家 英之	氏家 英之	皮膚科	1,500,000	補委	公益財団法人 寿原記念財団
奨学寄附金：医学研究資金：氏家 英之)	氏家 英之	皮膚科	2,000,000	補委	公益財団法人 小林国際奨学 財団
劣性栄養障害型表皮水疱症の線維芽細胞が創傷治癒と癌発生に果たす機能を解明する	秦 洋郎	皮膚科	1,430,000	補委	日本学術振興 会
復帰変異モザイク表皮水疱症モデルマウスの作製と新規遺伝子治療法の開発	清水 宏	皮膚科	12,350,000	補委	日本学術振興 会
先天性魚鱗癬における自然治癒機構の解明	清水 宏	皮膚科	10,400,000	補委	日本学術振興 会
免疫寛容が破綻し発症する画期的水疱性類天疱瘡モデルの作成と応用	西江 渉	皮膚科	5,460,000	補委	日本学術振興 会
奨学寄附金：医学研究資金：西江 渉	西江 渉	皮膚科	1,500,000	補委	公益財団法人 寿原記念財団
奨学寄附金：医学研究資金：西江 渉	西江 渉	皮膚科	1,000,000	補委	公益財団法人 大和証券ヘルス 財団
奨学寄附金：医学研究資金：西江 渉	西江 渉	皮膚科	1,000,000	補委	公益財団法人 中富健康科学 振興財団
水疱性類天疱瘡におけるIgE自己抗体を介した紅斑形成機序の解明	泉 健太郎	皮膚科	2,080,000	補委	日本学術振興 会
遺伝性疾患に対するリードスルー治療の開発	乃村 俊史	皮膚科	400,000	補委	公益財団法人 北海道科学技 術総合振興セン ター
アレルギー性皮膚疾患の発症基盤の解明	乃村 俊史	皮膚科	3,120,000	補委	日本学術振興 会
奨学寄附金：医学研究資金：乃村 俊史	乃村 俊史	皮膚科	2,000,000	補委	公益財団法人 武田科学振興 財団
紫外線皮膚障害と癌化におけるミトコンドリア分裂関連分子の機能解析	柳 輝希	皮膚科	1,820,000	補委	日本学術振興 会
奨学寄附金：医学研究資金：柳 輝希	柳 輝希	皮膚科	1,000,000	補委	公益財団法人 興和生命科学 振興財団
奨学寄附金：医学研究資金：柳 輝希	柳 輝希	皮膚科	500,000	補委	公益財団法人 秋山記念生命 科学振興財団
RH0シグナル経路制御分子群を用いた新規の膀胱癌分子診断法および標的治療法の開発	三橋 智子	病理診断科	1,560,000	補委	日本学術振興 会
腫瘍溶解アデノウイルスの効果増強のための試み	松田 彩	病理診断科	1,690,000	補委	日本学術振興 会
NKG2DシステムによるuNK細胞制御と胎盤形成の検討	大塚 紀幸	病理診断科	1,300,000	補委	日本学術振興 会
ジスルフィド結合を介したタイト結合機能調節：細胞増殖因子としての機能解明	田中 敏	病理診断科	1,430,000	補委	日本学術振興 会
奨学寄附金：医学研究資金：森川 守	森川 守	産科	627,000	補委	公益財団法人 北海道対がん協 会
子宮体癌の微小環境を増悪させるマイクロRNA-EZH2フィードバックループの解明	金野 陽輔	婦人科	1,300,000	補委	日本学術振興 会
奨学寄附金：保健科学研究資金：佐川 正	佐川 正	婦人科	433,500	補委	公益財団法人 北海道対がん協 会
奨学寄附金：医学研究資金：三田村 卓	三田村 卓	婦人科	2,000,000	補委	公益財団法人 武田科学振興 財団

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
奨学寄附金：医学研究資金：三田村 卓	三田村 卓	婦人科	2,000,000	補委	公益財団法人 小林国際奨学 財団
子宮平滑筋肉腫の高悪性度を規定する遺伝子異常の解析	渡利 英道	婦人科	1,300,000	補委	日本学術振興 会
リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対する標準的リンパ節郭清確立のための多施設共同臨床試験	渡利 英道	婦人科	18,050,000	補委	国立研究開発 法人 日本医療 研究開発機構
奨学寄附金：医学研究資金：渡利 英道	渡利 英道	婦人科	627,000	補委	公益財団法人 北海道対がん協 会
シスプラチンを含む化学療法を施行される子宮がん患者の嘔気・嘔吐に対する六君子湯の効果-プラセボ対照無作為化二重盲検比較検証試験	渡利 英道	婦人科	1,700,000	補委	国立研究開発 法人 日本医療 研究開発機構
肺胞蛋白症診療に直結するエビデンス創出研究：重症難治例の診断治療管理	長 和俊	周産母子セン ター	200,000	補委	独立行政法人 国立病院機構 近畿中央呼吸 器センター
陽子線照射の線量率とLET変動を同時に考慮した治療効果評価システムの開発	松浦 妙子	分子追跡放射線 医療寄附研究部 門	1,950,000	補委	日本学術振興 会
低酸素癌を標的とした陽子線治療に関する研究	安田 耕一	放射線治療科	650,000	補委	日本学術振興 会
Radiomicsを用いた肝癌に対する“個別化”陽子線治療法の確立	加藤 徳雄	放射線治療科	1,300,000	補委	日本学術振興 会
確率論的LQモデルによる放射線治療効果予測法の研究	鬼丸 力也	放射線治療科	910,000	補委	日本学術振興 会
次世代の体幹部定位放射線治療を実現する動体追跡回転照射の基盤技術開発	宮本 直樹	放射線治療科	3,900,000	補委	日本学術振興 会
生体表面と内部ランドマークの同時計測によるリアルタイム生体内部再構成手法の創出	宮本 直樹	放射線治療科	2,080,000	補委	日本学術振興 会
CBCT画像を用いた線量評価に基づく治療効果誘導放射線治療技術の開発	高尾 聖心	放射線治療科	1,300,000	補委	日本学術振興 会
微小空間画像による極低侵襲・マーカーレス実時間画像誘導放射線治療技法の開発	清水 伸一	放射線治療科	6,500,000	補委	日本学術振興 会
陽子線治療の多施設臨床試験の臨床試験計画と立案・実施とスキャニング照射法の臨床応用	清水 伸一	放射線治療科	200,000	補委	国立研究開発 法人 国立がん 研究センター
量子線手術（クオラム・ビーム・サージェリー）と放射線照射後手術における治療術中の迅速な判断・決定を支援するための診断支援機器・システム開発	清水 伸一	放射線治療科	29,292,477	補委	国立研究開発 法人 日本医療 研究開発機構
動体追跡技術を発展させ、がん標的の3次元形状と位置の時間的変化を把握する実体適合陽子線治療(Real-world Adaptive Proton Beam Therapy)システムのP	清水 伸一	放射線治療科	62,812,100	補委	国立研究開発 法人 日本医療 研究開発機構
人工知能を用いて管腔臓器の位置および形状を予測・追跡する技術の開発	西岡 健太郎	放射線治療科	1,430,000	補委	日本学術振興 会
ヘリウム・陽子線ハイブリッド治療の研究開発	白土 博樹	放射線治療科	4,290,000	補委	日本学術振興 会
微粒子腫瘍マーカとリアルタイム3次元透視を融合した次世代高精度粒子線治療技術の開発	白土 博樹	放射線治療科	141,962,000	補委	国立研究開発 法人 日本医療 研究開発機構
奨学寄附金：医学研究資金：菊池 穏香	菊池 穏香	放射線診断科	1,000,000	補委	公益社団法人 日本医学放射 線学会
リアルタイム水晶体被ばく計測システム構築のための基礎的検討	作原 祐介	放射線診断科	910,000	補委	日本学術振興 会
心サルコイドーシス診断における包括的全身造影CT検査および解析法の確立	真鍋 徳子	放射線診断科	1,040,000	補委	日本学術振興 会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
動物モデルによる死後造影画像解析と組織学的検討・死後画像診断への応用	兵頭 秀樹	放射線診断科	260,000	補委	日本学術振興会
乳癌の個別化治療に向けたMRIのRadiomics解析による治療効果予測	加藤 扶美	放射線部	910,000	補委	日本学術振興会
0-17酸素MRIによる細胞内代謝の仮視化	工藤 與亮	放射線部	4,940,000	補委	日本学術振興会
QSMとVBMのハイブリッド撮像・解析による認知症の早期診断MRI	工藤 與亮	放射線部	111,910,805	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
酸素の安定同位体0-17を用いた次世代MRI検査法の開発	工藤 與亮	放射線部	70,000,000	補委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 理事長
マイクロカテーテルのカニューレシオン難易度解明と科学的トレーニングシステムの開発	曾山 武士	放射線部	2,080,000	補委	日本学術振興会
老化促進マウスにおける敗血症関連脳障害の機序ー神経炎症からの検討ー	干野 晃嗣	麻酔科	1,817,202	補委	日本学術振興会
老化促進モデルマウスを用いた術後高次脳機能障害ならびに認知症への麻酔・手術の影響	森本 裕二	麻酔科	1,430,000	補委	日本学術振興会
成熟型延髄呼吸中枢におけるノシセプチンの役割と責任部位の解明	瀧田 恒一	麻酔科	2,210,000	補委	日本学術振興会
抗MRSA薬ダプトマイシンによる骨格筋毒性回避のための基盤研究	山田 武宏	薬剤部	650,000	補委	日本学術振興会
最適なBCR-ABL-TKI選択のための簡便なABL変異検出法の確立	仁木 加寿子	薬剤部	30,000	補委	日本学術振興会
分子標的抗がん薬の適正使用を目指した至適血中濃度の確立	田澤 佑基	薬剤部	530,000	補委	日本学術振興会
水分負荷に着目したシスプラチン起因性腎障害に対する簡便かつ効果的な予防法の探索	齋藤 佳敬	薬剤部	340,000	補委	日本学術振興会

計345

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Goudarzi H, Konno S, Kimura H, et al.	内科 I	Contrasting associations of maternal smoking and pre-pregnancy BMI with wheeze and eczema in children*	Sci Total Environ,639:1601-1609,2018年10月	Original Article
2	Goudarzi H, Konno S, Kimura H, et al.	内科 I	Impact of Abdominal Visceral Adiposity on Adult Asthma Symptoms	J Allergy Clin Immunol Pract,7(4):1222-1229,2019年4月	Original Article
3	Kimura H, Konno S, Makita H, et al.	内科 I	Prospective predictors of exacerbation status in severe asthma over a 3-year follow-up	Clin Exp Allergy,48(9):1137-1146,2018年9月	Original Article
4	Kimura H, Konno S, Makita H, et al.	内科 I	Serum periostin is associated with body mass index and allergic rhinitis in healthy and asthmatic subjects	Allergol Int,67(3):357-363,2018年7月	Original Article
5	Konno S, Shigemura M, Ogi T, et al.	内科 I	Clinical Course of Histologically Proven Multifocal Micronodular Pneumocyte Hyperplasia in Tuberos Sclerosis Complex: A Case Series and Comparison with Lymphangiomatosis	Respiration,95(5):310-316,2018年	Original Article
6	Konno S, Taniguchi N, Makita H, et al.	内科 I	Distinct Phenotypes of Smokers with Fixed Airflow Limitation Identified by Cluster Analysis of Severe Asthma	Ann Am Thorac Soc,15(1):33-41,2018年1月	Original Article
7	Matsumoto M, Konno S, Kimura H, et al.	内科 I	Associations of Current Wheeze and Body Mass Index with Perennial and Seasonal Allergic Rhinitis in Young Adults*	Int Arch Allergy Immunol,176(2):143-149,2018年	Original Article
8	Shimizu K, Konno S, Makita H, et al.	内科 I	Transfer coefficients better reflect emphysematous changes than carbon monoxide diffusing capacity in obstructive lung diseases	Appl Physiol, 125(1):183-189,2018年7月	Original Article
9	Takashima Y, Sakibara-Konishi J, Hatanaka Y, et al.	内科 I	Clinicopathologic Features and Immune Microenvironment of Non-Small-cell Lung Cancer With Primary Resistance to Epidermal Growth Factor Receptor Tyrosine Kinase Inhibitors*	Clin Lung Cancer,19(4):352-359,2018年7月	Original Article
10	Nakamura A, Miyoshi H, Ukawa S, et al.	内科 II	Serum adiponectin and insulin secretion: A direct or inverse association?	J Diabetes Investig. 9: 1106-1109, 2018	Original Article
11	Cho KY, Nakamura A, Omori K, et al.	内科 II	Effect of switching from pioglitazone to the SGLT2 inhibitor dapagliflozin on body weight and metabolism-related factors in patients with type-2 diabetes mellitus: An open-label, prospective, randomized, parallel-group comparison trial.	Diabetes Obes Metab. 21: 710-714, 2019	Original Article
12	Nomoto H, Miyoshi H, Nakamura A, et al.	内科 II	Potential importance of histopathological analysis in thyroidal diseases with high serum IgG4 levels.	Intern Med. 57: 453, 2018.	Letter
13	Nomoto H, Oita M.	内科 II	Thyrotoxicosis in Graves' disease with invasive laryngeal cancer.	Intern Med. 57: 1495-1496, 2018.	Letter
14	Nomoto H, Miyoshi H, Sekizaki T, et al.	内科 II	Comment on "Elevation of Serum Carcinoembryonic Antigen Concentration Caused by Everolimus-Induced Lung Injury: A Case Report".	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 24: 165-166, 2018.	Letter
15	Yamamoto K, Miyoshi H, Cho KY, et al.	内科 II	Overexpression of perilipin1 protects against atheroma progression in apolipoprotein E knockout mice.	Atherosclerosis. 269: 192-196, 2018.	Original Article
16	Yamamoto K, Miyoshi H, Cho KY, et al.	内科 II	The data of change in macrophage gene expression which induced by perilipin 1 overexpression.	Data Brief. 19: 179-182, 2018.	Review
17	Miya A, Nakamura A, Miyoshi H, et al.	内科 II	Satisfaction of switching to combination therapy with lixisenatide and basal insulin in patients with type 2 diabetes receiving multiple daily insulin injection therapy: a randomized controlled trial.	J Diabetes Investig. 9: 119-126, 2018.	Original Article
18	Miya A, Nakamura A, Miyoshi H, et al.	内科 II	Impact of glucose loading on variations in CD4+ and CD8+ T cells in Japanese participants with or without type 2 diabetes.	Front Endocrinol (Lausanne). 9: 81, 2018.	Original Article
19	Kitao N, Nakamura A, Miyoshi H, et al.	内科 II	The role of glucokinase and insulin receptor substrate-2 in the proliferation of pancreatic beta cells induced by short-term high-fat diet feeding in mice.	Metabolism. 85: 48-58, 2018.	Original Article
20	Takahashi K, Nakamura A, Miyoshi H, et al.	内科 II	Effect of the sodium-glucose cotransporter 2 inhibitor luseogliflozin on pancreatic beta cell mass in db/db mice of different ages.	Sci Rep. 8: 6864, 2018.	Original Article
21	Takahashi K, Cho KY, Nakamura A, et al.	内科 II	Should sulfonylurea be discontinued or maintained at the lowest dose when starting ipragliflozin? A multicentre observational study in Japanese patients with type 2 diabetes.	J Diabetes Investig. 10: 429-438, 2018.	Original Article
22	Takase T, Nakamura A, Yamamoto C, et al.	内科 II	Improvement in the proinsulin/C-peptide ratio during treatment with ipragliflozin in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus.	Expert Opin Pharmacother. 19: 631-632, 2018.	Letter
23	Takase T, Nakamura A, Yamamoto C, et al.	内科 II	Improvement in treatment satisfaction after switching from liraglutide to dulaglutide in patients with type 2 diabetes: a randomized controlled trial.	J Diabetes Investig. 10: 699-705, 2019	Original Article
24	Omori K, Nomoto H, Nakamura A, et al.	内科 II	Reduction in glucose fluctuations in elderly patients with type 2 diabetes using repaglinide: a randomized controlled trial of repaglinide vs. sulfonylurea.	J Diabetes Investig. 10: 367-374, 2019	Original Article
25	Shibayama Y, Wada N, Baba S, et al.	内科 II	Relationship between visceral fat and plasma aldosterone concentration in patients with primary aldosteronism.	J Endocr Soc. 2: 1236-1245, 2018.	Original Article
26	Oita M, Miyoshi H, Ono K, et al.	内科 II	Satisfaction and efficacy of switching from daily dipeptidyl peptidase-4 inhibitors to weekly trelagliptin in patients with type 2 diabetes -Randomized controlled study-.	Endocr J. 65: 141-150, 2018.	Original Article
27	Yanagiya S, Cho KY, Nakamura A, et al.	内科 II	The effect of everolimus on refractory hypoglycemia in a patient with inoperable metastatic insulinoma evaluated by continuous glucose monitoring.	Intern Med. 57: 2527-253, 2018.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
28	Sekizaki T, Yamamoto C, Nomoto H.	内科Ⅱ	Two Cases of Transiently Elevated Serum CEA Levels in Severe Hypothyroidism without Goiter.	Intern Med. 57: 2523-2526, 2018	Case report
29	Ujite H, Muramatsu K, Mushiroda T, et al.	内科Ⅱ	HLA-DQB1*03:01 as a biomarker for genetic susceptibility to bullous pemphigoid induced by DPP-4 inhibitors.	J Invest Dermatol. 138: 1201-1204, 2018.	Letter
30	Babu GR, Nakamura A, Erzen DJ.	内科Ⅱ	Can short stature be a screening criteria for GDM?	Front Endocrinol (Lausanne). 9: 575, 2018.	Letter
31	Atsumi T, Ando Y, Matsuda S, et al.	内科Ⅱ	Prodromal signs and symptoms of serious infections with tocilizumab treatment for rheumatoid arthritis: Text mining of the Japanese postmarketing adverse event-reporting database.	Mod Rheumatol 28(3):435-443, 2018	Original Article
32	Atsumi T, Fujio K, Yamaoka K, et al.	内科Ⅱ	Safety and Effectiveness of Subcutaneous Tocilizumab in Patients With Rheumatoid Arthritis in a Real-World Clinical Setting.	Mod Rheumatol. 28(5):780-788, 2018	Original Article
33	Kanda M, Atsumi T.	内科Ⅱ	Thrombopoietin mimetics for systemic lupus erythematosus with antiphospholipid antibodies should be discussed separately.	Lupus 27(11):1876-1877, 2018	Letter
34	Watanabe T, Fukae J, Fukaya S, et al.	内科Ⅱ	Incidence and risk factors for reactivation from resolved hepatitis B virus in rheumatoid arthritis patients treated with biological disease-modifying antirheumatic drugs.	Int J Rheum Dis. 22(4):574-582, 2019	Original Article
35	Shimizu Y, Yasuda S, Kimura T, et al.	内科Ⅱ	Interferon-Inducible Mx1 protein is highly expressed in renal tissues from treatment-naïve lupus nephritis, but not in those under immunosuppressive treatment.	Mod Rheumatol. 28(4):661-669, 2018	Original Article
36	Yasuda S.	内科Ⅱ	Emerging targets for the treatment of lupus erythematosus: There is no royal road to treating lupus.	Mod Rheumatol. 29(1):60-69, 2019	Review
37	Amengual O, Atsumi T.	内科Ⅱ	Antiphospholipid syndrome, "the best prophet of the future".	Mod Rheumatol. 28(4):409-416, 2018	Review
38	Oku K, Atsumi T, Akiyama Y, Amano H, et al.	内科Ⅱ	Evaluation of the alternative classification criteria of systemic lupus erythematosus established by Systemic Lupus International Collaborating Clinics (SLICC).	Mod Rheumatol. 28(5):758-65, 2018	Original Article
39	Watanabe T, Oku K, Amengual O, et al.	内科Ⅱ	Effects of statins on thrombosis development in patients with systemic lupus erythematosus and antiphospholipid antibodies.	Lupus 27:225-34, 2018	Original Article
40	Kato M, Hisada R, Atsumi T.	内科Ⅱ	Clinical profiles and risk assessment in patients with antiphospholipid antibodies.	Expert Rev Clin Immunol. 15(1):73-81, 2019	Review
41	Kato M, Yasuda S, Atsumi T.	内科Ⅱ	The role of genetics and epigenetics in rheumatic diseases: Are they really a target to be aimed at?	Rheumatol Int. 38(8):1333-1338, 2018	Review
42	Kato M, Atsumi T.	内科Ⅱ	Pulmonary arterial hypertension associated with connective tissue diseases: a review focusing on distinctive clinical aspects.	Eur J Clin Invest. 48(2), 2018	Review
43	Ohmura K, Kato M, Watanabe T, et al.	内科Ⅱ	Effect of combined treatment with bisphosphonate and vitamin D on atherosclerosis in patients with systemic lupus erythematosus: a propensity score-based analysis.	Arthritis Res Ther.17:20(1):72, 2018	Original Article
44	Fujieda Y, Mader S, Jegathan V, et al.	内科Ⅱ	Clinical significance of anti-DNA/N-methyl-D-aspartate receptor 2 antibodies in de novo and post-steroid neuropsychiatric systemic lupus erythematosus.	Int J Rheum Dis. 22(3):443-448, 2019	Original Article
45	Fujieda Y, Amengual O, Atsumi T.	内科Ⅱ	Pathogenic role of antiphospholipid antibodies: an update.	Lupus. 27(13):2012-2013, 2018	Review
46	Kono M, Yoshida N, Maeda K, et al.	内科Ⅱ	Transcriptional factor ICER promotes glutaminolysis and the generation of Th17 cells.	Proc Natl Acad Sci U S A. 115(10):2478-2483, 2018.	Original Article
47	Kono M, Yoshida N, Maeda K, et al.	内科Ⅱ	Pyruvate dehydrogenase phosphatase catalytic subunit 2 limits Th17 differentiation.	Proc Natl Acad Sci U S A. 115(37):9288-9293, 2018	Original Article
48	Nakamura H, Shimamura S, Yasuda S, et al.	内科Ⅱ	Ectopic RASGRP2 (CalDAG-GEFI) expression in rheumatoid synovium contributes to the development of destructive arthritis.	Ann Rheum Dis. 77(12):1765-1772, 2018	Original Article
49	Nakamura H, Oku K, Amengual O, et al.	内科Ⅱ	First-line, non-criteria antiphospholipid antibody testing for the diagnosis of antiphospholipid syndrome in clinical practice: a combination of anti-beta2-glycoprotein I domain I and anti-phosphatidylserine/prothrombin complex antibodies tests.	Arthritis Care Res (Hoboken). 70(4): 627-34, 2018.	Original Article
50	Nakamura H, Oku K, Ogata Y, et al.	内科Ⅱ	Alternative pathway activation due to low level of complement factor H in primary antiphospholipid syndrome.	Thromb Res. 164: 63-8, 2018.	Original Article
51	Nakamura H, Odani T, Yasuda S, et al.	内科Ⅱ	Autologous haematopoietic stem cell transplantation for Japanese patients with systemic sclerosis: long-term follow-up on a phase II trial and treatment-related fatal cardiomyopathy.	Mod Rheumatol. 28(5): 879-84, 2018.	Original Article
52	Nakamura H, Kato M, Noguchi A, et al.	内科Ⅱ	Efficient detection of pulmonary arterial hypertension using serum haptoglobin level and cardiac MRI in patients with connective tissue diseases: a pilot study.	Clin Exp Rheumatol. 36(2): 345-6,2018.	Letter
53	Nakamura H, Fujieda Y, Yasuda S, et al.	内科Ⅱ	Remission of Nephrotic Syndrome after Therapy for Chronic Hepatitis C Infection in a Patient with Systemic Lupus Erythematosus.	Ann Intern Med. 4; 169(5):352-353,2018.	Letter
54	Hisada R, Kato M, Ohnishi N, et al.	内科Ⅱ	Antiphospholipid score is a novel risk factor for idiopathic osteonecrosis of the femoral head in patients with systemic lupus erythematosus.	Rheumatology (Oxford). 58(4):645-649, 2019	Original Article
55	Tanimura S, Kato M, Abe N, et al.	内科Ⅱ	Successful treatment of tocilizumab-resistant large vessel pulmonary arteritis with infliximab.	Immunol Med. 41(1): 39-42, 2018.	Case report
56	Kono M, Kurita T, Yasuda S, et al.	内科Ⅱ	Decreased expression of Serine/arginine-rich splicing factor 1 in T cells from patients with active systemic lupus erythematosus accounts for reduced expression of RasGRP1 and DNA methyltransferase 1.	Arthritis Rheumatol. 70(12): 2046-2056, 2018	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
57	Kono M, Yasuda S, Kono Michihito, et al.	内科Ⅱ	Tocilizumab reduced production of systemic sclerosis-related autoantibodies and anti-cyclic citrullinated protein antibodies in two patients with overlapping systemic sclerosis and rheumatoid arthritis.	Scand J Rheumatol 47:248-50, 2018	Letter
58	Ohnishi N, Fujieda Y, Hisada R, et al.	内科Ⅱ	Efficacy of dual antiplatelet therapy for preventing recurrence of arterial thrombosis in patients with antiphospholipid syndrome.	Rheumatology (Oxford). 58(6):969-974, 2019	Original Article
59	Abe N, Fujieda Y, Nagaoka K, et al.	内科Ⅱ	Disseminated cryptococcosis with bronchiolitis and cellulitis.	Am J Respir Crit Care Med. 199(2):235-236, 2019	Case report
60	Abe N, Oku K, Amengual O, et al.	内科Ⅱ	Potential therapeutics for antiphospholipid antibody associated thrombocytopenia: a systematic review and meta-analysis.	Mod Rheumatol. 2018 Dec 17:1-21. doi: 10.1080/14397595.2018.1558934. [Epub ahead of print]	Original Article
61	Karino K, Fujieda Y, Kawamura T, et al.	内科Ⅱ	Anti-TIF1 γ antibody predicted malignancy of thymic tumor with dermatomyositis as an "autoimmune tumor marker" a case report	Medicine (Baltimore). 97(49):e13563, 2018	Case report
62	Nakazawa D, Desai J, Steiger S, et al.	内科Ⅱ	Activated platelets induce MLKL-driven neutrophil necroptosis and release of neutrophil extracellular traps in venous thrombosis.	Cell Death Discov. 2018 Jun 28;4:6	Original Article
63	Shida H, Hashimoto N, Kusunoki Y, et al.	内科Ⅱ	Anti-neutrophil extracellular trap antibody in a patient with relapse of anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis: a case report.	BMC Nephrol. 2018 Jun 22;19(1):145.	Case report
64	Nakazawa D, Marschner J, Platen L, and Anders HJ.	内科Ⅱ	Extracellular traps in kidney disease.	Kidney Int. 2018 Dec;94(6):1087-1098.	Review
65	Nakazawa D, Masuda S, Tomaru U, et al.	内科Ⅱ	New insights into the pathogenesis of ANCA-associated vasculitis.	Nat Rev Rheumatol. 2019 Feb;15(2):91-101.	Review
66	Morita S, Nakamaru Y, Nakazawa D, et al.	内科Ⅱ	The diagnostic and clinical utility of the myeloperoxidase-deoxyribonucleic acid complex as a biomarker in otitis media with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis.	Otol Neurotol. 2019 Feb;40(2):e99-e106.	Original Article
67	Hirata K	消化器内科	A Novel Approach for the Genetic Analysis of Biliary Tract Cancer Specimens Obtained Through Endoscopic Ultrasound-Guided Fine Needle Aspiration Using Targeted Amplicon Sequencing.	Clin Transl Gastroenterol. 2019 Mar;10(3):e00022.	Original Article
68	Kawakubo K	消化器内科	Better too big than too small?	Gastrointest Endosc. 2019 Mar;89(3):650-651.	Other
69	Sano I	消化器内科	Long-term outcomes after therapeutic endoscopic retrograde cholangiopancreatography using balloon-assisted enteroscopy for anastomotic stenosis of choledochojunostomy/pancreaticojunostomy.	J Gastroenterol Hepatol. 2019 Mar;34(3):612-619.	Original Article
70	Sugiura R	消化器内科	Unusual reintervention through a fistula for ampullary penetration of a plastic stent in malignant distal biliary obstruction.	Dig Endosc. 2019 Mar;31(2):e48-e49.	Case report
71	Kawakubo K	消化器内科	No difference does not always mean equivalent.	Gastrointest Endosc. 2018 Sep;88(3):573	Other
72	Sugiura R	消化器内科	Effects of human amnion-derived mesenchymal stem cells and conditioned medium in rats with sclerosing cholangitis.	Am J Transl Res. 2018 Jul 15;10(7):	Original Article
73	Hirata K	消化器内科	Mixed ductal-neuroendocrine carcinoma with unique intraductal growth in the main pancreatic duct.	Endosc Ultrasound. 2019 Mar-Apr;8(2):129-130	Case report
74	Kawakubo K	消化器内科	A Prospective Multicenter Study Evaluating Bleeding Risk after Endoscopic Ultrasound-Guided Fine Needle Aspiration in Patients Prescribed Antithrombotic Agents.	Gut Liver. 2018 May 15;12(3):353-359.	Original Article
75	Sugiura R	消化器内科	Successful endoscopic sphincterotomy for choledocholithiasis in a patient with severe hemophilia A and inhibitors.	Clin J Gastroenterol. 2018 Jun;11(3):188-192.	Case report
76	Suda G	消化器内科	Treatment of hepatitis C in special populations.	J Gastroenterol. 2018 May;53(5):591-605	Review
77	Sho T	消化器内科	Safety and efficacy of sofosbuvir and ribavirin for genotype 2 hepatitis C Japanese patients with renal dysfunction.	Hepatol Res. 2018 Jun;48(7):529-538	Original Article
78	Suda G	消化器内科	Safety and efficacy of elbasvir and grazoprevir in Japanese hemodialysis patients with genotype 1b hepatitis C virus infection.	J Gastroenterol. 2019 Jul;54(7):641-649	Original Article
79	Ohara M	消化器内科	L-Carnitine Suppresses Loss of Skeletal Muscle Mass in Patients With Liver Cirrhosis.	Hepatol Commun. 2018 Aug 6;2(8):906-918.	Original Article
80	Sho T	消化器内科	Glecaprevir and Pibrentasvir for Japanese Patients with Human Immunodeficiency Virus and Genotype 3 Hepatitis C Virus Coinfection: A Report of Three Cases.	Intern Med. 2019 Mar 15;58(6):797-802	Original Article
81	Sawada K	消化器内科	Prognostic and Predictive Value of HER2 Amplification in Patients With Metastatic Colorectal Cancer.	Clin Colorectal Cancer. 2018; 17(3): 198-205.	Original article
82	Sawada K	消化器内科	The clinical landscape of circulating tumor DNA in Gastrointestinal Malignancies.	Frontiers in Oncology. 2018; 16 (8): 263.	Review
83	Harada K	消化器内科	Comparative sequence analysis of patient-matched primary colorectal cancer, metastatic, and recurrent metastatic tumors after adjuvant FOLFOX chemotherapy.	BMC Cancer. 2019 Mar 21;19(1):255.	Original article
84	Takahashi S, Hashimoto D, Hayase E, et al.	消化器内科	Ruxolitinib protects skin stem cells and maintains skin homeostasis in murine graft-versus-host disease.	Blood. 2018 May 3;131(18):2074-2085	Original Article
85	Mizushima T, Ohnishi S, Shimizu Y, et al.	消化器内科	Rapid detection of superficial head and neck squamous cell carcinoma by topically spraying fluorescent probe targeting dipeptidyl peptidase-IV.	Head Neck 40:1466-1475, 2018	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
86	Kato S, Kuwatani M, Kawakubo K, et al.	消化器内科	Hepatobiliary and Pancreatic: Pancreatic cancer with elevated serum IgG4 level due to multiple myeloma mimicking localized autoimmune pancreatitis.	J Gastroenterol Hepatol. 2018 Jul;33(7):1310. doi: 10.1111/jgh.14088. Epub 2018 May 15. No abstract available.	Case report
87	Aikawa T, Koyanagawa K, Oyama-Manabe N, et al.	循環器内科	Cardiac sarcoidosis mimicking myocardial infarction: a comprehensive evaluation using computed tomography and positron emission tomography.	J Nucl Cardiol. 2019 Mar 25. doi: 10.1007/s12350-019-01692-1.	Case report
88	Koyanagawa K, Naya M, Aikawa T, et al.	循環器内科	Prognostic value of phase analysis on gated single photon emission computed tomography in patients with cardiac sarcoidosis.	J Nucl Cardiol. 2019 Feb 27. doi: 10.1007/s12350-019-01660-9.	Original Article
89	Aikawa T, Kamiya K, Mitsuhashi T, et al.	循環器内科	Endomyocardial fibrosis presenting as apical calcification and infective endocarditis.	Eur Heart J. 2019 Mar 21;40(12):1016.	Case report
90	Nakano H, Omote K, Nagai T, et al.	循環器内科	Comparison of Mortality Prediction Models on Long-Term Mortality in Hospitalized Patients With Acute Heart Failure – The Importance of Accounting for Nutritional Status.	Circ J. 2019 Feb 25;83(3):614–621.	Original Article
91	Sato Y, Yoshihisa A, Oikawa M, et al.	循環器内科	Hyponatremia at discharge is associated with adverse prognosis in acute heart failure syndromes with preserved ejection fraction: a report from the JASPER registry.	Eur Heart J Acute Cardiovasc Care. 2019 Jan 22:2048872618822459.	Original Article
92	Oe Y, Ishibashi-Ueda H, Matsuyama TA, et al.	循環器内科	Lymph Vessel Proliferation on Cardiac Biopsy May Help in the Diagnosis of Cardiac Sarcoidosis.	J Am Heart Assoc. 2019 Jan 22;8(2):e010967.	Original Article
93	Omote K, Naya M, Koyanagawa K, et al.	循環器内科	18F-FDG uptake of the right ventricle is an important predictor of histopathologic diagnosis by endomyocardial biopsy in patients with cardiac sarcoidosis.	J Nucl Cardiol. 2019 Jan 4. 1007/s12350-018-01541-7.	Original Article
94	Chiba Y, Yonezawa K, Himeno M, et al.	循環器内科	Left ventricular noncompaction with intractable heart failure responsive to empagliflozin.	J Cardiol Cases. 2018 Oct 28;18(6):192–196.	Case report
95	Murayama M, Iwano H, Kudo Y, et al.	循環器内科	A Case of Severe Aortic Regurgitation Caused by Takayasu's Arteritis Showing End-Diastolic Opening of Aortic Valve.	CASE (Phila). 2018 Aug 16;2(6):248–253.	Case report
96	Aikawa T, Takeda A, Oyama-Manabe N, et al.	循環器内科	Progressive left ventricular dysfunction and myocardial fibrosis in Duchenne and Becker muscular dystrophy: a longitudinal cardiovascular magnetic resonance study.	Pediatr Cardiol. 2019 Feb;40(2):384–392.	Original Article
97	Kamada R, Yokoshiki H, Mitsuuyama H, et al.	循環器内科	Arrhythmogenic β -adrenergic signaling in cardiac hypertrophy: The role of small-conductance calcium-activated potassium channels via activation of CaMKII.	Eur J Pharmacol. 2019 Feb 5;844:110–117.	Original Article
98	Kato Y, Fukushima A, Iwano H, et al.	循環器内科	A case of medical management of tricuspid regurgitation related to atrial fibrillation with constrictive pericarditis-like hemodynamics.	J Cardiol Cases. 2018 Aug 27;18(5):175–179.	Case report
99	Marume K, Takashio S, Nagai T, et al.	循環器内科	Effect of Statins on Mortality in Heart Failure With Preserved Ejection Fraction Without Coronary Artery Disease – Report From the JASPER Study.	Circ J. 2019 Jan 25;83(2):357–367.	Original Article
100	Matsumoto J, Takada S, Kinugawa S, et al.	循環器内科	Brain-Derived Neurotrophic Factor Improves Limited Exercise Capacity in Mice With Heart Failure.	Circulation. 2018 Oct 30;138(18):2064–2066.	Letter
101	Watanabe M, Yokoshiki H, Mitsuuyama H, et al.	循環器内科	Long-term reliability of the defibrillator lead inserted by the extrathoracic subclavian puncture.	J Arrhythm. 2018 Aug 18;34(5):541–547.	Original Article
102	Ishibashi K, Eishi Y, Tahara N, et al.	循環器内科	Japanese Antibacterial Drug Management for Cardiac Sarcoidosis (J-ACNES): A multicenter, open-label, randomized, controlled study.	J Arrhythm. 2018 Aug 31;34(5):520–526.	Original Article
103	Yamashita K, Fujita T, Fukushima S, et al.	循環器内科	Transcatheter Aortic Valve Replacement for Severe Aortic Stenosis Complicated by Sigmoid Septum.	Circ J. 2018 Nov 24;82(12):3090–3099.	Original Article
104	Furuya S, Manabe O, Ohira H, et al.	循環器内科	Which is the proper reference tissue for measuring the change in FDG PET metabolic volume of cardiac sarcoidosis before and after steroid therapy?	EJNMMI Res. 2018 Oct 5;8(1):94.	Original Article
105	Shiba M, Sugano Y, Ikeda Y, et al.	循環器内科	Presence of increased inflammatory infiltrates accompanied by activated dendritic cells in the left atrium in rheumatic heart disease.	PLoS One. 2018 Sep 27;13(9):e0203756.	Original Article
106	Shibata A, Sugano Y, Shimouchi A, et al.	循環器内科	Decrease in exhaled hydrogen as marker of congestive heart failure.	Open Heart. 2018 Sep 12;5(2):e000814.	Original Article
107	Nagai T, Sundaram V, Rothnie K, et al.	循環器内科	Mortality after admission for heart failure in the UK compared with Japan.	Open Heart. 2018 Sep 11;5(2):e000811.	Original Article
108	Kurebayashi E, Manabe O, Naya M, et al.	循環器内科	Viability assessment by 18F-FDG PET in a patient with a large left ventricular aneurysm and obstructive coronary artery disease.	J Nucl Cardiol. 2018 Sep 12.	Original Article
109	Kakutani N, Fukushima A, Yokota T, et al.	循環器内科	Impact of High Respiratory Exchange Ratio During Submaximal Exercise on Adverse Clinical Outcome in Heart Failure.	Circ J. 2018 Oct 25;82(11):2753–2760.	Original Article
110	Tsuda M, Fukushima A, Matsumoto J, et al.	循環器内科	Protein acetylation in skeletal muscle mitochondria is involved in impaired fatty acid oxidation and exercise intolerance in heart failure.	J Cachexia Sarcopenia Muscle. 2018 Oct;9(5):844–859.	Original Article
111	Shiraishi Y, Kohsaka S, Nagai T, et al.	循環器内科	Validation and Recalibration of Seattle Heart Failure Model in Japanese Acute Heart Failure Patients.	J Card Fail. 2018 Aug 10. pii: S1071-9164(18)30868-6.	Original Article
112	Iwano H, Tsujinaga S, Iwami D, et al.	循環器内科	Clinical Utility of Echocardiographic Hemodynamic Monitoring during Manual Compression of Arteriovenous Shunt in a Patient with High-Output Heart Failure.	CASE (Phila). 2018 May 1;2(3):103–108.	Case report
113	Aikawa T, Naya M, Obara M, et al.	循環器内科	Effects of coronary revascularization on global coronary flow reserve in stable coronary artery disease.	Cardiovasc Res. 2019 Jan 1;115(1):119–129.	Original Article
114	Takahama H, Asakura M, Abe Y, et al.	循環器内科	Rationale and Design of the Multicenter Trial on Japan Working Group on the Effects of Angiotensin Receptor Blockers Selection (Azilsartan vs. Candesartan) on Diastolic Function in the Patients Suffering from Heart Failure with Preserved Ejection Fraction: I-TASTE Trial.	Cardiovasc Drugs Ther. 2018 Aug;32(4):381–388. doi: 10	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
115	Takahashi M, Yokoshiki H, Mitsuyama H, et al.	循環器内科	Evaluation of the pulmonary artery potential using a 20-polar circumferential catheter and three-dimensional integrated intracardiac echocardiography.	Heart Vessels. 2019 Jan;34(1):74-83.	Original Article
116	Hamatani Y, Nagai T, Nakai M, et al.	循環器内科	Elevated Plasma D-Dimer Level Is Associated With Short-Term Risk of Ischemic Stroke in Patients With Acute Heart Failure.	Stroke. 2018 Jul;49(7):1737-1740.	Original Article
117	Aoyama D, Hamatani Y, Kamiya C, et al.	循環器内科	Peripartum Serial Echocardiographic Findings in a Patient with Life-threatening Peripartum Cardiomyopathy.	Intern Med. 2018 Nov 1;57(21):3105-3109.	Case report
118	Nagai T, Sundaram V, Shoaib A, et al.	循環器内科	Validation of U.S. mortality prediction models for hospitalized heart failure in the United Kingdom and Japan.	Eur J Heart Fail. 2018 Aug;20(8):1179-1190.	Original Article
119	Marume K, Noguchi T, Tateishi E, et al.	循環器内科	Mortality and Sudden Cardiac Death Risk Stratification Using the Noninvasive Combination of Wide QRS Duration and Late Gadolinium Enhancement in Idiopathic Dilated Cardiomyopathy.	Circ Arrhythm Electrophysiol. 2018 Apr;11(4):e006233.	Original Article
120	Nakano H, Nagai T, Sundaram V, et al.	循環器内科	Impact of iron deficiency on long-term clinical outcomes of hospitalized patients with heart failure.	Int J Cardiol. 2018 Jun 15;261:114-118.	Original Article
121	Nagai T, Yoshikawa T, Saito Y, et al.	循環器内科	Clinical Characteristics, Management, and Outcomes of Japanese Patients Hospitalized for Heart Failure With Preserved Ejection Fraction - A Report From the Japanese Heart Failure Syndrome With Preserved Ejection Fraction (IASPER) Registry.	Circ J. 2018 May 25;82(6):1534-1545.	Original Article
122	Kuyama N, Hamatani Y, Fukushima S, et al.	循環器内科	Left ventricular myxoma with Carney complex.	ESC Heart Fail. 2018 Aug;5(4):713-715.	Case report
123	Sawano M, Shiraiishi Y, Kohsaka S, et al.	循環器内科	Performance of the MAGGIC heart failure risk score and its modification with the addition of discharge natriuretic peptides.	ESC Heart Fail. 2018 Aug;5(4):610-619.	Original Article
124	Tenma T, Yokoshiki H, Mitsuyama H, et al.	循環器内科	Relation between total shock energy and mortality in patients with implantable cardioverter-defibrillator.	Int J Cardiol. 2018 May 15;259:94-99.	Original Article
125	Iwakami N, Nagai T, Furukawa TA, et al.	循環器内科	Response to letter regarding article by Formiga et al., "Utility of the Controlling Nutritional Status (CONUT) score in patients admitted due to acute heart failure".	Int J Cardiol. 2018 Apr 1;256:25.	Letter
126	Kotooka N, Kitakaze M, Nagashima K, et al.	循環器内科	The first multicenter, randomized, controlled trial of home telemonitoring for Japanese patients with heart failure: home telemonitoring study for patients with heart failure (HOMES-HF).	Heart Vessels. 2018 Aug;33(8):866-876.	Original Article
127	Miyashita N, Onozawa M, Hayasaka K, et al.	血液内科	A novel heterozygous ITGB3 p.T720del inducing spontaneous activation of integrin alphaIIb beta3 in autosomal dominant macrothrombocytopenia with aggregation dysfunction.	Ann Hematol. 2018 Apr;97(4):629-640	Original Article
128	Hashiguchi J, Onozawa M, Naka T, et al.	血液内科	Re-infection of Toxoplasma gondii after HSCT presenting lymphadenopathy resembling recurrence of lymphoma.	Transpl Infect Dis. 2018 Jun;20(3):e12892	Case report
129	Hidaka D, Onozawa M, Hashiguchi J, et al.	血液内科	Wilms Tumor 1 Expression at Diagnosis Correlates With Genetic Abnormalities and Polymorphism But Is Not Independently Prognostic in Acute Myelogenous Leukemia: A Hokkaido Leukemia Net Study.	Clin Lymphoma Myeloma Leuk. 2018 Nov;18(11):e469-e479	Original Article
130	Ogasawara R, Hashimoto D, Kimura S, et al.	血液内科	Intestinal Lymphatic Endothelial Cells Produce R-Spondin3.	Sci Rep. 2018 Jul 16;8(1):10719	Original Article
131	Hashiguchi J, Onozawa M, Oguri S, et al.	血液内科	Development of a Fluorescence in Situ Hybridization Probe for Detecting IKZF1 Deletion Mutations in Patients with Acute Lymphoblastic Leukemia.	J Mol Diagn. 2018 Jul;20(4):446-454	Original Article
132	Hidaka D, Hayase E, Shiratori S, et al.	血液内科	The association between the incidence of intestinal graft-vs-host disease and antibiotic use after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Clin Transplant. 2018 Sep;32(9):e13361	Original Article
133	Okada K, Endo T, Hashimoto D, et al.	血液内科	Disseminated fusariosis emerged from prolonged local genital infection after cord blood transplantation.	J Infect Chemother. 2018 Aug;24(8):660-663	Case report
134	Sugita J, Kagaya Y, Miyamoto T, et al.	血液内科	Myeloablative and reduced-intensity conditioning in HLA-haploidentical peripheral blood stem cell transplantation using post-transplant cyclophosphamide.	Bone Marrow Transplant. 2019 Mar;54(3):432-441	Original Article
135	Nakagawa M, Shaffer AL 3rd, Ceribelli M, et al.	血液内科	Targeting the HTLV-1-regulated BATF3/IRF4 Transcriptional Network in Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma.	Cancer Cell. 2018 Aug 13;34(2):286-297.e10	Original Article
136	Hidaka D, Hayase E, Shiratori S, et al.	血液内科	The association between the incidence of intestinal graft-vs-host disease and antibiotic use after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Clin Transplant. 2018 Sep;32(9):e13361	Original Article
137	Ishio T, Sugita J, Tateno T, et al.	血液内科	Hematogones Predict Better Outcome in Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation Irrespective of Graft Sources.	Biol Blood Marrow Transplant. 2018 Oct;24(10):1990-1996	Original Article
138	Hashiguchi J, Onozawa M, Okada K, et al.	血液内科	Quantitative detection of IKZF1 deletion by digital PCR in patients with acute lymphoblastic leukemia.	Int J Lab Hematol. 2019 Apr;41(2):e38-e40	Original Article
139	Nishida M, Kahata K, Hayase E, et al.	検査・輸血部	Novel Ultrasonographic Scoring System of Sinusoidal Obstruction Syndrome after Hematopoietic Stem Cell Transplantation.	Biol Blood Marrow Transplant. 2018 Sep;24(9):1896-1900	Original Article
140	Takeuchi S, Shiga T, Hirata K, et al.	腫瘍内科	Early prediction of lenvatinib treatment efficacy by using 18F-FDG PET/CT in patients with unresectable or advanced thyroid carcinoma that is refractory to radioiodine treatment: a protocol for a non-randomized single-arm multicenter observational study.	BMJ Oen 30: e021001, 2018	Original Article
141	Satoshi Takeuchi	腫瘍内科	Late Onset of Non-islet Cell Tumor Hypoglycemia Managed via Multidisciplinary Treatment in a Patient with a Solitary Fibrous Tumor	Intern Med 57: 2431-2436, 2018	Case report
142	Ichikawa N, Homma S, Yoshida T, et al.	消化器外科 I	Supervision by a technically qualified surgeon affects the proficiency and safety of laparoscopic colectomy performed by novice surgeons.	Surg Endosc. 2018 Jan;32(1):436-442.	Original Article
143	Ohba G, Yamamoto H, Nakayama M, et al.	消化器外科 I	Single-stage operation for perforated choledochal cyst.	J Pediatr Surg. 2018 Apr;53(4):653-655.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
144	Orimo T, Kamiyama T, Yokoo H, et al.	消化器外科 I	alvage Hepatectomy for Recurrent Hepatocellular Carcinoma after Radiofrequency Ablation and/or Transcatheter Arterial Chemoembolization: A Propensity Score-Matched Analysis.	Dig Surg. 2018;35(5):427-434.	Original Article
145	Kawamata F, Nishihara H, Homma S, et al.	消化器外科 I	Chorionic Gonadotropin- β Modulates Epithelial-Mesenchymal Transition in Colorectal Carcinoma Metastasis.	Am J Pathol. 2018 Jan;188(1):204-215.	Original Article
146	Kamachi H, Kamiyama T, Tsuruga Y, et al.	消化器外科 I	Transparenchymal glissonean approach: a novel surgical technique for advanced perihilar bile duct cancer.	Langenbecks Arch Surg. 2018 May;403(3):387-394.	Original Article
147	Kawamata F, Patch AM, Nones K, et al.	消化器外科 I	Copy number profiles of paired primary and metastatic colorectal cancers.	Oncotarget. 2017 Dec 15;9(3):3394-3405.	Original Article
148	Shirabe K, Eguchi S, Okajima H, et al.	消化器外科 I	Japanese Liver Transplantation Society. Current status of surgical incisions used in donors during living related liver transplantation - a nationwide survey in Japan.	Transplantation. 2018 Aug;102(8):1293-1299.	Original Article
149	Matsui H, Einama T, Shichi S, et al.	消化器外科 I	L-Carnitine supplementation reduces the general fatigue of cancer patients during chemotherapy.	Mol Clin Oncol. 2018 Mar;8(3):413-416.	Original Article
150	Orimo T, Kamiyama T, Mitsuhashi T, et al.	消化器外科 I	Impact of tumor localization on the outcomes of surgery for an intrahepatic cholangiocarcinoma.	J Gastroenterol. 2018 Nov;53(11):1206-1215.	Original Article
151	Sawai H, Nishida N, Khor SS, et al.	消化器外科 I	Genome-wide association study identified new susceptible genetic variants in HLA class I region for hepatitis B virus-related hepatocellular carcinoma.	Sci Rep. 2018 May 21;8(1):7958.	Original Article
152	Kakeji Y, Takahashi A, Udagawa H, et al.	消化器外科 I	National Clinical Database. Surgical outcomes in gastroenterological surgery in Japan: Report of National Clinical database 2011-2016.	Ann Gastroenterol Surg. 2017 Nov 23;2(1):37-54.	Original Article
153	Konishi Y, Kawamata F, Nishihara H, et al.	消化器外科 I	Tumor budding and human chorionic gonadotropin- β expression correlate with unfavorable patient outcome in colorectal carcinoma.	Med Oncol. 2018 Jun 11;35(7):104.	Original Article
154	Ishikawa T, Shimada S, Fukai M, et al.	消化器外科 I	Post-reperfusion hydrogen gas treatment ameliorates ischemia reperfusion injury in rat livers from donors after cardiac death: a preliminary study.	Surg Today. 2018 Dec;48(12):1081-1088.	Original Article
155	Einama T, Kamachi H, Tsuruga Y, et al.	消化器外科 I	Optimal resection area for superior mesenteric artery nerve plexuses after neoadjuvant chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic carcinoma.	Medicine (Baltimore). 2018 Aug;97(31):e11309.	Original Article
156	Kamachi H, Tsuruga Y, Orimo T, et al.	消化器外科 I	R0 Resection for Locally Advanced Pancreatic Cancer with Low-dose Gemcitabine with Wide Irradiation Area as Neoadjuvant Chemoradiotherapy.	In Vivo. 2018 Sep-Oct;32(5):1183-1191.	Original Article
157	Mizukami T, Kamachi H, Fujii Y, et al.	消化器外科 I	The anti-mesothelin monoclonal antibody amatuximab enhances the anti-tumor effect of gemcitabine against mesothelin-high expressing pancreatic cancer cells in a peritoneal metastasis mouse model.	Oncotarget. 2018 Sep 18;9(73):33844-33852.	Original Article
158	Mizukami T, Kamachi H, Mitsuhashi T, et al.	消化器外科 I	Cytoplasmic CD133 expression correlates with histologic differentiation and is a significant prognostic factor in extrahepatic bile duct cancer and gallbladder cancer.	Oncol Lett. 2018 Nov;16(5):6423-6430.	Original Article
159	Wakizaka K, Yokoo H, Kamiyama T, et al.	消化器外科 I	Clinical and pathological features of combined hepatocellular-cholangiocarcinoma compared with other liver cancers.	J Gastroenterol Hepatol. 2018 Nov 21. doi: 10.1111/jgh.14547.	Original Article
160	Shimada S, Kamiyama T, Yokoo H, et al.	消化器外科 I	Prognoses and Clinicopathological characteristics for hepatocellular carcinoma originating from the caudate lobe after surgery.	World J Surg. 2018 Nov 26. doi: 10.1007/s00268-018-4869-2.	Original Article
161	Yamaki A, Akiyama R, Murakami C, et al.	消化器外科 I	Diacylglycerol kinase alpha-selective inhibitors induce apoptosis and reduce viability of melanoma and several other cancer cell lines.	J Cell Biochem. 2018 Oct. doi:10.1002/jcb.28288.	Original Article
162	Yoshida T, Homma S, Ohno Y, et al.	消化器外科 I	Laparoscopic Surgery for the Treatment of Mesenteric Phleboscrosis.	Am Surg. 2018 Dec 1;84(12):e544-e546.	Original Article
163	Shibata K, Kawamura H, Ichikawa N, et al.	消化器外科 I	Laparoscopic total gastrectomy for advanced gastric cancer in a patient with situs inversus totalis.	Asian J Endosc Surg. 2018 Feb;11(1):39-42.	Case report
164	Ishikawa T, Nishikawa M, Nakamoto H, et al.	消化器外科 I	Laparoscopic anterior resection for rectal cancer in a patient with a ventriculoperitoneal shunt.	Asian J Endosc Surg. 2018 Aug;11(3):259-261.	Case report
165	Miyagi H, Honda S, Hamada H, et al.	消化器外科 I	One-Stage Laparoscopic Surgery for Pulmonary Sequestration and Hiatal Hernia in a 2-Year-Old Girl.	European J Pediatr Surg Rep. 2018 Jan;6(1):e11-e14.	Case report
166	Einama T, Kamachi H, Sakata T, et al.	消化器外科 I	Curative resection of pancreatic ductal adenocarcinoma developing in the remnant pancreas 13 years after distal pancreatectomy for intraductal papillary mucinous neoplasms: A case report.	Mol Clin Oncol. 2018 Mar;8(3):417-420.	Case report
167	Shibuya K, Kamachi H, Orimo T, et al.	消化器外科 I	Pancreaticoduodenectomy with Preservation of Collateral Circulation or Revascularization for Biliary Pancreatic Cancer with Celiac Axis Occlusion: A Report of 2 Cases.	Am J Case Rep. 2018 Apr 9;19:413-420.	Case report
168	Ishikawa T, Homma S, Nishikawa M, et al.	消化器外科 I	Laparoscopic abdominoperineal resection with lateral lymph node dissection for advanced rectal and prostate cancer with synchronous lateral lymph node metastases.	Asian J Endosc Surg. 2018 May 10. doi: 10.1111/ases.12598.	Case report
169	Shibuya K, Homma S, Yoshida T, et al.	消化器外科 I	Carcinoma in the residual rectum of a long-standing Crohn's disease patient following subtotal colectomy: A case report.	Mol Clin Oncol. 2018 Jul;9(1):50-53.	Case report
170	Ishikawa T, Nishikawa M, Nakamoto H, et al.	消化器外科 I	Case of chronic pain after laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure in an adolescent girl with inguinal hernia in which open repair was effective.	Asian J Endosc Surg. 2018 Jun 28. doi: 10.1111/ases.12618.	Case report
171	Asahi Y, Honda S, Okada T, et al.	消化器外科 I	Usefulness of Plain Computed Tomography with Swallowing of GastrografinTM for the Diagnosis of a Late-Onset Iatrogenic Diaphragmatic Hernia following Biopsy of a Diaphragmatic Tumor: Report of a Case.	Case Rep Gastroenterol. 2018 Jun 15;12(2):271-276.	Case report
172	Nakamoto H, Nishikawa M, Ishikawa T, et al.	消化器外科 I	Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography (ERCP) with Laparotomic Small-Intestinal Incision Approach for Extraction of a Common Bile Duct (CBD) Stone Following Total Gastrectomy and Roux-en-Y (R-Y) Anastomosis: A Case Report.	Am J Case Rep. 2018 Oct 3;19:1175-1178.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
173	Shichi S, Einama T, Suzuki M, et al.	消化器外科 I	Rare case of idiopathic sclerosing cholangitis, which was difficult to distinguish from cholangiocarcinoma: A case report.	Exp Ther Med. 2018 Dec;16(6):5224-5226.	Case report
174	Mizota T, Kurashima Y, Poudel S, et al.	消化器外科 II	Step-by-step training in basic laparoscopic skills using two-way web conferencing software for remote coaching: A multicenter randomized controlled study.	Am J Surg	Original Article
175	Wada M, Tsuchikawa T, Kyogoku N, et al.	消化器外科 II	Clinical Implications of CD4+CD25+Foxp3+Regulatory T Cell Frequencies After CHP-MAGE-A4 Cancer Vaccination.	Anticancer Res	Original Article
176	Noji T, Kurashima Y, Nakanishi Y, et al.	消化器外科 II	Biliary stricture due to a migrated suture after laparoscopic distal gastrectomy.	Asian J Endosc Surg	Case report
177	Inoko K, Hiraoka K, Inagaki A, et al.	消化器外科 II	Therapeutic activity of retroviral replicating vector-mediated prodrug activator gene therapy for pancreatic cancer.	Cancer Gene Ther	Original Article
178	Miyasaka M, Noji T, Ohtaka K, et al.	消化器外科 II	Long-term survival after repeated resection of metachronous lung metastases from pStage IA pancreatic adenocarcinoma.	Clin J Gastroenterol	Case report
179	Kawamura T, Noji T, Okamura K, et al.	消化器外科 II	Postoperative liver failure criteria for predicting mortality after major hepatectomy with extrahepatic bile duct resection.	Digest Surg	Original Article
180	Noji T, Okamura K, Tanaka K, et al.	消化器外科 II	Surgical technique and results of intrapancreatic bile duct resection for hilar malignancy (with video).	HPB	Original Article
181	Nakanishi Y, Tsuchikawa T, Okamura K, et al.	消化器外科 II	Clinicopathological features and prognosis of advanced biliary carcinoma centered in the cystic duct.	HPB	Original Article
182	Tabata Y, Nakanishi Y, Hatanaka KC, et al.	消化器外科 II	DJ-1 is a useful biomarker for invasive extrahepatic cholangiocarcinoma.	Hum Pathol	Original Article
183	Fujiwara-Kuroda A, Kato T, Abiko T, et al.	消化器外科 II	Prognostic value of MAGEA4 in primary lung cancer depends on subcellular localization and p53 status.	Int J Oncol	Original Article
184	Takeuchi Y, Kurashima Y, Nakanishi Y, et al.	消化器外科 II	Mesh trimming and suture reconstruction for wound dehiscence after huge abdominal intercostal hernia repair: A case report	Int J Surg Case Rep	Case report
185	Yamada T, Nakanishi Y, Okamura K, et al.	消化器外科 II	Impact of serum carbohydrate antigen 19-9 level on prognosis and prediction of lymph node metastasis in patients with intrahepatic cholangiocarcinoma.	J Gastroenterol Hepatol	Original Article
186	Nakamura T, Asano T, Okamura K, et al.	消化器外科 II	A Preoperative Prognostic Scoring System to Predict Prognosis for Resectable Pancreatic Cancer: Who Will Benefit from Upfront Surgery?	J Gastrointest Surg	Original Article
187	Asano T, Hirano S, Nakamura T, et al.	消化器外科 II	Survival benefit of conversion surgery for patients with initially unresectable pancreatic cancer who responded favorably to nonsurgical treatment.	J Hepatobiliary Pancreat Sci	Original Article
188	Poudel S, Ebihara Y, Tanaka K, et al.	消化器外科 II	Two cases of laparoscopic direct spiral closure of large defects in the second portion of the duodenum after laparoscopic endoscopic co-operative surgery.	J Minim Access Surg	Case report
189	Ogino M, Ebihara Y, Homma A, et al.	消化器外科 II	The surgical outcome of minimally invasive pharyngo-laryngo-oesophagectomy in prone position.	J Minim Access Surg	Original Article
190	Ebihara Y, Kurashima Y, Murakami S, et al.	消化器外科 II	Minimally invasive abdominal and left thoracic approach for Siewert type II adenocarcinoma of the oesophagogastric junction: Novel technique for simultaneous combined use of laparoscopy and thoracoscopy.	J Minim Access Surg	Original Article
191	Kyogoku N, Ebihara Y, Shichinohe T, et al.	消化器外科 II	Circular versus linear stapling in esophagojejunostomy after laparoscopic total gastrectomy for gastric cancer: a propensity score-matched study.	Langenbecks Arch Surg	Original Article
192	Asano T, Nakamura T, Noji T, et al.	消化器外科 II	Outcome of concomitant resection of the replaced right hepatic artery in pancreaticoduodenectomy without reconstruction.	Langenbecks Arch Surg	Original Article
193	Poudel S, Kurashima Y, Kawarada Y, et al.	消化器外科 II	Development of a novel training system for laparoscopic inguinal hernia repair.	Minim Invasive Ther Allied Technol	Original Article
194	Abiko T, Tsuchikawa T, Miyauchi K, et al.	消化器外科 II	Serum immunoglobulin E response as a marker for unfavorable prognosis following cholesteryl pullulan-MAGE A4 vaccination.	Oncol Lett	Original Article
195	Ueno T, Tsuchikawa T, Hatanaka KC, et al.	消化器外科 II	Prognostic impact of programmed cell death ligand 1 (PD-L1) expression and its association with epithelial-mesenchymal transition in extrahepatic cholangiocarcinoma.	Oncotarget	Original Article
196	Noji T, Narasaki H, Ebihara Y, et al.	消化器外科 II	Near infrared fluorescence light imaging for lymphatic flow toward para-aortic lymph node from the Calot's triangle: A prospective exploratory study.	Photodiagnosis Photodyn Ther	Original Article
197	Miyasaka M, Noji T, Tanaka K, et al.	消化器外科 II	Oncological emergency surgery for metachronous large and small bowel metastases after pancreaticoduodenectomy for pancreatic cancer: a case report.	Surg Case Rep	Case report
198	Sekiya S, Imamura K, Takeuchi S, et al.	消化器外科 II	Pathological complete response of locally advanced colon cancer after preoperative radiotherapy: a case report and narrative review of the literature.	Surg Case Rep	Case report
199	Poudel S, Kurashima Y, Tanaka K, et al.	消化器外科 II	Educational system based on the TAPP checklist improves the performance of novices: a multicenter randomized trial.	Surg Endosc	Original Article
200	Yokoyama S, Watanabe Y, Kurashima Y, et al.	消化器外科 II	Identifying the needs for teaching fundamental knowledge of laparoscopic surgery: a cross-sectional study in Japan.	Surg Endosc	Original Article
201	Kushibiki T, Ebihara Y, Hontani K, et al.	消化器外科 II	The Surgical Outcomes of Totally Laparoscopic Stomach-partitioning Gastrojejunostomy for Gastric Outlet Obstruction: A Retrospective, Cohort Study.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
202	Tanaka K, Nakamura T, Imai S, et al.	消化器外科 II	The use of broad-spectrum antibiotics reduces the incidence of surgical site infection after pancreatoduodenectomy.	Surg Today	Original Article
203	Shingu Y, Iwano H, Murakami T, et al.	循環器・呼吸器外科	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	2019 Mar 15. doi: 10.1007/s11748-019-01110-w. [Epub ahead of print]	Original Article
204	Wakasa S, Matsui Y, Kobayashi J, et al.	循環器・呼吸器外科	Estimating postoperative left ventricular volume: Identification of responders to surgical ventricular reconstruction.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2018 Dec;156(6):2088-2096.e3. doi: 10.1016/j.jtcvs.2018.06.090. Epub 2018 Aug 1.	Original Article
205	Fujiwara-Kuroda A, Kato T, Abiko T, et al.	循環器・呼吸器外科	Prognostic value of MAGEA4 in primary lung cancer depends on subcellular localization and p53 status.	Int J Oncol. 2018 Aug;53(2):713-724. doi: 10.3892/ijco.2018.4425. Epub 2018 May 31.	Original Article
206	Shiina N, Kaga K, Hida Y, et al.	循環器・呼吸器外科	Variations of pulmonary vein drainage critical for lung resection assessed by three-dimensional computed tomography angiography.	Thorac Cancer. 2018 May;9(5):584-588. doi: 10.1111/1759-7714.12621. Epub 2018 Mar 23.	Original Article
207	Seki T, Shingu Y, Sugiki H, et al.	循環器・呼吸器外科	Anticoagulation management during cardiopulmonary bypass in patients with antiphospholipid syndrome.	J Artif Organs. 2018 Sep;21(3):363-366. doi: 10.1007/s10047-018-1032-7. Epub 2018 Mar 14.	Case report
208	Shingu Y, Ooka T, Katoh H, et al.	循環器・呼吸器外科	Feasibility and limitations of mitral valve repair, with or without left ventricular reconstruction in non-ischemic dilated cardiomyopathy.	J Cardiol. 2018 Apr;71(4):329-335. doi: 10.1016/j.jcc.2017.09.013. Epub 2017 Nov 7.	Original Article
209	Asai H, Tachibana T, Shingu Y, et al.	循環器・呼吸器外科	Modified total cavopulmonary shunt as a staged Fontan operation.	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2018 Nov;26(9):701-703. doi: 10.1177/0218492317692466. Epub 2017 Jan 29.	Case report
210	Tujimoto T, Sudo H, Todoh M, et al.	整形外科	An acellular bioresorbable ultra-purified alginate gel promotes intervertebral disc repair: A preclinical proof-of-concept study.	EBioMedicine. 2018 Nov;37:521-534. doi: 10.1016/j.ebiom.2018.10.055. Epub 2018 Oct 30.	Original Article
211	Sato D, Takahata M, Ota M, et al.	整形外科	Siglec-15-targeting therapy increases bone mass in rats without impairing skeletal growth.	Bone. 2018 Nov;116:172-180. doi: 10.1016/j.bone.2018.07.026. Epub 2018 Aug 2.	Original Article
212	Ohnishi T, Sudo H, Tsujimoto T, et al.	整形外科	Age-related spontaneous lumbar intervertebral disc degeneration in a mouse model.	J Orthop Res. 2018 Jan;36(1):224-232. doi: 10.1002/jor.23634. Epub 2017 Jul 9.	Original Article
213	Ota M, Takahata M, Shimizu T, et al.	整形外科	Optimal administration frequency and dose of teriparatide for acceleration of biomechanical healing of long-bone fracture in a mouse model.	J Bone Miner Metab. 2019 Mar;37(2):256-263. doi: 10.1007/s00774-018-0930-3. Epub 2018 May 2.	Original Article
214	Hiratsuka S, Takahata M, Shimizu T, et al.	整形外科	Drug therapy targeting pyrophosphate slows the ossification of spinal ligaments in twy mice.	J Orthop Res. 2018 Apr;36(4):1256-1261. doi: 10.1002/jor.23743. Epub 2017 Oct 9.	Original Article
215	Sudo H, Kokabu T, Abe Y, et al.	整形外科	Automated noninvasive detection of idiopathic scoliosis in children and adolescents: A principle validation study.	Sci Rep. 2018 Dec 7;8(1):17714. doi: 10.1038/s41598-018-36360-w.	Original Article
216	Haraya K, Yamada K, Kokabu T, et al.	整形外科	18F-FDG-PET/CT localizes intervertebral disc space infection following posterior lumbar interbody fusion surgery leading to successful retention of percutaneously inserted pedicle screws: a case report.	Spinal Cord Ser Cases. 2018 Sep 10;4:81. doi: 10.1038/s41394-018-0119-y. eCollection 2018.	Case report
217	Hiratsuka S, Takahata M, Hojo Y, et al.	整形外科	Increased risk of symptomatic progression of instability following decompression for lumbar canal stenosis in patients receiving chronic glucocorticoids therapy.	J Orthop Sci. 2019 Jan;24(1):14-18. doi: 10.1016/j.jos.2018.08.002. Epub 2018 Aug 23.	Original Article
218	Takahata M, Yamada K, Akira I, et al.	整形外科	A novel technique of cervical pedicle screw placement with a pilot screw under the guidance of intraoperative 3D imaging from C-arm cone-beam CT without navigation for safe and accurate insertion.	Eur Spine J. 2018 Nov;27(11):2754-2762. doi: 10.1007/s00586-018-5706-x. Epub 2018 Jul 23.	Original Article
219	Kokabu T, Kanai S, Abe Y, et al.	整形外科	Identification of optimized rod shapes to guide anatomical spinal reconstruction for adolescent thoracic idiopathic scoliosis.	J Orthop Res. 2018 Dec;36(12):3219-3224. doi: 10.1002/jor.24118. Epub 2018 Aug 22.	Original Article
220	Yamada K, Sudo H, Kaneda K, et al.	整形外科	Postoperative translation of the upper instrumented vertebra in thoracic adolescent idiopathic scoliosis.	J Neurosurg Pediatr. 2018 Dec 1;22(6):694-700. doi: 10.3171/2018.6.PEDS18256.	Original Article
221	Abe Y, Yamada K, Abumi K, et al.	整形外科	Long-Term Changes in Vertebral Morphology After Cervical Spinal Fusion in Adolescent Pediatric Patients: Retrospective Case Series with up to a Minimum 12 Years of Follow-up.	World Neurosurg. 2019 Feb;122:e765-e772. doi: 10.1016/j.wneu.2018.10.136. Epub 2018 Nov 1.	Original Article
222	Sudo H, Abe Y, Kokabu T, et al.	整形外科	Impact of Multilevel Facetectomy and Rod Curvature on Anatomical Spinal Reconstruction in Thoracic Adolescent Idiopathic Scoliosis.	Spine (Phila Pa 1976). 2018 Oct 1;43(19):E1135-E1142. doi: 10.1097/BRS.0000000000002628.	Original Article
223	Iwata A, Abumi K, Takahata M, et al.	整形外科	Late Subaxial Lesion after Overcorrected Occipitocervical Reconstruction in Patients with Rheumatoid Arthritis.	Asian Spine J. 2019 Apr;13(2):181-188. doi: 10.31616/asj.2018.0071. Epub 2018 Nov 15.	Original Article
224	Asano T, Shimizu T, Takahashi D, et al.	整形外科	Potential association with early changes in serum calcium level after starting or switching to denosumab combined with eldelcalcitol.	J Bone Miner Metab. 2019 Mar;37(2):351-357. doi: 10.1007/s00774-018-0928-x. Epub 2018 May 2.	Original Article
225	Tsukuda Y, Kawamura D, Matsui Y, et al.	整形外科	Morphological characteristics of the sigmoid notch of the distal radius affect the stress distribution patterns in the distal radioulnar joint.	J Hand Surg Eur Vol. 2019 Jun;44(5):496-502. doi: 10.1177/1753193418803522. Epub 2018 Oct 11.	Original Article
226	Momma D, Funakoshi T, Endo K, et al.	整形外科	Alteration in stress distribution patterns through the elbow joint in professional and college baseball pitchers: Using computed tomography osteoabsorptiometry.	J Orthop Sci. 2018 Nov;23(6):948-952. doi: 10.1016/j.jos.2018.06.006. Epub 2018 Jul 4.	Original Article
227	Momma D, Nimura A, Muro S, et al.	整形外科	Anatomic analysis of the whole articular capsule of the shoulder joint, with reference to the capsular attachment and thickness.	J Exp Orthop. 2018 Jun 7;5(1):16. doi: 10.1186/s40634-018-0134-8.	Original Article
228	Joutoku Z, Onodera T, Matsuoka M, et al.	整形外科	CCL21/CCR7 axis regulating juvenile cartilage repair can enhance cartilage healing in adults.	Sci Rep. 2019 Mar 26;9(1):5165. doi: 10.1038/s41598-019-41621-3.	Original Article
229	Matsumae G, Motomiya M, Iwasaki N	整形外科	Failed Reconstruction of the Extensor Pollicis Longus in a Patient with a Major Variation of the Extensor Indicis Proprius Tendon: A Case Report.	J Hand Surg Asian Pac Vol. 2018 Mar;23(1):132-136. doi: 10.1142/S242483518720062.	Original Article
230	Matsui Y, Funakoshi T, Momma D, et al.	整形外科	Variation in stress distribution patterns across the radial head fovea in osteochondritis dissecans: predictive factors in radiographic findings.	J Shoulder Elbow Surg. 2018 May;27(5):923-930. doi: 10.1016/j.jse.2017.12.023. Epub 2018 Feb 21.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
231	Funakoshi T, Momma D, Matsui Y, et al.	整形外科	Autologous Osteochondral Mosaicplasty for Centrally and Laterally Located, Advanced Capitellar Osteochondritis Dissecans in Teenage Athletes: Clinical Outcomes, Radiography, and Magnetic Resonance Imaging Findings.	Am J Sports Med. 2018 Jul;46(8):1943-1951. doi: 10.1177/0363546518768279. Epub 2018 May 8.	Original Article
232	Matsui Y, Kawamura D, Kida H, et al.	整形外科	Trigger wrist caused by avascular necrosis of the capitate: a case report.	BMC Musculoskelet Disord. 2018 Mar 27;19(1):90. doi: 10.1186/s12891-018-2010-1.	Case report
233	Irie T, Motomiya M, Iwasaki N	整形外科	Absence of flexor carpi radialis identified during volar approach for fixation of distal radius fracture: a case report.	BMC Res Notes. 2018 Apr 11;11(1):240. doi: 10.1186/s13104-018-3348-z.	Case report
234	Momma D, Onodera T, Homan K, et al.	整形外科	Coordinated existence of multiple gangliosides is required for cartilage metabolism.	Osteoarthritis Cartilage. 2019 Feb;27(2):314-325. doi: 10.1016/j.joca.2018.11.003. Epub 2018 Nov 22.	Original Article
235	Kawaguchi Y, Kondo E, Iwasaki N, et al.	整形外科	Autologous living chondrocytes contained in the meniscal matrix play an important role in in vivo meniscus regeneration induced by in situ meniscus fragment implantation.	Orthop Traumatol Surg Res. 2019 Jun;105(4):683-690. doi: 10.1016/j.otsr.2018.12.017. Epub 2019 Apr 18.	Original Article
236	Kim W, Onodera T, Kondo E, et al.	整形外科	Effects of Ultra-Purified Alginate Gel Implantation on Meniscal Defects in Rabbits.	Am J Sports Med. 2019 Mar;47(3):640-650. doi: 10.1177/0363546518816690. Epub 2018 Dec 31.	Original Article
237	Kondo E, Yasuda K, Yabuuchi K, et al.	整形外科	Inverted V-Shaped High Tibial Osteotomy for Medial Osteoarthritic Knees With Severe Varus Deformity.	Arthrosc Tech. 2018 Sep 10;7(10):e999-e1012. doi: 10.1016/j.eats.2018.06.005. eCollection 2018 Oct.	Original Article
238	Onodera T, Nakano H, Homan K, et al.	整形外科	Preoperative radiographic and clinical factors associated with postoperative floating of the lesser toes after resection arthroplasty for rheumatoid forefoot deformity.	BMC Musculoskelet Disord. 2019 Feb 19;20(1):87. doi: 10.1186/s12891-019-2462-y.	Original Article
239	Masuda T, Kondo E, Onodera J, et al.	整形外科	Effects of Remnant Tissue Preservation on Tunnel Enlargement After Anatomic Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using the Hamstring Tendon.	Orthop J Sports Med. 2018 Dec 6;6(12):2325967118811293. doi: 10.1177/2325967118811293. eCollection 2018 Dec.	Original Article
240	Nishio Y, Kondo E, Onodera J, et al.	整形外科	Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using Hamstring Tendon Hybrid Grafts in Patients Over 40 Years of Age: Comparisons Between Different Age Groups	Orthop J Sports Med. 2018 May 24;6(5):2325967118773685. doi: 10.1177/2325967118773685. eCollection 2018 May.	Original Article
241	Irie T, Takahashi D, Asano T, et al.	整形外科	Is There an Association Between Borderline-to-mild Dysplasia and Hip Osteoarthritis? Analysis of CT Osteoabsorptiometry	Clin Orthop Relat Res. 2018 Jul;476(7):1455-1465. doi: 10.1097/01.blo.0000533619.50951.e3.	Original Article
242	Tanabe Y, Yasuda K, Kondo E, et al.	整形外科	Comparison of Graft Length Changes During Knee Motion Among 5 Different Anatomic Single-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Approaches: A Biomechanical Study.	Orthop J Sports Med. 2019 Mar 26;7(3):2325967119834933. doi: 10.1177/2325967119834933. eCollection 2019 Mar.	Original Article
243	Asano T, Takahashi D, Shimizu T, et al.	整形外科	A mathematical model for predicting postoperative leg shortening after curved intertrochanteric varus osteotomy for osteonecrosis of the femoral head.	PLoS One. 2018 Dec 18;13(12):e0208818. doi: 10.1371/journal.pone.0208818. eCollection 2018.	Original Article
244	Hamasaki M, Terkawi MA, Onodera T, et al.	整形外科	A Novel Cartilage Fragments Stimulation Model Revealed that Macrophage Inflammatory Response Causes an Upregulation of Catabolic Factors of Chondrocytes In Vitro.	Osteoarthritis Cartilage. 2019 Feb 1;1947603519828426. doi: 10.1177/1947603519828426. [Epub ahead of print]	Original Article
245	Hontani K, Onodera T, Terashima M, et al.	整形外科	Chondrogenic differentiation of mouse induced pluripotent stem cells using the three-dimensional culture with ultra-purified alginate gel.	J Biomed Mater Res A. 2019 May;107(5):1086-1093. doi: 10.1002/jbm.a.36615. Epub 2019 Feb 27.	Original Article
246	Hishimura R, Onodera T, Hontani K, et al.	整形外科	Osteochondral Autograft Transplantation Technique Augmented by an Ultrapurified Alginate Gel Enhances Osteochondral Repair in a Rabbit Model.	Am J Sports Med. 2019 Feb;47(2):468-478. doi: 10.1177/0363546518817527. Epub 2019 Jan 9.	Original Article
247	Terkawi MA, Hamasaki M, Takahashi D, et al.	整形外科	Transcriptional profile of human macrophages stimulated by ultra-high molecular weight polyethylene particulate debris of orthopedic implants uncovers a common gene expression signature of rheumatoid arthritis.	Acta Biomater. 2018 Jan;65:417-425. doi: 10.1016/j.actbio.2017.11.001. Epub 2017 Nov 3.	Original Article
248	Baba R, Onodera T, Matsuoka M, et al.	整形外科	Bone Marrow Stimulation Technique Augmented by an Ultrapurified Alginate Gel Enhances Cartilage Repair in a Canine Model.	Am J Sports Med. 2018 Jul;46(8):1970-1979. doi: 10.1177/0363546518770436. Epub 2018 May 15.	Original Article
249	Momma D, Onodera T, Homan K, et al.	整形外科	Coordinated existence of multiple gangliosides is required for cartilage metabolism.	Osteoarthritis Cartilage. 2019 Feb;27(2):314-325. doi: 10.1016/j.joca.2018.11.003. Epub 2018 Nov 22.	Original Article
250	Shimizu H, Shimizu T, Takahashi D, et al.	整形外科	Corticosteroid dose increase is a risk factor for nonalcoholic fatty liver disease and contralateral osteonecrosis of the femoral head: a case report.	BMC Musculoskelet Disord. 2019 Feb 19;20(1):88. doi: 10.1186/s12891-019-2468-5.	Case report
251	Abe T, Raison N, Shinohara N, et al.	泌尿器科	The Effect of Visual-Spatial Ability on the Learning of Robot-Assisted Surgical Skills.	J Surg Educ. 2018 Mar-Apr;75(2):458-464.	Original Article
252	Kitta T, Kanno Y, Chiba H, et al.	泌尿器科	Benefits and limitations of animal models in partial bladder outlet obstruction for translational research.	Int J Urol. 2018 Jan;25(1):36-44	Review
253	Kon M, Mitsui T, Kitta T, et al.	泌尿器科	Impact of posterior urethral diameter/external urethral sphincter diameter as a new tool to predict detrusor pressure in the voiding phase	Int Urol Nephrol. 2018 Feb;50(2):211-215	Original Article
254	Moriya K, Nakamura M, Nishimura Y, et al.	泌尿器科	Impact of Preoperative Ultrasonographic Evaluation for Detection of a Viable Testis in Patients With a Unilateral Nonpalpable Testis	J Ultrasound Med. 2018 Jul;37(7):1665-1670	Original Article
255	Ouchi M, Kitta T, Kanno Y, et al.	泌尿器科	Effect of a 5-HT2c receptor agonist on urethral closure mechanisms in female rats	NeuroUrol Urodyn. 2018 Nov;37(8):2382-2388	Original Article
256	Kitta T, Yabe I, Kanno Y, et al.	泌尿器科	Long-term Outcome of Adenosine A2A Receptor Antagonist on Lower Urinary Tract Symptoms in Male Parkinson Disease Patients	Clin Neuropharmacol. 2018 May/June;41(3):98-102	Original Article
257	Osawa T, Abe T, Takada N, et al.	泌尿器科	Validation of the nomogram for predicting 90-day mortality after radical cystectomy in a Japanese cohort	Int J Urol. 2018 Jul;25(7):699-700	Others
258	Ouchi M, Kitta T, Kanno Y, et al.	泌尿器科	Medium-term follow-up after supervised pelvic floor muscle training for patients with anterior vaginal wall prolapse	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 2018 Jun, 225:95-100	Original Article
259	Nakamura M, Moriya K, Nishimura Y, et al.	泌尿器科	Prevalence and risk factors of testicular microlithiasis in patients with hypospadias: a retrospective study	BMC pediatrics 2018 May, 18(1):179	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
260	Matsumoto R, Abe T, Ishizaki J, et al.	泌尿器科	Outcome and prognostic factors in metastatic urothelial carcinoma patients receiving second-line chemotherapy: an analysis of real-world clinical practice data in Japan	Jpn J Clin Oncol. 2018 Aug;48(8):771-776	Original Article
261	Iwami D, Aramaki O, Shinohara N, et al.	泌尿器科	Administration of donor splenocytes via the respiratory tract generates CD8alpha(+) regulatory dendritic cells and induces hyporesponsiveness to fully allogeneic cardiac grafts	Transpl Immunol. 2018 Oct;50:60-67	Original Article
262	Abe T, Kondo T, Harabayashi T, et al.	泌尿器科	Comparative study of lymph node dissection, and oncological outcomes of laparoscopic and open radical nephroureterectomy for patients with urothelial carcinoma of the upper urinary tract undergoing regional lymph node dissection	Jpn J Clin Oncol 2018 Nov;48(11):1001-1011	Original Article
263	Hirose T, Hotta K, Iwami D, et al.	泌尿器科	Safety and Efficacy of Retroperitoneoscopic Living Donor Nephrectomy: Comparison of Early Complication, Donor and Recipient Outcome with Hand-Assisted Laparoscopic Living Donor Nephrectomy	J Endourol. Dec;32(12):1120-1124	Original Article
264	Nishimura Y, Moriya K, Kobayashi S, et al.	泌尿器科	Association between ESRI polymorphisms and second to fourth digit ratio in school-aged children in the Hokkaido Study	Steroids. 2019 Jan;141:55-62	Original Article
265	Iwami D, Miura M, Chiba Y, et al.	泌尿器科	Optimal Settings for Double Filtration Plasmapheresis With Targeted Removal Rate of Preexisting Antibody in Antibody-Incompatible Kidney Transplant	Transplant Proc. 2018 Dec;50(10):3478-3482	Original Article
266	Moriya K, Nakamura M, Kon M, et al.	泌尿器科	Risk factors affecting post-pubertal high serum follicle-stimulating hormone in patients with hypospadias	World J Urol. 2019 Feb 28. doi: 10.1007/s00345-019-02687-w	Original Article
267	Kikuchi H, Abe T, Matsumoto R, et al.	泌尿器科	Nephrometry score correlated with tumor proliferative activity in T1 clear cell renal cell carcinoma	Urol Oncol. 2019 May;37(5):301.e19-301.e25. doi: 10.1016/j.urolonc.2019.02.005	Original Article
268	Sasaki H, Iwami D, Hotta K, et al.	泌尿器科	Spontaneous reduction of native kidney size involving angiomyolipoma lesions in a kidney transplant recipient with tuberous sclerosis complex.	Int J Urol. 2018 May;25(5):513-514. doi: 10.1111/iju.13534. Epub 2018 Feb 8.	case report
269	Hitoshi Saito, Rui Kato, Toshikazu Hashimoto, et al.	麻酔科	Dexmedetomidine Prevents Cognitive Decline by Enhancing Resolution of High Mobility Group Box 1 Protein-induced Inflammation through a Vagomimetic Action in Mice.	Anesthesiology. 128(5):921-931. 2018	Original Article
270	Hitoshi Saito, Rui Kato, Toshikazu Hashimoto, et al.	麻酔科	Influence of nitrous oxide on granule cell migration in the dentate gyrus of the neonatal rat	Biomedical Research 39(1) 39-45, 2018	Original Article
271	Yumiko Yamazaki, Koji Oba, Yoshiro Matsui, et al.	麻酔科	Vasoactive-inotropic score as a predictor of morbidity and mortality in adults after cardiac surgery with cardiopulmonary bypass.	Journal of Anesthesia 32(2) 167-173, 2018	Original Article
272	Kazuyuki Mizunoya, Hitoshi Saito, Yuji Morimoto	麻酔科	Evaluation of external reference levels for central venous pressure measurements of severely obese patients in the supine position	Journal of Anesthesia 32(4) 558-564, 2018	Original Article
273	Koji Hoshino, Koichi Takita, Masami Demura, et al.	麻酔科	Systolic anterior motion of the mitral valve during pulmonary endarterectomy in the absence of left ventricular hypertrophy	a case report Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia 32(2): 201-204, 2018	Case report
274	Katsuhiko Aikawa, Nobuhiro Tanaka, Yuji Morimoto, et al.	麻酔科	Monitored Anesthesia Care Using Subcostal Transversus Abdominis Plane Block for Peritoneal Dialysis Catheter Exchange in a Patient with Recessive Dystrophic Epidermolysis Bullosa	JA Clinical Reports 4:37. doi.org/10.1186/s40981-018-0175-0	Case report
275	Hu J, Feng X, Valdearcos M, et al.	麻酔科	Interleukin-6 is both necessary and sufficient to produce perioperative neurocognitive disorder in mice.	Br J Anaesth. 2018 Mar;120(3):537-545.	Original Article
276	Sato C, Yamamoto Y, Funayama E, et al.	形成外科	Conditioned medium obtained from amnion-derived mesenchymal stem cell culture prevents activation of keloid fibroblasts.	Plast Reconstr Surg 141: 390-398, 2018	Original Articles
277	Maeda T, Yamamoto Y, Iwasaki D, et al.	形成外科	Lymphatic reconnection and restoration of lymphatic flow by nonvascularized lymph node transplantation: real-time fluorescence imaging using indocyanine green and fluorescein isothiocyanate-dextran.	Lymphat Res Biol 16: 165-173, 2018	Original Articles
278	Maeda T, Hayashi T, Furukawa H, et al.	形成外科	Immune-mediated antitumor effect of a transplanted lymph node.	Int J Cancer 143: 1224-1235, 2018	Original Articles
279	Maeda T, Yamamoto Y, Iwasaki D, et al.	形成外科	Lymphatic Reconnection and Restoration of Lymphatic Flow by Nonvascularized Lymph Node Transplantation: Real-Time Fluorescence Imaging Using Indocyanine Green and Fluorescein Isothiocyanate-Dextran.	Lymphat Res Biol 16(2):165-173, 2018	Original Articles
280	Fujita M, Yamamoto Y, Jiang JJ, et al.	形成外科	NEDD4 Is Involved in Inflammation Development during Keloid Formation.	J Invest Dermatol 139(2):333-341, 2019	Original Article
281	Ishida N, Baba M, Hatanaka Y, et al.	乳腺外科	PIK3CA mutation, reduced AKT serine 473 phosphorylation, and increased ERα serine 167 phosphorylation are positive prognostic indicators in postmenopausal estrogen receptor-positive early breast cancer	Oncotarget. 2018 Apr 3;9(25):17711-17724. doi: 10.18632/oncotarget.24845. eCollection 2018 Apr 3.	Original Article
282	Wanifuchi-Endo Y, Asano T, Kondo N, et al.	乳腺外科	Effects of serum estradiol and progesterone on estrogen-regulated gene expression in breast cancers of premenopausal patients	Jpn J Clin Oncol. 2019 Jan 1;49(1):12-21. doi: 10.1093/jco/hyy156.	Original Article
283	Miyoshi Y, Shien T, Ogiya A, et al.	乳腺外科	Associations in tumor infiltrating lymphocytes between clinicopathological factors and clinical outcomes in estrogen receptor-positive/human epidermal growth factor receptor type 2 negative breast cancer.	Oncol Lett. 2019 Feb;17(2):2177-2186. doi: 10.3892/ol.2018.9853. Epub 2018 Dec 19.	Original Article
284	Ueno T, Saji S, Masuda N, et al.	乳腺外科	Changes in Recurrence Score by neoadjuvant endocrine therapy of breast cancer and their prognostic implication	ESMO Open. 2019 Feb 27;4(1):e000476. doi: 10.1136/esmoopen-2018-000476. eCollection 2019	Original Article
285	Zhao S, Yu W, Ukon N, et al.	乳腺外科	Elimination of tumor hypoxia by eribulin demonstrated by 18F-FMISO hypoxia imaging in human tumor xenograft models.	EJNMMI Res. 2019 Jun 3;9(1):51. doi: 10.1186/s13550-019-0521-x.	Original Article
286	Hagio K, Baba M, Ishida N, et al.	乳腺外科	Tamoxifen withdrawal in women with progressive metastatic breast cancer: a case series of six patients	Int Cancer Conf J. 2018 Aug 6;7(4):142-147. doi: 10.1007/s13691-018-0339-9. eCollection 2018 Oct.	Case report
287	Gando S, Mayumi T, Ukai T	救急科	The roles of activated protein C in experimental trauma models.	Chin J Traumatol. 2018;21:311-315	Review
288	Hayakawa M, Yamakawa K, Kudo D, et al.	救急科	Optimal Antithrombin Activity Threshold for Initiating Antithrombin Supplementation in Patients With Sepsis-Induced Disseminated Intravascular Coagulation: A Multicenter Retrospective Observational Study.	Clin Appl Thromb Hemost 2018;24:874-83.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
289	Hayakawa M, Yamakawa K, Saito S, et al.	救急科	Nationwide registry of sepsis patients in Japan focused on disseminated intravascular coagulation 2011–2013.	Sci Data 2018;5:180243.	Original Article
290	Kitamura T, Iwami T, Atsumi T, et al.	救急科	The profile of Japanese Association for Acute Medicine – out-of-hospital cardiac arrest registry in 2014–2015.	Acute Med Surg 2018;5:249–58.	Original Article
291	Kudo D, Hayakawa M, Ono K, Yamakawa K.	救急科	Impact of non-anticoagulant therapy on patients with sepsis-induced disseminated intravascular coagulation: A multicenter, case-control study.	Thromb Res 2018;163:22–9.	Original Article
292	Kumano O, Ieko M, Komiyama Y, et al.	救急科	Basic Evaluation of the Newly Developed “Lias Auto P-FDP” Assay and the Influence of Plasmin-alpha2 Plasmin Inhibitor Complex Values on Discrepancy in the Comparison with “Lias Auto D-Dimer Neo” Assay.	Clin Lab 2018;64:433–42.	Original Article
293	Umemura Y, Yamakawa K, Hayakawa M, et al.	救急科	Concomitant Versus Individual Administration of Antithrombin and Thrombomodulin for Sepsis-Induced Disseminated Intravascular Coagulation: A Nationwide Japanese Registry Study.	Clin Appl Thromb Hemost 2018;24:734–40.	Original Article
294	Yamakawa K, Yoshimura J, Ito T, et al.	救急科	External Validation of the Two Newly Proposed Criteria for Assessing Coagulopathy in Sepsis.	Thromb Haemost 2019;119:203–12.	Original Article
295	Endo S, Shimazaki R; Antithrombin Gamma Study Group.	救急科	An open-label, randomized, phase 3 study of the efficacy and safety of antithrombin gamma in patients with sepsis-induced disseminated intravascular coagulation syndrome.	J Intensive Care 2018;6:75.	Original Article
296	Abe T, Ogura H, Shiraishi A, et al.	救急科	Characteristics, management, and in-hospital mortality among patients with severe sepsis in intensive care units in Japan: the FORECAST study.	Crit Care. 2018;22:322	Original Article
297	Shirai S, Yabe I, Naganuma R, et al.	神経内科	Tremor during orthostatism as the initial symptom of Machado-Joseph disease	Clin Neurol Neurosurg 2018; 173: 173–175	Case report
298	Uwatoko H, Yabe I, Sato S, et al.	神経内科	Hashimoto’s encephalopathy mimicking a brain tumor and its pathological findings: A case report.	J Neurol 2018; 394: 141–143	Case report
299	Shirai S, Yabe I, Takahashi-Iwata I, et al.	神経内科	The responsiveness of triaxial accelerometer measurement of gait ataxia.	Cerebellum (in press)	Original Article
300	Katsu M, Hama Y, Utsumi J, et al.	神経内科	MicroRNA expression profiles of neuron-derived extracellular vesicles in plasma from patients with amyotrophic lateral sclerosis.	Neurosci Lett (in press)	Original Article
301	Uwatoko H, Hama Y, Takahashi-Iwata I, et al.	神経内科	Identification of plasma miRNA expression changes in multiple system atrophy and Parkinson’s disease	Mol Brain (under submission)	Original Article
302	Hama Y, Katsu M, Takigawa I, et al.	神経内科	Genomic copy number variation analysis in multiple system atrophy.	Mol. Brain. 10, 54, 2017	Original Article
303	Yabe I, Yaguchi H, Kato Y, et al.	神経内科	Mutations in bassoon in individuals with familial and sporadic progressive supranuclear palsy-like syndrome.	Sci. Rep. 8, 819, 2018	Original Article
304	Yaguchi H, Yabe I, Takahashi H, et al.	神経内科	Anti-Sez6l2 antibody detected in a patient with immune-mediated cerebellar ataxia, inhibits complex formation of GluR1 and Sez6l2.	J. Neurol. 265, 962–965, 2018	Original Article
305	Uwatoko H, Hama Y, Takahashi-Iwata I, et al.	神経内科	Identification of plasma microRNA expression changes in multiple system atrophy and Parkinson’s disease.	Mol. Brain. (in press)	Original Article
306	Eguchi K, Tsuzaka K, Yabe I, Sasaki H	神経内科	Reversible splenic lesion in new-onset refractory status epilepticus: A case report.	Clin. Neurol. Neurosurg. 1 (in press)	Case report
307	Fukutsu K, Kase S, Ishijima K, et al.	眼科	The clinical features of radiation cataract in patients with ocular adnexal mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma.	Radiat Oncol. 2018/05/18	Original Article
308	Sakai M, Takase H, Namba K, et al.	眼科	Two cases of cytomegalovirus panuveitis in immunocompetent patients.	Am J Ophthalmol Case Rep. 2018/05/22	Case report
309	Tanaka A, Saito W, Kase S, et al.	眼科	Role of the Epipapillary Membrane in Maculopathy Associated with Cavitory Optic Disc Anomalies: Morphology, Surgical Outcomes, and Histopathology.	J Ophthalmol. 2018/06/02	Original Article
310	Tagawa Y, Noda K, Ohguchi T, et al.	眼科	Corneal hyperalgesia in patients with short tear film break-up time dry eye.	Ocul Surf. 2018/08/21	Original Article
311	Ando R, Saito W, Kanda A, et al.	眼科	Clinical Features of Japanese Patients With Anti-β7-enolase Antibody-Positive Autoimmune Retinopathy: Novel Subtype of Multiple Drusen.	Am J Ophthalmol. 2018/09/10	Original Article
312	Suimon Y, Kase S, Ishijima K, et al.	眼科	A clinicopathological study on IgG4-related ophthalmic disease.	Int J Ophthalmol. 2018/09/19	Original Article
313	Takita A, Hashimoto Y, Saito W, et al.	眼科	Changes in blood flow velocity and thickness of the choroid in a patient with leukemic retinopathy.	Am J Ophthalmol Case Rep. 2018/09/28	Case report
314	Wu D, Kanda A, Liu Y, et al.	眼科	Galectin-1 promotes choroidal neovascularization and subretinal fibrosis mediated via epithelial-mesenchymal transition.	FASEB J. 2018/10/03	Original Article
315	Kase S, Namba K, Kanno-Okada H, et al.	眼科	Immunohistochemical and Immunocytochemical Analyses in Patients with Vitreoretinal Lymphoma.	Ocul Immunol Inflamm. 2018/10/20	Original Article
316	Kase S, Kikuchi I, Ishida S.	眼科	Expression of VEGF in human conjunctival melanoma analyzed with immunohistochemistry.	Clin Ophthalmol. 2018/12/13	Original Article
317	Kase S, Suimon Y, Ishijima K, et al.	眼科	Rhegmatogenous retinal detachment in a patient with choroidal melanoma simulating choroidal detachment: a case report.	J Med Case Rep. 2018/12/26	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
318	Suimon Y, Kase S, Ishijima K, et al.	眼科	Clinicopathological features of cystic lesions in the eyelid.	Biomed Rep. 2019/01/25	Original Article
319	Kanda A, Noda K, Hirose I, Ishida S.	眼科	TGF- β -SNAIL axis induces Muller glial-mesenchymal transition in the pathogenesis of idiopathic epiretinal membrane.	Sci Rep. 2019/01/27	Original Article
320	Kikuchi I, Kase S, Hashimoto Y, H et al.	眼科	Involvement of circulatory disturbance in optic disk melanocytoma with visual dysfunction.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2019/02/05	Original Article
321	Kase S, Namba K, Kanno-Okada H, et al.	眼科	Immunohistochemical and Immunocytochemical Analyses in Patients with Vitreoretinal Lymphoma.	Ocul Immunol Inflamm. 2018 Oct 18:1-9	Original Article
322	Homma A, Onimaru R, Matsuura K, et al.	耳鼻咽喉科	Dose-finding and efficacy confirmation trial of the superselective intra-arterial infusion of cisplatin and concomitant radiotherapy for locally advanced maxillary sinus cancer (Japan Clinical Oncology Group 1212): Dose-finding phase.	Head Neck 40: 475-484, 2018	Original Article
323	Homma A, Onimaru R	耳鼻咽喉科	Intra-arterial Chemoradiation Therapy as an Option for Maxillary Sinus Cancers.	Int J Radiat Oncol Biol Phys 101: 763, 2018	Original Article
324	Kano S, Sakashita T, Tsushima N, et al.	耳鼻咽喉科	Validation of the 8th edition of the AJCC/UICC TNM staging system for tongue squamous cell carcinoma.	Int J Clin Oncol 23: 844-850, 2018	Original Article
325	Fujiwara K, Furuta Y, Yamamoto N, et al.	耳鼻咽喉科	Factors affecting the effect of physical rehabilitation therapy for synkinesis as a sequela to facial nerve palsy.	Auris Nasus Larynx. 45:732-739, 2018	Original Article
326	Morita S, Nakamaru Y, Nakazawa D, et al.	耳鼻咽喉科	Elevated Level of Myeloperoxidase-Deoxyribonucleic Acid Complex in the Middle Ear Fluid Obtained From Patients With Otitis Media Associated With Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-associated Vasculitis.	Otol Neurotol 39: e257-e262, 2018	Original Article
327	Morita S, Nakamaru Y, Fukuda A, et al.	耳鼻咽喉科	Clinical Characteristics and Treatment Outcomes for Patients With External Auditory Canal Cholesteatoma.	Otol Neurotol 39: 189-195, 2018	Original Article
328	Morita S, Mizumachi T, Nakamaru Y, et al.	耳鼻咽喉科	Comparison of the University of Pittsburgh staging system and the eighth edition of the American Joint Committee on Cancer TNM classification for the prognostic evaluation of external auditory canal cancer.	Int J Clin Oncol 23:1029-1037, 2018	Original Article
329	Suzuki M, Ramezanzpour M, Cooksley C, et al.	耳鼻咽喉科	Sirtuin-1 Controls Poly (I:C)-Dependent Matrix Metalloproteinase 9 Activation in Primary Human Nasal Epithelial Cells.	Am J Respir Cell Mol Biol 59:500-510, 2018	Original Article
330	Suzuki M	耳鼻咽喉科	Spontaneous regression of swollen submandibular glands in IgG4-related disease.	Allergy & Rhinology, in press	Original Article
331	Fukuda A, Morita S, Nakamaru Y, et al.	耳鼻咽喉科	Anti-mumps IgM antibody positive rate with sudden sensorineural hearing loss using second-generation enzyme immunoassay: A retrospective, multi-institutional investigation in Hokkaido, Japan.	Auris Nasus Larynx 45: 911-915, 2018	Original Article
332	Hamada S, Fujiwara K, Hatakeyama H, et al.	耳鼻咽喉科	Oncocytoma of the Parotid Gland with Facial Nerve Paralysis.	Case Rep Otolaryngol : Article ID 7687951, 2018	Original Article
333	Yasukawa S, Kano S, Hatakeyama H, et al.	耳鼻咽喉科	Genetic mutation analysis of the malignant transformation of sinonasal inverted papilloma by targeted amplicon sequencing.	Int J Clin Oncol 23: 835-843, 2018	Original Article
334	Suzuki M	耳鼻咽喉科	October Highlights/Papers by Junior Investigators/NIH News.	Am J of Respir Cell Mol Biol 59: iv, 2018	Other
335	Fujiwara K, Yanagi H, Morita S, et al.	耳鼻咽喉科	Evaluation of vertical semicircular canal function in patients with vestibular schwannoma	Ann Otol Rhinol Laryngol. 2019 Feb;128(2):113-120	Original Article
336	Morita S, Nakamaru Y, Nakazawa D, et al.	耳鼻咽喉科	The Diagnostic and Clinical Utility of the Myeloperoxidase-DNA Complex as a Biomarker in Otitis Media With Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-associated Vasculitis.	Otol Neurotol. 2019 Feb;40(2):e99-e106.	Original Article
337	Yanagi T, Watanabe M, Hata H, et al.	皮膚科	Loss of TRIM29 Alters Keratin Distribution to Promote Cell Invasion in Squamous Cell Carcinoma.	Cancer Res 78: 6795-6806, 2018	Original Article
338	Mai Y, Ujije H, Iguchi A, et al.	皮膚科	A case of red lunulae after haematopoietic stem cell transplantation.	Eur J Dermatol. 2018, 28:407-409	case report
339	Otsuka T, Iwata H, Kosumi H, et al.	皮膚科	Refractory oral ulcers in eosinophilic granulomatosis with polyangiitis.	J Dermatol. 2019 May 3. doi: 10.1111/1346-8138.14897.	Original Article
340	Imafuku K	皮膚科	Case of successfully switching from nivolumab to vemurafenib with oral corticosteroids	J Dermatol 45: e156, 2018.	Original Article
341	Ito T	皮膚科	Potential role of extracellular vesicle-mediated antigen presentation in Helicobacter pylori hypersensitivity during eradication therapy.	J Allergy Clin Immunol 142: 672-676.e612, 2018.	Original Article
342	Kitamura S	皮膚科	Lipofuscin deposition causes the pigmentation of apocrine hidrocystoma.	J Dermatol 45: 91-94, 2018.	Original Article
343	Kitamura S	皮膚科	Dermoscopic evaluation for skin grafts after surgery; neo-vascularization correlates with survival of skin grafts: A prospective study.	J Dermatol Sci 90: 213-216, 2018.	Original Article
344	Kitamura S	皮膚科	Retrospective study on the correlation between 18-fluorodeoxyglucose uptake in positron emission tomography-computer tomography and tumour volume, cytological activity as assessed with Ki-67 and GLUT-1 staining in 10 cases of Merkel cell carcinoma.	J Eur Acad Dermatol Venereol 32: e285-e287, 2018.	Original Article
345	Kosumi H	皮膚科	Dermoscopic features of tungiasis.	J Eur Acad Dermatol Venereol 32: e313-e314, 2018.	Original Article
346	Kosumi H	皮膚科	Diagnosis at a Glance: Acquired Perforating Dermatitis.	Diabetes Care 41: 911-912, 2018.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
347	Kosumi H	皮膚科	Diagnostic features of acquired dermal melanocytosis of the face and extremities.	Clin Exp Dermatol 43: 806-809, 2018.	Original Article
348	Kosumi H	皮膚科	Ramucirumab-induced multiple haemangiomas of the skin: Two case reports.	Acta Derm Venereol 98: 454-455, 2018.	Original Article
349	Kosumi H	皮膚科	Sweet's syndrome mimicking anti-neutrophil cytoplasmic antibodies-associated vasculitis.	Am J Med 131: e241-e242, 2018.	Original Article
350	Kosumi H	皮膚科	Unusual post-patch testing erythema: a late, granulomatous, non-eczematous reaction to gold sodium thiosulphate.	J Eur Acad Dermatol Venereol 32: e126-e127, 2018.	Original Article
351	Kosumi H	皮膚科	Horn-like tumour on the dorsal hand.	Lancet Infect Dis 18: 696, 2018.	Original Article
352	Mai Y,	皮膚科	Detection of anti-BP180 NC16A autoantibodies after the onset of dipeptidyl peptidase-IV inhibitor-associated bullous pemphigoid: a report of three patients.	Br J Dermatol 179: 790-791, 2018.	Original Article
353	Mai Y,	皮膚科	Bullous Pemphigoid Triggered by Thermal Burn Under Medication With a Dipeptidyl Peptidase-IV Inhibitor: A Case Report and Review of the Literature.	Front Immunol 9: 542, 2018.	Original Article
354	Mai Y,	皮膚科	Six-month History of a Split Thumbnail: A Quiz.	Acta Derm Venereol 98: 297-298, 2018.	Original Article
355	Mai Y,	皮膚科	A case of red lunulae after haematopoietic stem cell transplantation.	Eur J Dermatol 28: 407-409, 2018.	Original Article
356	Matsumura W	皮膚科	Establishment of integration-free induced pluripotent stem cells from human recessive dystrophic epidermolysis bullosa keratinocytes.	J Dermatol Sci 89: 263-271, 2018.	Original Article
357	Muramatsu K	皮膚科	Regulatory T-cell dysfunction induces autoantibodies to bullous pemphigoid antigens in mice and human subjects.	J Allergy Clin Immunol 142: 1818-1830.e1816, 2018.	Original Article
358	Nakayama C	皮膚科	The development of induced pluripotent stem cell-derived mesenchymal stem/stromal cells from normal human and RDEB epidermal keratinocytes.	J Dermatol Sci 91: 301-310, 2018.	Original Article
359	Nomura T	皮膚科	Chromosomal inversions as a hidden disease-modifying factor for somatic recombination phenotypes.	JCI Insight 3: e97595, 2018.	Original Article
360	Ohguchi Y	皮膚科	Gentamicin-induced readthrough and nonsense-mediated mRNA decay of SERPINB7 nonsense transcripts.	J Invest Dermatol 138: 836-843, 2018.	Original Article
361	Ujii H	皮膚科	HLA-DQB1*03:01 as a Biomarker for Genetic Susceptibility to Bullous Pemphigoid Induced by DPP-4 Inhibitors.	J Invest Dermatol 138: 1201-1204, 2018.	Original Article
362	Yanagi T	皮膚科	Novel Therapeutic Targets in Cutaneous Squamous Cell Carcinoma.	Front Oncol 8: 79, 2018.	Original Article
363	Yanagi T	皮膚科	Loss of TRIM29 alters keratin distribution to promote cell invasion in squamous cell carcinoma.	Cancer Res 78: 6795-6806, 2018.	Original Article
364	Yoshimoto N	皮膚科	Bullous pemphigoid with the deposition of IgG2 but not IgG1, IgG3 nor IgG4 autoantibodies at the basement membrane zone.	J Eur Acad Dermatol Venereol 32: e344-e346, 2018.	Original Article
365	Toyoshima K*,Kako Y, Toyomaki A, et al.	精神科神経科	Associations between cognitive impairment and quality of life in euthymic bipolar patients.	Psychiatry Res 271, 510-515, 2019	Original article
366	Mitsui N*, Asakura S, Takanobu K, et al.	精神科神経科	Prediction of major depressive episodes and suicide-related ideation over a 3-year interval among Japanese undergraduates.	PLoS One 13, e0201047, 2018	Original article
367	Horinouchi T, Sakurai K, Kurita T, et al.	精神科神経科	Seizure manifesting as a reaching/grasping movement in a patient with post-traumatic epilepsy	Clin Case Rep 6, 2271-2275, 2018	Case report
368	Tokairin K, Osanai T, Kazumata K, et al.	脳神経外科	Contre-coup injury-induced middle meningeal arteriovenous fistula detected by time-of-flight magnetic resonance angiography and magnetic resonance arterial spin labeling: case report and review of the literature.	World neurosurgery・2019年3月	Case Report
369	Osanai T, Ito Y, Ushikoshi S, et al.	脳神経外科	Efficacy of 'drive and retrieve' as a cooperative method for prompt endovascular treatment for acute ischemic stroke.	Journal of neurointerventional surgery・2019年1月	Original research
370	Kawabori M, Kurisu K, Niya Y, et al.	脳神経外科	Mollaret Meningitis with a High Level of Cytokines in the Cerebrospinal Fluid Successfully Treated by Indomethacin.	Internal medicine (Tokyo, Japan)・2018年12月	Case Report
371	Kawabori M, Niya Y, Iwasaki M, et al.	脳神経外科	Identification of plaque location using intraoperative indocyanine green during carotid endarterectomy for patient with near occlusion.	Journal of neurosurgical sciences・2018年9月	Original Article
372	Tokairin K, Kazumata K, Uchino H, et al.	脳神経外科	Postoperative Intracerebral Hemorrhage After Combined Revascularization Surgery in Moyamoya Disease: Profiles and Clinical Associations.	World neurosurgery・2018年8月	Original Article
373	Yamaguchi S, Ishi Y, Motegi H, et al.	脳神経外科	The prognostic improvement of add-on bevacizumab for progressive disease during concomitant temozolomide and radiation therapy in the patients with glioblastoma and anaplastic astrocytoma.	Journal of neurosurgical sciences・2018年7月	Original Article
374	Houkin K, Shichinohe H, Abe K, et al.	脳神経外科	Accelerating Cell Therapy for Stroke in Japan: Regulatory Framework and Guidelines on Development of Cell-Based Products.	Stroke・2018年4月	Original Article
375	Kazumata K, Uchino H, Tokairin K, et al.	脳神経外科	Cerebral Hyperperfusion Syndrome After Revascularization Surgery in Moyamoya Disease: Region-Symptom Mapping and Estimating a Critical Threshold.	World neurosurgery・2018年6月	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
376	Abiko K, Shiga T, Katoh C, et al.	リハビリテーション科	Relationship between intelligence quotient (IQ) and cerebral metabolic rate of oxygen in patients with neurobehavioural disability after traumatic brain injury	Brain Inj July 16:1-6, 2018	Original article
377	Koganemaru S, Mikami Y, Maezawa H, et al.	リハビリテーション科	Anodal transcranial patterned stimulation of the motor cortex during gait can induce activity-dependent corticospinal plasticity to alter human gait	PLoS ONE 13(12):e0208691, 2018	Original article
378	Dong P, Xiong Y, Yue J, et al.	婦人科	Tumor-Intrinsic PD-L1 Signaling in Cancer Initiation, Development and Treatment: Beyond Immune Evasion.	Front Oncol. 2018;8:386	Review
379	Dong P, Xiong Y, Yue J, et al.	婦人科	BTH3 As a Promoter of Metastasis and Promising Therapeutic Target	Front Oncol. 2018;8:264	Review
380	Dong P, Xiong Y, Yue J, et al.	婦人科	Long Non-coding RNA NEAT1: A Novel Target for Diagnosis and Therapy in Human Tumors.	Front Genet. 2018;9:471	Review
381	Dong P, Xiong Y, Yu J, et al.	婦人科	Control of PD-L1 expression by miR-140/142/340/383 and oncogenic activation of the OCT4-miR-18a pathway in cervical cancer.	Oncogene. 2018;37(39):5257-68	Original Article
382	Dong P, Xiong Y, Yue J, et al.	婦人科	miR-34a, miR-424 and miR-513 inhibit MMSET expression to repress endometrial cancer cell invasion and sphere formation.	Oncotarget. 2018;9(33):23253-63	Original Article
383	Asahi Y, Honda S, Okada T, et al.	小児科	Usefulness of Plain Computed Tomography with Swallowing of GastrografinTM for the Diagnosis of a Late-Onset Iatrogenic Diaphragmatic Hernia following Biopsy of a Diaphragmatic Tumor: Report of a Case.	Case Rep Gastroenterol 2018;12:271-276	Case report
384	Inoue T, Katoh N, Ito YM, et al.	放射線治療科	Stereotactic body radiotherapy to treat small lung lesions clinically diagnosed as primary lung cancer by radiological examination: A prospective observational study. Lung Cancer.	Lung Cancer. 2018 Aug;	Original Article
385	Onimaru R, Onishi H, Ogawa G, et al.	放射線治療科	Final report of survival and late toxicities in the Phase I study of stereotactic body radiation therapy for peripheral T2N0M0 non-small cell lung cancer (JCOG0702).	Jpn J Clin Oncol.2018 Oct 1	Original Article
386	Katoh N, Onishi H, Uchinami Y, et al.	放射線治療科	Real-time tumor-tracking radiotherapy and general stereotactic body radiotherapy for adrenal metastasis in patients with oligometastasis.	Technology in Cancer Research & Treatment 2018.	Original Article
387	Prayongrat A, Kobashi K, Ito Y M, et al.	放射線治療科	The normal tissue complication probability model-based approach considering uncertainties for the selective use of radiation modality in primary liver cancer patients.	Radiotherapy and Oncology	Original Article
388	Fujima N, Homma A, Harada T, et al.	放射線診断科	The utility of MRI histogram and texture analysis for the prediction of histological diagnosis in head and neck malignancies.	Cancer Imaging. 2019 Feb 4;19(1):5. doi: 10.1186/s40644-019-0193-9.	Original Article
389	Fujima N, Hirata K, Shiga T, et al.	放射線診断科	Semi-quantitative analysis of pre-treatment morphological and intratumoral characteristics using 18F-fluorodeoxyglucose positron-emission tomography as predictors of treatment outcome in nasal and paranasal squamous cell carcinoma.	Quant Imaging Med Surg 8:788-795, 2018	Original Article
390	Fujima N, Sakashita T, Homma A, et al.	放射線診断科	Utility of a Hybrid IVIM-DKI Model to Predict the Development of Distant Metastasis in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma Patients.	Magn Reson Med Sci 17:21-27, 2018	Original Article
391	Kameda H, Kudo K, Matsuda T, et al.	放射線診断科	Improvement of the repeatability of parallel transmission at 7T using interleaved acquisition in the calibration scan	J Magn Reson Imaging. 2018 Jul;48(1):94-101. doi: 10.1002/jmri.25903	Original Article
392	Kikuchi Y, Naya M, Oyama-Manabe N, et al.	放射線診断科	Assessment of Coronary Flow Velocity Reserve in the Left Main Trunk Using Phase-contrast MR Imaging at 3T: Comparison with 15O-labeled Water Positron Emission Tomography	Magn Reson Med Sci. 2018 Jul 26. doi: 10.2463/mrms.mp.2018-0003	Original Article
393	Fujima N, Hirata K, Shiga T, et al.	放射線診断科	Semi-quantitative analysis of pre-treatment morphological and intratumoral characteristics using 18F-fluorodeoxyglucose positron-emission tomography as predictors of treatment outcome in nasal and paranasal squamous cell carcinoma	Quant Imaging Med Surg. 2018 Sep;8(8):788-795. doi: 10.21037/qims.2018.09.09	Original Article
394	Oyama-Manabe N, Manabe O, Naya M, et al.	放射線診断科	Quantitative evaluation of myocardial ischemia with dynamic perfusion CT	Annals of Nuclear Cardiology J-STAGE Advance published date: May 10 2019	Original Article
395	Oyama-Manabe N, Yabusaki S, Manabe O, et al.	放射線診断科	IgG4-related cardiovascular disease from the aorta to coronary artery: utility of multidetector CT and PET/CT in diagnosis and follow-up	Radiographics 2018 Oct 5:180049. doi: 10.1148/rg.2018180049.	Original Article
396	Fujima N, Hirata K, Shiga T, et al.	放射線診断科	Integrating quantitative morphological and intratumoral textural characteristics in FDG-PET for the prediction of prognosis in pharynx squamous cell carcinoma patients	Clin Radiol. 2018 Dec;73(12):1059.e1-1059.e8. doi: 10.1016/j.crad.2018.08.011. Epub 2018 Sep 21	Original Article
397	Morita R, Abo D, Soyama T, et al.	放射線診断科	Spontaneous recovery of multiple hepatic artery aneurysms with segmental arterial mediolysis	Interventional Radiology 2018; 3: 88-92	Original Article
398	Fujima N, Homma A, Harada T, et al.	放射線診断科	The utility of MRI histogram and texture analysis for the prediction of histological diagnosis in head and neck malignancies	Cancer Imaging. 2019 Feb 4;19(1):5. doi: 10.1186/s40644-019-0193-9	Original Article
399	Sakuhara Y, Nishio S, Hattanda F, et al.	放射線診断科	Initial experience with the use of tris-acryl gelatin microspheres for transcatheter arterial embolization for enlarged polycystic liver	Clin Exp Nephrol. 2019 Feb 15. [Overseas journal]	Original Article
400	Fujima N, Hirata K, Shiga T, et al.	放射線診断科	Integrating quantitative morphological and intratumoral textural characteristics in FDG-PET for the prediction of prognosis in pharynx squamous cell carcinoma patients	Clinical Radiology 73 (2018) 1059.e1e1059.e8	Original Article
401	Kudo K, Harada T, Kameda H, et al.	放射線診断科	Indirect MRI of 17 o-labeled water using steady-state sequences: Signal simulation and preclinical experiment	J Magn Reson Imaging. 2018 May;47(5):1373-1379	Original Article
402	Kudo K, Harada T, Kameda H, et al.	放射線診断科	Indirect Proton MR Imaging and Kinetic Analysis of 17O-Labeled Water Tracer in the Brain	Magn Reson Med Sci. 2018 Jul 10;17(3):223-230	Original Article
403	Oyama-Manabe N, Yabusaki S, Manabe O, et al.	放射線診断科	IgG4-related Cardiovascular Disease from the Aorta to the Coronary Arteries: Multidetector CT and PET/CT.	Radiographics. 2018 Nov-Dec;38(7):1934-1948. doi: 10.1148/rg.2018180049. Epub 2018 Oct 5.	Original Article
404	Manabe O, Kikuchi T, Scholte AJHA, et al.	核医学診療科	Radiopharmaceutical tracers for cardiac imaging	J Nucl Cardiol. 2018 Aug;25(4):1204-1236	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
405	Manabe O, Naya M, Aikawa T, et al.	核医学診療科	O-15-labeled Water is the Best Myocardial Blood Flow Tracer for Precise MBF Quantification Ann Nucl Cardiol	Advance published date: July 31, 2018. doi: https://doi.org/10.17996/anc.18-00064	Original Article
406	Manabe O, Oyama-Manabe N, Naya M, et al.	核医学診療科	Reduced myocardial flow reserve is associated with subendocardial infarction and coronary stenosis in patients with coronary artery disease: Perfusion MRI study	Cardiovascular Imaging Asia. 2019 Jan;3(1):8-14	Original Article
407	Manabe O, Naya M, Oyama-Manabe N, et al.	核医学診療科	The role of multimodality imaging in takotsubo cardiomyopathy	J Nucl Cardiol 2018, doi:10.1007/s12350-018-1312-x. [Epub ahead of print]	Original Article
408	Manabe O, Ohira H, Hirata K, et al.	核医学診療科	Use of 18F-FDG PET/CT texture analysis to diagnose cardiac sarcoidosis	Eur J Nucl Med Mol Imaging. 2019 Jun;46(6):1240-1247. doi: 10.1007/s00259-018-4195-9. Epub 2018 Oct 16	Original Article
409	Furuya S, Manabe O, Nanbu T, et al.	核医学診療科	Renal Mucinous Tubular and Spindle Cell Carcinoma Shows a High Uptake on 18F-FDG PET/CT	Intern Med. 2018 Apr 15;57(8):1131-1134. doi: 10.2169/internalmedicine.9523-17.	Original Article
410	Furuya S, Iwasaki M, Yokohama T, et al.	核医学診療科	Highly Accurate Analysis of the Cervical Neural Tract of the Elderly Using ZOOM DTI	Neurospine. 2018 Jun;15(2):169-174. doi: 10.14245/ns.1836116.058	Original Article
411	Furuya S, Manabe O, Ohira H, et al.	核医学診療科	Which is the proper reference tissue for measuring the change in FDG PET metabolic volume of cardiac sarcoidosis before and after steroid therapy?	EJNMMI Res. 2018 Oct 5;8(1):94. doi: 10.1186/s13550-018-0447-8.	Original Article
412	Shimizu A, Takahashi T, Kushima R, et al.	病理部/病理診断科	An extremely rare case of Epstein-Barr virus-associated gastric carcinoma with differentiation to neuroendocrine carcinoma.	Pathol Int. 2018 Jan;68(1):41-46. doi: 10.1111/pin.12613. Epub 2017 Dec 15.	Case report
413	Kawamoto K, Miyaji H, Nishida E, et al.	歯周・歯内療法科	Characterization and evaluation of graphene oxide scaffold for periodontal wound healing of class II furcation defects in dog	Int J Nanomed, 13, 2365-2376, 2018.	Original Article
414	Takata R, Akasaka T, Tamai M, et al.	歯周・歯内療法科	Effect of a nano-scale fine hole pattern on the differentiation of RAW264.7 cells into osteoclasts.	Dig J Nanomater Bios, 13 (2), 451-458, 2018.	Original Article
415	Makita R, Akasaka T, Tamagawa S, et al.	歯周・歯内療法科	Preparation of micro/nanopatterned gelatins crosslinked with genipin for biocompatible dental implants	Beilstein J Nanotechnol, 9, 1735-1754, 2018.	Original Article
416	Hikosou D, Saita S, Miyata S, et al.	歯周・歯内療法科	Aggregation/self-assembly-induced approach for efficient AuAg bimetallic nanocluster-based photosensitizers.	J Phys Chem C, 122, 12494-12501, 2018.	Original Article
417	Tominaga C, Shitomi K, Miyaji H, et al.	歯周・歯内療法科	Antibacterial photocurable acrylic resin coating using a conjugate between silver nanoclusters and alkyl quaternary ammonium	ACS Appl Nano Mater, 1 (9), 4809-4818, 2018.	Original Article
418	Nathanael J, Oyane A, Nakamura M, et al.	歯周・歯内療法科	Calcium phosphate coating on dental composite resins by a laser-assisted biomimetic process.	Heliyon, 4 (8), e00734 (1-16), 2018.	Original Article
419	Nathanael AJ, Oyane A, Nakamura M, et al.	歯周・歯内療法科	Rapid and area-specific coating of fluoride-incorporated apatite layers by a laser-assisted biomimetic process for tooth surface functionalization.	Acta Biomater, 79, 148-157, 2018.	Original Article
420	Oyane A, Nakamura M, Sakamaki I, et al.	歯周・歯内療法科	Laser-assisted wet coating of calcium phosphate for surface-functionalization of PEEK	PLoS ONE, 13 (10), 1-15 (e0206524), 2018.	Original Article
421	Honma J, Akasaka T, Tamai M, et al.	歯周・歯内療法科	Fusion of RAW 264.7 macrophage cells on micro-scale fine pillar patterns	Dig J Nanomater Bios, 13 (4), 1123-1131, 2018.	Original Article
422	Tenkumo T, Sáenz RVJ, Keisuke Nakamura, et al.	歯周・歯内療法科	Prolonged release of bone morphogenetic protein-2 in vivo by gene transfection with DNA-functionalized calcium phosphate nanoparticle-loaded collagen scaffolds.	Mater Sci Eng C Mater Biol Appl, 92: 172-183, 2018.	Original Article
423	Yamaji K, Yokoyama A, Shimada Y, et al.	歯周・歯内療法科	Effects of transforming growth factor- β 1 and bone morphogenetic protein-2 on bone formation using a bioabsorbable scaffold at palatal sites in rats	J Oral Tissue Engin, 16(2):74-79, 2018.	Original Article
424	Nakamura K, Abe S, Minamikawa H, et al.	小児・障害者歯科	Calcium charge and release of conventional glass-ionomer cement containing nanoporous silica.	Materials July 2018, 11(8):1295	Original Article
425	Kikuri T, Mishima H, Imura H, et al.	小児・障害者歯科	Patients with SATB2-associated syndrome exhibiting multiple odontomas.	Am J Med Genet A. 2018 Dec;176(12):2614-2622.	Original Article
426	Takasaki C, Yoshihara T, Yawaka Y	小児・障害者歯科	Oral findings in a patient with megacystis microcolon intestinal hypoperistalsis syndrome: A case report.	Pediatr Dent J. 2018 Aug 28(2): 57-61, 2018.	Case report
427	Takata R, Akasaka T, Tamai M, et al.	矯正歯科	Effect of a nano-scale fine hole pattern on the differentiation of RAW264.7 cells into osteoclasts	Digest Journal of Nanomaterials and Biostructures 13(2), 451-458, April-June 2018	Original Article
428	Tamaki H, Tsuchiya S, Sakurada Y, et al.	矯正歯科	Chemical modification to suppress metal ions elution of dental orthodontic wire surface	Molecular Crystals and Liquid Crystals 660(1), 163-172, May 2018	Original Article
429	Matsumoto A, Yamagata S, Abe S, et al.	矯正歯科	Optical and chromatic evaluation of fluorescent orthodontic bonding materials doped with a europium β -diketonate complex	Nano Biomedicine 10(1), 3-8, June 2018	Original Article
430	Yoshizawa S, Ohtsuka M, Kaneko T, et al.	矯正歯科	Assessment of hypoxic lip training for lip incompetence by electromyographic analysis of the orbicularis oris muscle	Am J Orthod Dentofac Orthop 154(6), 797-802, Dec 2018	Original Article
431	Honma J, Akasaka T, Tamai M, et al.	矯正歯科	Fusion of RAW 264.7 macrophage cells on micro-scale fine pillar pattern	Digest Journal of Nanomaterials and Biostructures 13(4), 1123-1131, October-December 2018	Original Article
432	Yamagata S, Yamamoto T, Sato Y, et al.	矯正歯科	Fabrication of light-curing type fluorescent orthodontic bonding materials using europium- β -diketonate complex	Nano Biomedicine 10(2), 53-60, December 2018	Original Article
433	Hoshika S, Kameyama A, Suyama Y, et al.	歯冠修復科	GPDM-and MDP-based Self-etch Adhesives Bonded to Bur-cut and Uncut Enamel - "Immediate" and "Aged" μ TBS.	J Adhes Dent.2018;20(2); 113-120	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
434	Ting S, Chowdhury AFMA, Sun J, et al.	歯冠修復科	Effect of different remaining dentin thickness and long term water storage on dentin bond strength.	Dent Mater J.37(4); 562-567	Original Article
435	Chowdhury AFMA, Saikawe P, Matsumoto M, et al.	歯冠修復科	Gradual dehydration affects the mechanical properties and bonding outcome of adhesives to dentin.	Dent mater J.38(3);361-367	Original Article
436	Chowdhury AFMA, Saikawe P, Alam A, et al.	歯冠修復科	Effects of Double Application of Contemporary Self-Etch Adhesives on Their Bonding Performance to Dentin with Clinically Relevant Smear Layers.	J Adhes Dent.2019;21(1);59-66	Original Article
437	Kamaguchi M, Iwata H, Miyauchi T, et al.	口腔内科	The identification of autoantigens in mucous membrane pemphigoid using immortalized oral mucosal keratinocytes.	J Oral Pathol Med 48(1):60-67 2019.	Original Article
438	Kamaguchi M, Iwata H, Ujiie H, et al.	口腔内科	Mucosal substrates successfully identify the autoantigen in a case of mucous membrane pemphigoid.	J Dtsch Dermatol Ges 16(8):1032-1034, 2018	Original Article
439	Kamaguchi M, Iwata H, Ujiie H, et al.	口腔内科	Schleimhautsubstrate identifizieren erfolgreich das Autoantigen bei einem Schleimhautpemphigoid.	J Dtsch Dermatol Ges 16(8):1032-1035, 2018	Original Article
440	Kamaguchi M, Iwata H, Nishie W, et al.	口腔内科	The direct binding of collagen XVII and collagen IV is disrupted by pemphigoid autoantibodies.	Lab Invest 99(1):48-57, 2019.	Original Article
441	Shimizu R, Tanaka M, Tsutsumi S, et al.	口腔内科	EWS-FLI1 regulates a transcriptional program in cooperation with Foxq1 in mouse Ewing sarcoma.	Cancer Sci 109(9):2907-2918, 2018.	Original Article
442	Kamaguchi M, Iwata H, Ujiie H, et al.	口腔内科	High Expression of Collagen XVII Compensates for its Depletion Induced by Pemphigoid IgG in the Oral Mucosa.	J Invest Dermatol 138(8):1707-1715, 2018	Original Article
443	Yoshikawa.K, Onodera-Kyan M, Kitagawa.Y, et al.	口腔内科	Clinical possibility of baseline FDG-PET SUVmax as a prognostic factor in patients with head and neck non-Hodgkin's lymphoma	A preliminary study JOMSMMP 30(4):319-323, 2018	Original Article
444	Sato J, Kitagawa Y, Watanabe S, et al.	口腔内科	Hypoxic volume evaluated by 18F-fluoromisonidazole positron emission tomography (FMISO-PET) may be a prognostic factor in patients with oral squamous cell carcinoma: preliminary analyses.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2018 May;47(5):553-560	Original Article
445	Kamaguchi M, Iwata H, Ujiie H, et al.	口腔内科	Oral mucosa is a useful substrate for detecting autoantibodies of mucous membrane pemphigoid.	Br J Dermatol. 2018 Feb;178(2):e119-e121	Original Article
446	Kamaguchi M, Iwata H, Ujiie I, et al.	口腔内科	Direct Immunofluorescence Using Non-Lesional Buccal Mucosa in Mucous Membrane Pemphigoid	Front Med (Lausanne). 2018 Feb 8;5:20. doi: 10.3389/fmed.2018.00020. eCollection 2018.	Original Article
447	Kitagawa Y, Ohga N, Asaka T, et al.	口腔内科	Imaging modalities for drug-related osteonecrosis of the jaw (3), Positron emission tomography imaging for the diagnosis of medication-related osteonecrosis of the jaw.	Jpn Dent Sci Rev. 2019 Nov;55(1):65-70	Review
448	Kamaguchi M, Iwata H:	口腔内科	The diagnosis and blistering mechanisms of mucous membrane pemphigoid	Front immune. 10:34, 2019	Review
449	Hattori M, Ohga N, Hata H, et al.	口腔内科	Determination of immune cells in saliva by flow cytometry	oral Science in Japan: 29-31, 2018	Original Article
450	Ohga N, Sato J, Asaka T, et al.	口腔内科	Successful conservative treatment of jaw osteonecrosis caused by denosumab in patients with multiple bone metastasis.	J Oral Sci 60(1):159-162, 2018	Case report
451	Yoshikawa K, Ohga N*, Satoh C, et al.	口腔内科	Surgical extrusion of completely impacted mandibular second molars: A technical case report with 3 years clinical and radiographic follow-up	JOMSMMP 30(5):409-412, 2018	Case report
452	Ohno Y, Yamada T, Kakuguchi W, et al.	口腔外科	Modified "Dredging Method" for complicated solid/multicystic ameloblastoma in the mandible: Report of a case treated by fractionated enucleation.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 31:121-125, 2019.	Case report
453	Yamaguchi T, Mikami S, Saito M, et al.	冠橋義歯補綴科	A newly developed ultraminiature wearable electromyogram system useful for analyses of masseteric activity during the whole day.	J Prosthodont Res. 62: 110-115, 2018	Original Article
454	Nakazawa S, Sakata K, Liang S, et al.	高齢者歯科	Dominant-negative p53 mutant R248Q increases the motile and invasive activities of oral squamous cell carcinoma cells.	Biomedical Research 40(1):37-49, 2019.	Original Article
455	Nakazawa S, Sakata KI, Liang S, et al.	高齢者歯科	Dominant-negative p53 mutant R248Q increases the motile and invasive activities of oral squamous cell carcinoma cells.	Biomed Res. 40(1):37-49,2019	Original Article
456	Aya Yanagawa-Matsuda , Yohei Mikawa , Umma Habiba et al.	歯科放射線科	Oncolytic potential of an E4-deficient adenovirus that can recognize the stabilization of AU-rich element containing mRNA in cancer cells	IONCOLOGY REPORTS,Volume 41,Issue 2,Pages 954-960,2019,02.	Original Article
457	Osuka S, Koshino Y, Yamanaka M, et al.	リハビリテーション部	The onset of deep abdominal muscles activity during tasks with different trunk rotational torques in subjects with non-specific chronic low back pain.	Journal of Orthopaedic Science• 2018.12.028. [Epub ahead of print]	Original Article
458	Inagaki Y, Seki K, Makino H, et al.	リハビリテーション部	Exploring Hemodynamic Responses Using Mirror Visual Feedback With Electromyogram-Triggered Stimulation and Functional Near-Infrared Spectroscopy	Front Hum Neurosci 13:60, 2019 Feb 26	Original Article
459	Ikoma T, Bendixen KH, Arima T, et al.	高次口腔医療センター	Effects of low-intensity contractions of different craniofacial muscles in healthy participants- An experimental cross-over study	Headache 58: 559-569, 2018	Original Article
460	Takeuchi-Sato T, Arima T, Mew M, et al.	高次口腔医療センター	Relationships between craniofacial morphology and masticatory muscle activity	Arch Oral Biol.98: 52-60, 2018	Original Article
461	Tateno M, Tateno Y, Kamikobe C, et al.	児童思春期精神医学部門	Internet Addiction and Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder Traits among Female College Students in Japan	J Korean Acad Child Adolesc Psychiatry 29, 144-148, 2018	Original Article
462	Okumura Y, Usami M, Okada T, et al.	児童思春期精神医学部門	Prevalence, incidence and persistence of ADHD drug use in Japan	Epidemiol Psychiatr Sci Doi: 10.1017/S2045796018000252, 2018	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
463	Okumura Y, Usami M, Okada T et al.	児童思春期精神医学部 門	Glucose and Prolactin Monitoring in Children and Adolescents Initiating Antipsychotic Therapy.	J Child Adolesc Psychopharmacol 28, 454-462 2018	Original Article
464	Kooij JJS, Bijlenga D, Salerno L, et al.	児童思春期精神医学部 門	Updated European Consensus Statement on diagnosis and treatment of adult ADHD	Eur Psychiatry 56, 14-34, 2019	Original Article
465	Imai S, Yamada T, Kasashi K, et al.	薬剤部	Construction of a risk prediction model of vancomycin-associated nephrotoxicity to be used at the time of initial therapeutic drug monitoring: A data mining analysis using a decision tree model.	J Eval Clin Pract 2019 Feb;25(1):163-170	Original Article
466	Kagami K, Imai S, Tazawa Y, et al.	薬剤部	Possibility of poor outcomes after treatment using teicoplanin at the minimum inhibitory concentration of > 2 μg/mL in methicillin-resistant Staphylococcus aureus bacteraemia.	YAKUGAKU ZASSHI 138 : 1181- 1189, 2018	Original Article
467	Yamada T, Imai S, Kagami K, et al.	薬剤部	Necessity for a significant maintenance dosage reduction of voriconazole in patients with severe liver cirrhosis (Child-Pugh class C).	Biol Pharm Bull 41: 1112-1118, 2018	Original Article
468	Shoji T, Konno S, Niida Y, et al.	地域医療連携福祉セン ター	Familial multifocal micronodular pneumocyte hyperplasia with a novel splicing mutation in TSC1: Three cases in one family.	PLoS One. 2019 Feb 22;14(2):e0212370. doi: 10.1371/journal.pone.0212370.	Original Article
469	Domen H, Hida Y, Sato M, et al.	地域医療連携福祉セン ター	Resected thymic large cell neuroendocrine carcinoma: report of a case.	Surg Case Rep. 2018 Nov 16;4(1):133. doi: 10.1186/s40792- 018-0540-2.	Case report
470	Liu D, Wen H, He J, et al.	地域医療連携福祉セン ター	Society for Translational Medicine Expert Consensus on the preoperative assessment of circulatory and cardiac functions and criteria for the assessment of risk factors in patients with lung cancer.	J Thorac Dis. 2018 Sep;10(9):5545- 5549. doi: 10.21037/jtd.2018.08.91.	Review
471	Kikuchi H, Sakakibara-Konishi J, Furuta M, et al.	地域医療連携福祉セン ター	Numb has distinct function in lung adenocarcinoma and squamous cell carcinoma.	Oncotarget. 2018 Jun 29;9(6):29379-29391. doi: 10.18632/oncotarget.25585.	Original Article
472	Li H, Jiang G, Bölükbas S, et al.	地域医療連携福祉セン ター	The Society for Translational Medicine: the assessment and prevention of venous thromboembolism after lung cancer surgery.	J Thorac Dis. 2018 May;10(5):3039- 3053. doi: 10.21037/jtd.2018.05.38. Review.	Review
473	Fujiwara-Kuroda A, Kato T, Abiko T, et al.	地域医療連携福祉セン ター	Prognostic value of MAGEA4 in primary lung cancer depends on subcellular localization and p53 status.	Int J Oncol. 2018 Aug;53(2):713- 724. doi: 10.3892/ijo.2018.4425. Epub 2018 May 31.	Original Article
474	Shintani Y, Hasegawa S, Takuwa T, et al.	地域医療連携福祉セン ター	Prospective registry database of patients with malignant mesothelioma: directions for a future Japanese registry-based lung cancer study.	J Thorac Dis. 2018 Mar;10(3):1968- 1971. doi: 10.21037/jtd.2018.03.53.	Original Article
475	Hida K, Maishi N, Annan DA, et al.	地域医療連携福祉セン ター	Contribution of Tumor Endothelial Cells in Cancer Progression.	Int J Mol Sci. 2018 Apr 24;19(5). pii: E1272. doi: 10.3390/ijms19051272.	Review
476	Shiina N, Kaga K, Hida Y, et al.	地域医療連携福祉セン ター	Variations of pulmonary vein drainage critical for lung resection assessed by three-dimensional computed tomography angiography.	Thorac Cancer. 2018 May;9(5):584- 588. doi: 10.1111/1759- 7714.12621.	Original Article
477	Takashima Y, Sakakibara-Konishi J, Hatanaka Y, et al.	地域医療連携福祉セン ター	Clinicopathologic Features and Immune Microenvironment of Non-Small-cell Lung Cancer With Primary Resistance to Epidermal Growth Factor Receptor Tyrosine Kinase Inhibitors.	Clin Lung Cancer. 2018 Jul;19(4):352-359.e1. doi: 10.1016/j.clcc.2018.02.004.	Original Article
478	Shiia H, Hida Y, Kaga K, et al.	地域医療連携福祉セン ター	Extrapleural pneumonectomy of recurrent thymoma with pleural dissemination.	Respirol Case Rep. 2018 Feb 28;6(4):e00308. doi: 10.1002/rccr.2.308.	Case report
479	Konno S, Shigemura M, Ogi T, et al.	地域医療連携福祉セン ター	Clinical Course of Histologically Proven Multifocal Micronodular Pneumocyte Hyperplasia in Tuberous Sclerosis Complex: A Case Series and Comparison with Lymphangiomyomatosis.	Respiration. 2018;95(5):310-316. doi: 10.1159/000486101.	Original Article
480	Matsumoto K, Sato S, Okumura M, et al.	地域医療連携福祉セン ター	Frequency of cerebral infarction after pulmonary resection: a multicenter, retrospective study in Japan.	Surg Today. 2018 May;48(5):571- 572. doi: 10.1007/s00595-017- 1620-9.	Original Article
481	Ono S	光学医療診療部	Lavender Color in Linked Color Imaging Enables Noninvasive Detection of Gastric Intestinal Metaplasia.	Digestion. 2018;98(4):222-230	Original Article
482	Abiko S	光学医療診療部	Risk assessment of metachronous squamous cell carcinoma after endoscopic resection for esophageal carcinoma based on the genetic polymorphisms of alcoholdehydrogenase-1B aldehyde dehydrogenase-2: temperance reduces the risk.	J Gastroenterol. 2018 Oct;53(10):1120-1130.	Original Article
483	Ono M	光学医療診療部	Multicenter observational study on functional bowel disorders diagnosed using Rome III diagnostic criteria in Japan.	J Gastroenterol. 2018 Aug;53(8):916-923.	Original Article
484	Matsuda K, Ono S, Ishikawa M, et al.	光学医療診療部	Cecum ulcer is a reliable endoscopic finding in cytomegalovirus colitis concomitant with graft-versus-host disease after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation.	Ann Hematol. 2018 May;97(5):877- 883.	Original Article
485	Shibata Y, Yabe I, Matsushima M, et al.	臨床遺伝子診療部	Investigating the role of genetic counseling in neuromuscular disease considering life events	J Hum Genet 2019(accept)	Original Article
486	Cho K, Yamada M, Agematsu K, et al.	周産母子センター	Heterozygous Mutations in OAS1 Cause Infantile-Onset Pulmonary Alveolar Proteinosis with Hypogammaglobulinemia.	Am J Hum Genet. 2018;102(3):480- 6	Original Article
487	Umazume T, Yamada S, Yamada T, et al.	周産母子センター	Association of peripartum troponin I levels with left ventricular relaxation in women with hypertensive disorders of pregnancy. Open Heart.	2018;5(2):e000829	Original Article
488	Umazume T, Yamada T, Yamada S, et al.	周産母子センター	Morphofunctional cardiac changes in pregnant women: associations with biomarkers.	Open Heart. 2018;5(2):e000850	Original Article

計488件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月」欄には、「雑誌名、出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 北海道大学病院で実施される臨床研究が「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に適合して運用されるために「北海道大学病院における臨床研究の取扱いに関する指針」を整備し、臨床研究の分類と担当する委員会、審査に関する手順を定めている。手順書では総則、総長の責務等、病院長の責務等、自主臨床研究審査委員会の責務等、自主臨床研究責任者の責務等、自主臨床研究事務局、個人情報等、研究に係る試料及び情報等の保管の8章72条の手順を規定している。 研究責任者は、該当する審査委員会に審査を受けるための申請を行うこととし、研究者がいずれの審査を受けるべきか判断に苦慮する場合は、本院自主臨床研究委員会事務局へ問い合わせることとなっている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 「北海道大学病院における臨床研究に係る利益相反マネジメント内規」及び「北海道大学病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー」を整備し、本院において実施する臨床研究に係る利益相反の適切な管理、審査及び指導等について必要な事項を定めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年13回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年4回
<p>・研修の主な内容</p> <p>【タイトル】 臨床研究法と臨床研究の実施について 【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育 【対象者】 特定臨床研究を実施する者および支援する者 【研修内容】 ・ 臨床研究を取り巻く動向について ・ 臨床研究法 概要 ・ 臨床研究法 各論 ・ 北大における対応状況 【実施日】 2018年4月18日</p> <p>【タイトル】 臨床研究法の基本理念に基づく認定臨床研究審査委員会の審査の視点 【目的】 臨床研究の安全性及び科学的妥当性の観点から臨床研究実施基準に照らして適切な審査ができるようにするため 【対象者】 国立大学法人北海道大学臨床研究審査委員会審査委員、技術専門員、事務局員 【研修時間】 15分 【研修内容】 臨床研究法の基本理念に基づく認定臨床研究審査委員会の審査の視点について 【実施日】 2018年7月26日</p> <p>【タイトル】 認定審査委員会の運用・取扱い 【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育 【対象者】 特定臨床研究を支援する者および実施する者 【研修時間】 1時間 【研修内容】 ・ 臨床研究監理部について ・ 認定臨床研究審査委員会について ・ 特定臨床研究の実施に際し 【実施日】 2019年3月13日</p> <p>【タイトル】 臨床研究の規制と現状について～法と指針を再確認する～ 【目的】 特定臨床研究を実施する際に必要となる知識に関する教育 【対象者】 特定臨床研究を実施する者および支援する者 【研修時間】 1時間30分 【研修内容】 ・ 研究規制の動向 ・ 臨床研究法と諸問題について ・ 倫理指針と研究規制 【実施日】 2019年3月19日</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院は北海道の「最後の砦病院」として高度先進医療を実践するとともに、医育大学として初期臨床研修医のほか、各領域の後期研修医（専攻医）や専門医・指導医資格取得者、さらに国外の医師免許取得者（臨床修練医）に対する高度医療技術の維持・習得を目指し、様々な研修を行っています。教育資源としては、大学病院に特有の稀少症例や難治症例に加えて、北海道内の関連病院と連携して多様な臨床経験ができる様、各領域で研修体制を整備しています。このような体制のもと、全人的な診療能力を有する専門医を育成するとともに、リサーチマインドを涵養するため、大学院での研究活動を推奨し、新たな診断治療法の開発をすすめています。

平成30年度から新専門医制度が導入され、当院では総合診療科を除く18の基本領域において基幹施設として研修専門委員会を設置し、専門医制度整備指針に則って専門研修プログラムを取りまとめました。初期臨床研修修了後は、各科専門研修プログラムに沿って、当院および研修連携施設において臨床研修を行なって所定の修了要件を満たしますと、各基本領域の専門医資格試験を受験することが可能になります。尚、専門研修プログラムは、女性医師など専攻医の多彩な背景やニーズを考慮して多様な研修が行える様、配慮されています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	649 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
豊嶋 崇徳	血液内科	教授	34年	内科
真部 淳	小児科	教授	35年	小児科
清水 宏	皮膚科	教授	40年	皮膚科
久住 一郎	精神科神経科	教授	35年	精神科
平野 聡	消化器外科Ⅱ	教授	31年	外科
岩崎 倫政	整形外科	教授	31年	整形外科
渡利 英道	産婦人科	教授	29年	産婦人科
石田 晋	眼科	教授	28年	眼科
本間 明宏	耳鼻咽喉科	教授	30年	耳鼻咽喉科
篠原 信雄	泌尿器科	教授	35年	泌尿器科
中山 若樹	脳神経外科	講師	26年	脳神経外科
白土 博樹	放射線治療科	教授	38年	放射線科
森本 裕二	麻酔科	教授	33年	麻酔科
松野 吉宏	病理診断科	教授	34年	病理
杉田 純一	検査・輸血部	副部長	19年	臨床検査 (H31, R2年度は受入休止)
早川 峰司	救急科	講師	22年	救急
山本 有平	形成外科	教授	35年	形成外科
生駒 一憲	リハビリテーション科	教授	36年	リハビリテーション

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている

診療科については、必ず記載すること。

- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

別紙のとおり

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

別紙のとおり

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

無し

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
1	看護部職場復帰直前研修	育児休業者が最近の医療・看護の動向を理解し、実践を学ぶことで円滑に職場復帰ができるように支援する。	年1回	30名
2	看護助手接遇研修	医療チームにおける看護助手の役割を理解し、接遇が実践できる。	年1回	11名
3	初任職員オリエンテーション	新たに本院に採用される医療職員及び事務職員に対して、本院職員として必要な基礎知識を習得させる。	年1回	120名
4	病院清掃について	感染制御部および安全衛生管理部から業務委託業者(清掃)職員に対して、必要な知識を付与。	年2回	78名
5	職業感染	認定感染管理看護師の資格取得講義における必要な知識の付与。	年1回	20名
6	メンタルヘルスについて	事務職員におけるメンタルヘルセルフケアについて正しい知識を習得させる。	年1回	12名
7	栄養管理部	大量調理施設における基本的な衛生管理について学ぶ。	年1回	94名
8	より安全でより働きやすい北大病院を目指して	働きやすい職場環境について考える機会とする。	年1回	54名
9	接遇研修(基本コース)	北海道大学病院職員として接遇に関する知識・技術レベルの向上を実現する。	年1回	92名
10	接遇(トラブル・モンスターペイシェント対策)	患者からの暴言暴力に対応できるようになる。	年1回	113名
11	看護補助者の力を発揮しよう	医療チームの一員として看護補助者に必要な接遇に関する知識・技術を付与する。	年1回	259名
12	腰痛予防対策	必要な知識・技術を学び、実践に結び付けられる。	年1回	12名
13	医学部医学科社会医学実習(医療廃棄物グループ)	環境汚染対策、防疫の実際を学ぶ。	年1回	4名
14	護身術実技訓練	必要な知識・技術を学び、実践に結び付けられる。	年1回	34名
15	パワハラとセクハラの正しい理解について	パワハラとセクハラに関する正しい知識を得る。	年1回	17名
16	看護部復職前研修	育児休業者の円滑な職場復帰のために、実践に必要な知識を得て自己のキャリア開発を推進する。	年1回	24名
17	「職員の対応が良い病院を目指して」-接遇研修-	医療チームの一員として接遇に関する知識・技術レベルの向上を実現する。	年1回	93名
18	救急シミュレーション研修	患者の急変時に医師と協同して迅速に対応できる	年2回	19名
19	5-2病棟勉強会(口腔外科)	口腔癌術後の機能障害と術前後のリハビリについての基本的知識の習得を目的に口腔癌診療に関わる看護師ならびに若手歯科医師を対象に年1回実施	年1回	20名
20	放射線障害防止のための教育訓練(歯科放射線科/放射線部)	放射線障害防止のための教育訓練(歯科放射線科/放射線部) ※勤務期間中に定例の総長主催教育訓練を受講できない病院職員のために、北海道大学病院が臨時教育訓練として企画し、全学の放射性同位元素等管理委員会の承認のもと、総長主催の教育訓練として扱っているものであり、受講した場合は、総長訓練(更新者用)を受講したと同等にみなされる。	年2回	300名
21	医療安全に関する部署内研修(矯正歯科 DVD視聴)	矯正歯科診療に携わる専門的な歯科医師の一次救命処置に対する理解を深める。	年1回	27名
22	一次救命処置に関する研修(歯科センター)	歯科診療センター第3診療室での診療に携わる歯科医師・看護師等を対象とし、一次救命処置を実践し、修得する。	年1回	60名
23	臨床検査セミナー(検査・輸血部)	検査技術に関する専門知識の向上	年5回	211名
24	H30年度部内VVRシミュレーション・BLS/AED講習会(検査・輸血部)	採血業務等患者対応に携わる臨床検査技師等を対象に年1回研修を行い、採血時に遭遇する可能性のあるVVR(血管迷走神経反射)発生時の適切な対処や、患者急変時のBLS/AEDに係る基本的な知識と手技を習得させることを目的とする。	年1回	48名
25	生理機能検査室緊急シミュレーション(検査・輸血部)	生理検査に携わる検査技師・事務職員を対象に年1回研修を行い、患者急変時における基本的な知識、対応を習得させることを目的とする。	年1回	16名
26	エコー室緊急シミュレーション	エコー室での検査施行中の患者の急変時に備え、緊急フローチャートが作成されており、そのフローチャートに沿って適切に実践できるかを確認し、問題点の洗い出しをする。	年1回	13名
27	医療安全に関する講演会(医療安全管理部)	平成30年度に当院歯科で発生したインシデントの内容と再発予防策について知識を習得させる。	年1回	200名
28	インスリン安全管理講習会「平成29年度のインシデントを振り返って」糖尿病ケアサポートチーム	糖尿病診療に携わる看護師等を対象に年1回、研修を行いインスリンに係る基本的な知識を習得させることを目的とする。	年1回	100名

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
29	救急救命処置学習会(物流管理センター材料室)	当院職員として1次救命処置の知識をもち院内での連絡が行える	年1回	35名
30	エチレンオキサイドガス漏れ対応学習会(物流管理センター材料室)	エチレンオキサイドガスの特性を理解し、ガス装置関連からの有毒ガス漏れが発生した場合、部署職員が迅速な避難が出来る	年1回	37名
31	材料室 基礎学習会 洗浄編(物流管理センター材料室)	材料室業務としての洗浄を理解する	年1回	35名
32	材料室 基礎学習会 組立て編(物流管理センター材料室)	材料室業務としての組立てを理解する	年1回	23名
33	材料室 基礎学習会滅菌編(物流管理センター材料室)	材料室業務としての滅菌について理解する	年1回	20名
34	医療技術部研修会「各部署見学(特定技術部門)1回目」	認定遺伝カウンセラー、歯科衛生士、歯科技工士業務を他職種が理解することで、より確実な職種間業務連携を構築することを目的とする。	年1回	123名
35	医療技術部研修会「各部署見学(特定技術部門)2回目」	視能訓練士、心理士、精神保健福祉士業務を他職種が理解することで、より確実な職種間業務連携を構築することを目的とする。	年1回	126名
36	医療技術部研修会	JMIP審査に際し医療の国際化を意識した医療人を育成することを目的とする。	年1回	85名
37	CT緊急シミュレーション	CT業務に関わる医師、技師、看護師に対して年1回急変時のシミュレーション研修を行い、それぞれの役割の確認、対応について理解を深める	年1回	30名
38	US緊急シミュレーション	US業務に関わる技師、看護師、医師に対して年1回急変時のシミュレーション研修を行い、それぞれの役割の確認、対応について理解を深める	年1回	25名
39	機能画像診断セミナー(核医学教室)	核医学診療についての理解を深める	年1回	10名
40	救急シミュレーション	小児・障害者歯科に関わる医療従事者に年1回急変時の対応を再確認してもらう。	年1回	25名
41	侵襲制御を考える会	麻酔、クリティカルケア、痛み治療、緩和などを統合した侵襲制御医学について、それぞれの分野のエキスパートを招いて理解を深める。	年2回	69名
42	緩和ケア研修会	基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識、技術、態度を修得することで緩和ケアが診断の時から、適切に提供される	年1回	36名
43	看護部初任職員研修	看護部理念・看護者の責務・組織運営・人材育成・看護業務について理解する	年2回	92名
44	助手研修(初任職員研修)(看護部教育委員会)	看護部理念・看護者の責務・組織運営・人材育成・看護助手業務について理解する	年1回	11名
45	看護部初任職員研修(メンタルヘルス研修・中央部門研修)	自部署と関連する中央部門の役割および場を理解する。メンタルヘルスサポートを実践できるための知識を得る	年2回	92名
46	医療情報・患者看護支援システム操作訓練(看護部)	医療情報システムについて理解する	年2回	84名
47	新規採用者合同研修	接遇とコミュニケーション、チーム医療とプロフェッショナルリズムについて講義、演習を通して学ぶ	年3回	222名
48	病院初任職員研修	本院職員としての心構えと必要な知識を身につけ、医療職員としての責任ある行動がとれる	年1回	85名
49	新卒者看護技術研修	看護技術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年2回	144名
50	臨地実習担当者研修(看護部教育院会)	看護学生の臨地実習について理解を深め、効果的な指導ができる	年1回	27名
51	看護必要度研修(看護部)	看護必要度について理解する	年1回	77名
52	新卒者看護技術研修(看護部)	看護技術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	70名
53	看護助手研修(看護部)	チーム医療における看護助手の役割を理解し、実践できる	年4回	123名
54	2年目研修(看護部教育委員会)	看護実践者として看護過程を展開する能力を高め、看護実践の結果を記録できる	年1回	72名
55	プリセプター研修(継続)(看護部教育委員会)	プリセプターシップの概念を理解し、プリセプターを効果的に支援できる	年1回	50名
56	看護倫理研修(看護部教育委員会)	チーム医療の中で、患者の権利の擁護者としての看護師の役割を理解し、倫理的視点に基づいて看護実践を行う能力を高める	年1回	42名
57	2年目多重課題研修(キャリア支援室)	患者の心身の状況と業務の関連をアセスメントし優先順位を判断できる	年1回	76名

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
58	3年目研修(看護部教育委員会)	3年目の果たす役割を明確にし、看護に対する自己啓発ができる	年2回	83名
59	1年目フィジカルアセスメント研修	専門職業人として、根拠に基づいた予測性のある観察ができる	年1回	66名
60	新卒者看護技術研修	看護施術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	68名
61	看護必要度研修(指導者)	患者の重症度、看護必要度について適切な評価がおこなえ、部署で指導できる	年1回	29名
62	看護とキャリア研修	チーム医療の中で看護職としてのキャリアを活かした役割が発揮できる	年1回	26名
63	家族看護研修	家族看護を理解し看護実践能力を向上できる	年1回	34名
64	1年目多重課題研修	多重課題を抱える中で、優先順位が判断でき他者の協力を得ながら行うべき看護業務を遂行できる	年1回	58名
65	認知症看護実践力向上研修	認知症看護実践力を高める	年1回	25名
66	1年目研修	看護専門職者として、自覚と責任ある行動がとれるための自己の課題が見いだせる	年1回	65名
67	静脈注射エキスパート認定研修	安全に静脈注射が実践できるよう知識、技術を獲得しスタッフに指導ができる	年1回	36名
68	看護研究研修	臨床における看護研究の基礎とプログラムを学ぶ	年1回	60名
69	専門領域研修会研修	専門領域における知識習得と看護実践に生かすことを目的とする	年35回	498名
70	BLS講習	一次救命処置を学ぶ	年2回	45名
71	がん看護エキスパートナース養成研修	がんの治療の病気に応じた的確なアセスメント力を身につけ専門的ながん看護の実践方法を習得することを目的とする	年19回	9名
72	在宅療養看護エキスパートナース養成研修	在宅療養支援のための知識とスキルを学ぶことを目的とする	年7回	16名
73	指導看護師養成研修	部署内教育リーダーとして指導者育成を目的とする	年20回	6名
74	遺伝性腫瘍に関する講演会(臨床遺伝子診療部・腫瘍センター・がん遺伝子診断部・がんプロ共催)	遺伝性腫瘍及びがんゲノム検査に関する理解を深めることを目的とする。	年1回	41名
75	急変シミュレーション(循環器内科)	病棟入院患者の急変時対応について、スタッフ全員で確認し、シミュレーションする	年2回	20名
76	左室補助装置講習会(循環器内科)	左室補助装置に対する理解を深め、皆で正しく運用を理解する。	年1回	20名
77	ゲノム研究・診療時代の病理検体取扱い講習会(病理部/病理診断科)	ゲノム・遺伝子をはじめ、さまざまな生体分子を扱う研究や診療・検査に従事する医師・技師・看護師等を対象に研修を行い、病理検体の取扱いに係る基本的な知識を習得させることを目的とする。	年2回	29名
78	CAP-PIP2018検討会	病理診断に従事する専門医および専攻医の知識・技能の確認と、内部精度管理を目的とする。	年2回	20名
79	看護師胸腔ドレーン勉強会(7-2)	看護師の胸腔ドレーンの理解のため	年1回	15名
80	HIV/AIDS院内出前研修	HIV感染症に関する基礎知識、感染対策、感染者へのケア等について情報を得ることで今後の診療やケア、患者対応に活かす。	年2回	73名
81	第23回HIV学習会	HIV感染症に関する基礎知識、感染対策、感染者へのケア等について情報を得ることで今後の診療やケア、患者対応に活かす。	年1回	53名

2 業務の管理に関する研修の実施状況

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名	目 的 等		
1	リーダー研修Ⅰ(看護部)	看護チームにおけるリーダーの役割を理解しリーダーシップを発揮できる	年1回	44名
2	リーダー研修Ⅱ(看護部)	問題解決能力を高め、チーム医療の中でリーダーシップを発揮できる	年2回	22名

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
3	新任看護師長オリエンテーション(看護部)	看護師長の役割を理解する	年1回	3名
4	新任副看護師長オリエンテーション(看護部)	副看護師長の役割が理解できる	年1回	11名
5	新卒者看護技術研修(副看護師長会)	看護技術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年3回	209名

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 寶金 清博
管理担当者氏名	総務課長 医事課長 医療支援課長 薬剤部長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療録管理室
		看護記録	診療録管理室
		検査所見記録	診療録管理室
		エックス線写真	診療録管理室
		紹介状	診療録管理室
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療録管理室
		<p>・病院日誌は総務課にて保管管理。</p> <p>・診療録を病院外に持ち出す際の取扱いについては、「北海道大学病院における個人情報管理に関するガイドライン」を定め、個人が特定できる情報については、個人情報保護管理区域外への一切の持ち出しを禁止し、相当程度に個人の特定が困難な情報については、保護管理者への届出を行った上でパスワードロックを用いた媒体でのみ持ち出しを許可している。</p> <p>・カルテは電子カルテと紙カルテの2種類を管理及び保管している。</p> <p>・平成22年に電子カルテを導入し、それ以前の紙カルテについては、10年間の保存期間を設けて診療録管理室にて保管している。また、紙媒体で生成される説明承諾書等については、スキャニングして電子カルテに取込み、かつ、原本も保管している。</p>	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課
		高度の医療の研修の実績	医事課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	総務課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部

規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療支援課
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療支援課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療支援課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課		

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療支援課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療支援課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療支援課
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		監査委員会の設置状況	医療支援課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療支援課
		職員研修の実施状況	医療支援課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課・経営企画課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	経営企画課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	①. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	総務課長 阿部 康成, 経営企画課長 西村 敏信	
閲覧担当者氏名	総務係長 伊東 武志, 経営企画係長 鈴木 雅樹	
閲覧の求めに応じる場所	総務課事務室, 経営企画課事務室	
閲覧の手続の概要		
利用者は必要に応じ、文書により閲覧責任者に閲覧を申し出、閲覧担当者は閲覧に応じる。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 本院の医療安全管理に関する基本的な考え方 2. 医療に係る安全管理のための委員会等に関する組織の基本的事項 3. 医療に係る安全管理のための職員研修に係る基本的事項 4. 医療機関における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者等からの相談に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に関する講演会「2017年度のインシデントを振り返って」×3回 2. 医療安全に関する講演会「採血・穿刺時の神経損傷予防」 3. 医療安全に関する講演会「医薬品等副作用被害救済制度について」 4. 医療安全に関する講演会「フォレンジック（法医）看護とは何か？」 5. 医療安全に関する講演会「より安全でより働きやすい北大病院を目指して」 6. 医療安全に関する講演会「医療安全に関する病院のガバナンスについて」 7. 医療安全に関する講演会「医療安全と院内感染対策について」 8. 医療安全の日講演会「医療安全における薬剤師の役割～チーム医療における立ち位置を変える～」 9. 医療安全に関する講演会「平成30年度 歯科インシデントより」 	年11回
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 報告書に伴う問題点の把握方法（各部署、安全管理部門の問題点の認識）インシデント報告に関する分析からフィードバックまでの対応（職員への周知と再発防止） <ol style="list-style-type: none"> 1) 専任リスクマネジャー（GRM）が当該リスクマネジャー（RM）へ事実確認を行い、報告内容の監査・分析を行い、問題事例や有害事象の場合は、当該RMとの検討、患者の影響度、患者への対応状況などを協議し対応している。 	

- 2) レベル3 bの有害事象の場合は、当該部署のRMに当該部署として検討を行った結果と再発防止策について、事例報告書として詳細報告を要請し、事例報告書に基づき原因・起因を分析し、病院長に報告している。
- 3) レベル4、5の有害事象は、GRMが聞き取り・現場検証などの事実調査を行い、当該RM・関係者との事象の検討、患者の影響度、患者への対応などを協議している。GRMが作成した検証資料に基づき、病院長・医療安全管理部長・当該部署の責任者とRMにより原因検討を行い、重篤な事案の場合は医療事故対策特別部会で原因検討の上、病院の見解を明確にしている。

2. 問題点の分析方法（各部署、安全管理部門の問題点の分析方法）

- 1) 必要な事例については、専門分野の委員を指名し、WG、院内医療事故検討会を設置し、原因分析・再発防止策を作成する。
- 2) レベル3 a以上の報告は、毎週月曜日にインシデントレポート検討・判定会において、レベル・過誤の判定と合併症の妥当性の検討を行うとともに、報告内容を分析し、原因と患者への影響度を検討し、医療事故報告制度への報告対象事例の判定を行っている。

3. 改善策の検討方法

- 1) 報告の全体的分析は、毎月と年間において実施し、発生レベル・報告状況・場面別に集計し、発生場面別や職種別の発生状況について定量的分析を行い「医療安全に関する報告集計」を作成し、各委員会に周知を図っている。また、病院運営会議においても報告し、周知を図っている。
- 2) 各診療科・部署の安全管理を図るために、前年度の当該診療科・部署での報告について年間集計し、当該診療科・部署での優先的課題を分析し、年度前半で、診療科・部署RM等で対策を検討し、年度末に再度、今年度の当該診療科・部署での報告について集計し、優先的課題の評価を実施し、次年度に向けて継続事項を検討している。
- 3) 医薬品・医療機器に関する事象については、関係専門委員会で再発防止策を検討し、システム改善・教育体制などの企画を検討している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	㊦・無
<p>・ 指針の主な内容： 北海道大学院内感染指針は以下の項目から成っている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 院内感染対策に関する基本的な考え方 2 院内感染対策に関する管理組織機構 <ol style="list-style-type: none"> (1) 院内感染対策委員会 (2) 院内感染対策特別部会 (3) 感染制御部 (4) 感染防止対策チーム (5) 感染対策マネージャー連絡会議 3 職員研修に関する基本方針 4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5 アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針 6 患者等への情報提供と説明に関する基本方針 7 その他院内感染対策の推進のために基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容： ・ 院内感染防止対策の検討及び推進 ・ 院内感染防止の対応及び原因究明 ・ 院内感染等の情報収集及び分析 ・ 院内感染防止等に関する職員の教育・研修</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	平成30年度 年32回
<p>・ 研修の内容（すべて）： ・ 医科研修医オリエンテーション：「感染対策研修」×2回 ・ 歯科研修医オリエンテーション：「院内感染予防対策（総論・各論）」 ・ 医事課所属事務補助員研修：「北大病院の感染管理」 ・ 看護助手オリエンテーション：「感染管理と手洗い」 ・ 平成30年度北海道大学病院初任職員オリエンテーション：「院内感染予防」 ・ 新規感染対策マネージャー講習会：「感染対策マネージャーの役割」×2回 ・ 看護助手研修会：「感染管理の基本」×4回 ・ 専門領域別看護研修会①：「標準予防策、耐性菌検出患者の感染対策」 ・ 専門領域別看護研修会②：「血管内留置カテーテル管理，尿路留置カテーテル管理」 ・ 第75回院内感染対策合同講演会×3回 ：「2017年度のイベントを振り返って」 ：「2017年度の感染症とその対策を振り返って」 ・ 異動後医師研修会：「北大病院の感染制御」×2回 ・ 第76回院内感染対策講演会：「血液培養2セット採取の重要性」 ・ 第77回院内感染対策講演会：「感染性胃腸炎とインフルエンザシーズンに向けて」 ・ 第78回院内感染対策講演会：「日頃から感染対策・安全対策できていますか!？」 ・ 第79回院内感染対策講演会：「感染対策歯科診療センターのみなさまにお伝えしたいこと」 ・ 第80回院内感染対策講演会：「抗菌薬適正使用について」 ・ DVD研修 ・ eラーニング： 「インフルエンザ（2018年度版）」 「ノロウイルス胃腸炎対策（2018年度版）」 「微生物培養検査の検体採取方法（2018年度版）」 「標準予防策（2018年度版）」 「標準予防策その2（2018年度版）」 「感染性胃腸炎（改訂2018年度版）」 「検体採取（改訂2018年度版）」 「WHO手指衛生（改訂2018年度版）」 「標準予防策・感染経路別予防策（改訂2018年度版）」 「手指衛生、PPE、咳エチケット（改訂2018年度版）」 ・ 院内研修 ・ 外注職員 清掃教育研修会：「病院清掃について」×2回</p>	

- ・外注職員 調理担当食中毒防止講習会：「安全と衛生」
- ・院内学級感染対策講習会：「院内感染予防」・実習「手洗い」×3回

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・病院における発生状況の報告等の整備 (有)
 - ・「感染症のアウトブレイク発生に伴う保健所への報告基準」を制定し、保健所や大学内の報告に係る基準及び方法等について整備済みである。(平成23年6月17日医政指発第1号に基づき、平成23年8月25日病院執行会議において承認)
- ・その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・感染防止対策チームを設置して、院内感染状況、抗菌薬の適正使用、職員の感染防止策等の実施状況の把握と指導を行っている。
 - ・耐性菌サーベイランス等、感染症法に基づく院内感染症発生状況の迅速な把握と対応を行っている。
 - ・感染防止対策加算1を算定する医療機関として、同じく加算1を算定する医療機関との相互評価・加算2を算定する各連携医療機関とのカンファレンスおよび加算1の連携医療施設と加算2の連携医療施設(各加算1連携医療施設の加算2医療連携施設を含む)合同カンファレンスの開催等により道内の医療機関との連携を図っている。
 - ・平成24年4月から、感染制御部専任の医師(医員)1名を新たに配置した。
 - ・感染制御部専任の事務補佐員(非常勤職員)1名を継続して配置し、平成24年7月から、事務職員(常勤職員)1名を配置した。
 - ・平成28年11月から、感染制御部専任の看護師1名を新たに配属した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	㊟・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年9回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修医オリエンテーション「処方全般」 開催回数：2回（2018年4月5日，6日），対象：医師、歯科医師 2. 医薬品に関する講習会「インスリンに関する講習会」 開催回数：1回（2018年8月7日），対象：全職種 3. 医薬品に関する講習会「危険薬の取扱い」 開催回数：2回（2018年8月24日，8月31日），対象：看護師 4. 異動後医師研修「危険性の高い薬剤の取り扱い」 開催回数：2回（2018年6月12日，11月26日），対象：医師 5. 医薬品に関する講習会「医薬品等副作用救済制度について」 開催回数：1回（2018年7月31日），対象：全職種 6. 糖尿病治療薬安全管理講習会 開催回数：1回（2018年10月3日），対象：全職種 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成（有）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品安全使用に関する手順書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全上、注意を要する薬剤リスト <ol style="list-style-type: none"> (1) 特に安全管理が必要なリスト (2) 配合注意・投与ルートで注意を要する注射薬 (3) 誤認に注意薬剤 2) 指示・伝達ルール <ol style="list-style-type: none"> (1) 指示・伝達ルール (2) 口頭指示は原則禁止 3) 内服薬に関する管理基準 <ol style="list-style-type: none"> (1) 内服薬管理基準 (2) 薬剤管理指導業務手順書 (3) 入院患者の持参薬確認業務手順書 (4) 誤調剤に対する調剤室対応手順 4) 注射薬に関する管理基準 <ol style="list-style-type: none"> (1) 注射業務管理基準 (2) 注射薬混合調製（ミキシング）手順書 5) 危険性の高い薬剤に関する手順書 <ol style="list-style-type: none"> (1) 危険性の高い薬剤の取扱い手順書 (2) アナフィラキシーショックへの対応 (3) 抗凝固・抗血小板療法施行時における出血性合併症および処置・手術時の対応 6) 抗がん薬に関する手順書 <ol style="list-style-type: none"> (1) 院内がん化学療法要項 (2) がん化学療法実施運用手順書 (3) 抗がん薬被爆防止に関するマニュアル (4) 院内におけるがん化学療法の安全性に関する取り決め (5) 血管外漏出およびアレルギー反応発生時の対応について 7) 医療安全情報管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全性情報管理体制 (2) 薬剤部における医薬品情報管理マニュアル 	

- 8) 医薬品管理
 - (1) 病棟における注射剤管理業務手順書
 - (2) 病棟における薬剤業務基準
 - (3) 麻薬管理取扱い手順
- 9) インスリン療法マニュアル
 - (1) インスリン療法マニュアル
 - (2) インスリンラインナップ
 - (3) 各製剤の使い方
 - (4) 参考資料
- 10) 医薬品の採用に関する手順書
- 11) 他施設との連携に関する手順書

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例：
 - 1) シドフォビル；造血幹細胞移植後あるいは免疫抑制後に発症した重症アデノウイルス感染症
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 1) 医薬品の情報管理体制として、薬剤部における医薬品情報管理手順を作成し、それに基づき、日本医療機能評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」として、医薬品医療機器総合機構(PMDA)からの医療安全情報は「PMDA医療安全情報」「緊急安全性情報」「安全性速報」「PMDAから医薬品適正使用のお願い」として、メールにより診療科・部門に提供している。また、関係機関からの医薬品に関する情報、新聞報道からの事故情報などは「緊急情報提供と点検のお願い」にて情報提供とともに現場での業務点検を依頼している。
 - 2) 医薬品に関するインシデント集計・分析結果により、専門委員会やワーキング等で医薬品に関するインシデント防止対策や講習会内容の検討を行っている。
 - 3) 未承認薬に関して、未承認新規医薬品等管理部を設け、当院で使用したことのない医薬品または高度管理医療機器であって「医薬品医療機器法」による承認または認証を受けていないものの提供に関する申請の受理及び提供の可否について審査する体制としている。
 - 4) 適応外使用に関しては、薬剤部においては調剤時に確認・記録を実施している。また、医薬品適応外使用(禁忌含む)の把握と申請の徹底を図るため、医薬品適正使用ワーキングを通じて申請状況を親委員会である医薬品安全管理体制専門委員会に諮ることとなっている。また、薬剤部においては適応外ならびに禁忌薬使用状況を疑義照会履歴等で定期的に同委員会に報告し、問題がある場合は適宜、委員会から指導を行う体制としている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年83回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人工心肺装置・大動脈内バルーンポンプ装置・経皮的な心肺補助装置 計4回実施（2018/5/28, 10/15, 10/30, 2019/3/12） 2. 人工呼吸装置 計14回実施（2018/8/6, 9/3, 10/1, 10/21, 11/5, 11/20, 12/3, 12/6, 12/10, 12/13, 2019/2/4, 2/18, 3/7） 3. 人工呼吸器安全管理講習会 院内ワーキング認定試験の講習として基礎課程3回を2クール計6回 4. 血液浄化装置 計4回実施（2018/8/6, 8/7, 8/9, 9/3, 10/1, 11/5, 12/3, 2019/2/4） 5. 除細動器・自動体外式除細動器（AED） 計3回実施（2018/10/12, 12/11, 12/18） 6. 閉鎖式保育器 計4回実施（2018/10/15, 10/22, 10/24, 10/29） 7. その他の医療機器 計38回実施（2018/4/2, 4/16, 4/17, 4/18, 4/19, 4/20, 4/23, 5/14, 5/23, 5/28, 6/15, 6/21, 7/9, 7/30, 8/6, 8/9, 8/27, 8/27, 8/28, 8/29, 8/30, 8/31, 9/3, 9/20, 10/20, 10/20, 10/21, 10/21, 10/29, 11/19, 11/26, 12/5, 12/11, 12/17, 2019/1/28, 2/25, 2/25, 3/25） 8. 診療用高エネルギー放射線発生装置 計8回実施 （2018/6/23, 6/25, 7/11, 9/7, 9/18, 10/16, 10/25, 2019/1/21） 9. 診療用放射線照射装置（2018/7/31） 10. 陽子線治療装置（2018/12/3） 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （有）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>電子カルテ内の「医療機器管理」システムを活用し、医療機器の種類と機種ごとに保守点検計画の策定、実施及び実施の確認をしている。</p> <p>【中央管理機器】 ME機器管理センターでのME機器使用後の終業点検、機器の特性に応じた計画的1～12ヶ月点検、定期点検の実施。不具合発生時の現場調査と故障点検の実施。故障時のメンテナンスとメーカーとの調整。</p> <p>【放射線部管理機器】 放射線治療機器における、①始業点検、②2回/月以上の出力線量測定、③3ヶ月及び6ヶ月毎に放射線特性及び幾何学的点検、④漏洩線量等の放射線管理に関する測定を実施している。他に製造メーカーと保守契約を結び年間4回の定期メンテナンスを実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例：</p> <p>○McGRATHビデオ咽喉鏡 ディスポーザブル ブレード1 （新生児に対するMcGRATHビデオ咽喉鏡使用時の保護）</p>	

- その他の改善のための方策の主な内容：
 - 医療機器の情報管理体制として、医療安全性情報管理体制を整備。
 - それに基づき、日本医療機能評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」として電子メールで診療科・中央診療部門に提供。
 - PMDAのクラス回収については該当部署に電子メールで情報提供。
 - 関係機関やメーカーからの医療機器に関する情報、新聞報道からの事故情報などは「緊急情報提供と点検のお願い」にて情報提供とともに現場での業務点検を依頼。
 - ME機器管理センターからMEセンターニュースとして医療機器の特性や情報を全部署へ提供。
 - 汎用性のある医療機器のマニュアルを電子カルテに表示。
 - 医療機器を管理するための医療機器管理体制を明文化。
 - 使用頻度の高い医療機器についてeラーニングシステムを構築。
 - 医療機器の添付文書、取扱説明書などの容易なアクセスが実施できるよう電子カルテ上でのデータベース構築。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 <p>医療安全管理責任者として、副病院長（医療安全担当）（医師）を配置し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（3名）・無								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> 薬剤部において、医薬品情報の整理、周知及び周知状況の確認の徹底並びに適応外、禁忌等の処方に係る確認等については、薬剤師を指名して同様の業務を実施している。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 薬剤部において、医薬品情報の整理、周知及び周知状況の確認の徹底並びに適応外、禁忌等の処方に係る確認等については、薬剤師を指名して同様の業務を実施している。 ・ 担当者の指名の有無（有） ・ 担当者の所属・職種： <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師（室長））</td> <td style="width: 50%;">（所属： ， 職種 ）</td> </tr> <tr> <td>（所属： ， 職種 ）</td> <td>（所属： ， 職種 ）</td> </tr> <tr> <td>（所属： ， 職種 ）</td> <td>（所属： ， 職種 ）</td> </tr> <tr> <td>（所属： ， 職種 ）</td> <td>（所属： ， 職種 ）</td> </tr> </table> 		（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師（室長））	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）
（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師（室長））	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
（所属： ， 職種 ）	（所属： ， 職種 ）								
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無								
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ 有 ） ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：インフォームド・コンセントについては、院内マニュアルに沿って実施し、診療録管理室が現状のモニタリングを行い、指導等を行っている。また、説明する機会も増えていることから、関連部門（各診療科・看護部）・医療安全管理部と協議してマニュアルの改正等（要項を含む）があれば、職員に周知する。 									

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録の記載内容の確認について、毎年、各部署の診療録点検を実施し指導している。また、点検結果をリスクマネジャー連絡会議において報告し、各部署へ周知し、適切に診療録等の管理が行われるようにしている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（4）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療事故及びインシデント（以下「医療事故等」という。）報告の受理及び分析に関すること。 2 医療安全管理委員会の運営並びにその記録等の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。 3 リスクマネジャー連絡会議の運営並びにその記録等の作成及び保存、その他リスクマネジャー連絡会議の庶務に関すること。 4 医療安全に関する教育及び研修に関すること。 5 医療現場からの医療事故等の相談に関すること。 6 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること。 7 医療事故等の発生時における患者又はその家族への対応状況の確認及び必要な指導に関すること。 8 医療事故等に対する原因究明の実施状況確認及び必要な指導に関すること。 9 医療安全に係る連絡調整に関すること。 10 医療安全の確保に資する診療の状況の把握に関すること。 11 職員の医療安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること。 12 その他医療安全対策の推進に関すること。 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（13件）、及び許可件数（12件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
 - 1 高難度新規医療技術の提供に関する実施申請の受理及び提供の可否について審査すること。
 - 2 高難度新規医療技術の実施における手順等の遵守状況の確認に関すること。
 - 3 その他高難度新規医療技術に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（4件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：
 - 1 未承認新規医薬品等の提供に関する申請の受理及び提供の可否について審査すること。
 - 2 未承認新規医薬品等の提供に関する実施状況の確認に関すること。
 - 3 その他未承認新規医薬品等に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年207件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年72件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 1 医療安全管理上の問題が発生した場合の対応並びに原因究明のための調査及び分析に関すること。

- 2 医療安全確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施に関すること。
- 3 医療安全確保を目的とした方策の職員への周知に関すること。
- 4 医療安全確保を目的とした方策の実施状況の把握及び必要に応じた方策の見直しに関すること。
- 5 医療安全に関わる職員の教育・研修に関すること。
- 6 医療事故報告等に関する改善のための方策に関すること。
- 7 その他医療事故等に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：名古屋市立大学病院））
 - ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：京都府立医科大学附属病院））
 - ・技術的助言の実施状況
- 1 インシデントやアクシデントの報告等の状況
 - ・アクシデント事例や死亡症例については、医療安全管理部に直ちに報告される仕組みがあり、複数の職種が参加するカンファレンスにおいて分析が行われている。一定の基準により合併症を把握するための仕組み（オカランス報告制度）がないということだが、アクシデントレポートとして報告されており問題はない。
 - ・年1回行われているセーフティーパトロールについても、業務改善や対策の実施、評価までトータルに行われており大変有意義と感じられた。
 - ・セーフティーパトロールについて、年1回ではタイムリーに対応できないこともあると思われるので、介入が必要な部署には、複数回のパトロールをされた方がよいという印象を受けた。
 - 2 医療安全管理委員会の業務の状況
 - ・PDCA サイクルを推進するための委員会がないということだが、セーフティーパトロールで対応されており、問題ないものと考えられる。
 - 3 医療安全に資する診療状況の把握のためのモニタリング
 - ・全般的に適切なモニタリングが実施されており、特に指摘事項はありません。
 - 4 医療安全部門への人員配置（特に医師の配置）等について
 - ・理想的な人員体制を整えていました。
 - 5 医薬品等の安全使用体制の状況（医薬品安全管理責任者の業務等）
 - ・未承認薬、禁忌・適応外等の医薬品の把握、関係者への周知等について適切に行われている。
 - 6 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門の運用状況
 - ・副作用情報等の活用に関して、既読者の氏名確認等について、何らかのシステム改善を行うな

どして、より徹底を図られるとよいと考えます。

7 高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否等を決定する部門の運用状況

・特に指摘するような問題点はありません。

8 監査委員会業務の結果及び監査委員会からの指摘への対応状況

・監査委員会へ報告されている内容は、医薬品や医療機器関係を含めて網羅的に偏りなく報告された上で、監査委員会から全般的にしっかりと行われているとの評価を受けていました。開設者の欠席についても、監事が出席するなど配慮されており、特に指摘する事項は見受けられません。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談室を設置し、医療支援課が対応している。医療支援課長が室長となり、業務を総括している。窓口の周知方法は、外来ホールにポスターを掲示し周知している。なお、医療安全に係る情報は、GRMIに連絡し、調査を行う。また、医療支援課と患者相談窓口・医療安全管理部合同会議を月1回開催し、情報を共有している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 医療安全に関する講演会「2017年度のインシデントを振り返って」×3回
2. 医療安全に関する講演会「採血・穿刺時の神経損傷予防」
3. 医療安全に関する講演会「医薬品等副作用被害救済制度について」
4. 医療安全に関する講演会「フォレンジック（法医）看護とは何か？」
5. 医療安全に関する講演会「より安全でより働きやすい北大病院を目指して」
6. 医療安全に関する講演会「医療安全に関する病院のガバナンスについて」
7. 医療安全に関する講演会「医療安全と院内感染対策について」
8. 医療安全の日講演会「医療安全における薬剤師の役割～チーム医療における立ち位置を変える～」
9. 医療安全に関する講演会「平成30年度 歯科インシデントより」

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：平成30年度（新規）受講済

医療安全管理責任者：平成30年度（継続）受講済

医薬品安全管理責任者：平成30年度（継続）受講済

医療機器安全管理責任者：平成30年度（継続）受講済

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 病院長候補者の選考は、医療法第10条に規定する者であって、人格が高潔で、学識に優れ、かつ、組織管理能力等の病院を管理する上で必要な資質及び能力並びに医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有するもの。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 本学ホームページで公表。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

<p>前年度における管理者の選考の実施の有無</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 本学ホームページで公表。 	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
笠原正典	北海道大学理事	○	総長が指名する理事	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
吉岡充弘	北海道大学大学院 医学研究院		医学研究院長	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
八若保孝	北海道大学大学院 歯学研究院		歯学研究院長	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
寶金清博	北海道大学病院		病院長	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
篠原信雄	北海道大学大学院 医学研究院		医学研究院教授会が推薦する教授	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
畠山鎮次	北海道大学大学院 医学研究院		医学研究院教授会が推薦する教授	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
鄭 漢忠	北海道大学大学院 歯学研究院		歯学研究院教授会が推薦する教授	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
佐藤ひとみ	北海道大学病院看護部長		病院執行会議が推薦する職員	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
保科豊次	北海道大学病院事		病院執行会議が推薦する職員	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

	務部長			
中村 隆	札幌総合法律事務所		学外有識者（弁護士）	有・無
松村 明	筑波大学医学医療系脳神経外科学		学外有識者（元他大学病院長）	有・無
大島寿美子	北星学園大学		学外有識者（私大教授）	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		○・無	
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>1 医療安全管理上の問題が発生した場合の対応並びに原因究明のための調査及び分析に関すること。</p> <p>2 医療安全確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施に関すること。</p> <p>3 医療安全確保を目的とした方策の職員への周知に関すること。</p> <p>4 医療安全確保を目的とした方策の実施状況の把握及び必要に応じた方策の見直しに関すること。</p> <p>5 医療安全に関わる職員の教育・研修に関すること。</p> <p>6 医療事故報告等に関する改善のための方策に関すること。</p> <p>7 その他医療事故等に関すること。</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>1 病院執行会議</p> <p>2 リスクマネジャー連絡会議</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 無 ）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（ 無 ）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
寶金清博	○	医師	病院長
秋田弘俊		医師	副病院長
北川善政		歯科医師	副病院長
南須原康行		医師	医療安全管理責任者／医療安全管理部長
根岸淳		歯科医師	医療安全管理部副部長
岡林靖子		看護師	医療安全管理者／ゼネラルリスクマネジャー
本田秀子		看護師	ゼネラルリスクマネジャー
沖洋充		薬剤師	ゼネラルリスクマネジャー
石田晋		医師	手術部長
武富紹信		医師	物流管理センター部長
遠藤晃			医療情報企画部長
豊嶋崇徳		医師	国際医療部長

本間明宏		医師	ME 機器管理センター部長
井関健			薬剤部長／未承認新規医薬品等管理部長
佐藤ひとみ		看護師	看護部長
澁谷斉		臨床検査技師	医療技術部長
石黒信久		医師	感染制御部長
篠原信雄		医師	高難度新規医療技術管理部長
佐藤典宏		医師	臨床研究開発センター長
平野聡		医師	臨床研修センター長
保科豊次		事務	事務部長
坂本直哉		医師	消化器内科教授
八若保孝		歯科医師	小児・障害者歯科教授

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・）
- ・ 公表の方法
- ・ 規程の主な内容
 病院長は、副病院長を総長へ推薦、病院長補佐を指名、診療科長、中央診療施設等の長を命ずる権限を有している。
 病院執行会議、病院経営委員会、病院教員人事委員会等病院の管理運営・経営・人事に係る重要な会議において議長となり議決している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 副病院長（総務担当）は、病院全体の運営にかかる連絡調整を行い、副病院長（医科担当）は、医科診療科の総括及び他部署との連絡調整を行い、副病院長（歯科担当）は、歯科診療科の総括及び他部署との連絡調整を行い、副病院長（医療安全担当）は、医療安全にかかる総括及び他部署との連絡調整を行い、副病院長（看護業務担当）は、看護部の総括及び他部署との連絡調整を行っている。

 また、病院長補佐（再開発担当、歯科担当、企画、経営・財務担当、経営戦略担当、経営・事務担当、国際医療、国際交流、研究担当、臨床研究中核病院、産学官連携、研究支援担当、広報、地域連携、100周年記念事業担当、薬剤部担当、医長技術部担当）は、病院長が特に命じた事項について、企画及び立案並びに病院に各部署間の連絡調整を行っている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 本院職員のうち、長年職務に精通し、経験豊富な者から人選する。
 研修は組織管理、働き方改革に関するシンポジウム等に参加している。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	④・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1 北海道大学病院の医療に係る安全管理の業務執行の状況について、北海道大学病院長等から報告を求め、又は必要に応じて確認を実施すること。 2 病院の医療に係る安全管理について、北海道大学総長及び病院長に報告し、必要に応じて是正措置を講じるよう意見を述べること。 3 前2号に掲げる業務について、その結果を公表すること。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有） ・ 委員名簿の公表の有無（有） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有） ・ 公表の方法：北海道大学ホームページ 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
大島寿美子	北星学園大学		医師・患者関係に精通	無	2
加藤紘之	斗南病院		医療安全に精通	無	1
中村 隆	札幌総合法律事務所	○	法律に精通	無	1
橋本暁佳	札幌医科大学		医療安全に精通	無	1
生駒一憲	北海道大学病院		医療を提供する者	有	3
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
既存の大学規程や内部規程で対応。

- ・ 専門部署の設置の有無 (有・)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有・)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有・)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院の管理運営に関する状況を点検する会議体を設置した。 ・ 会議体の実施状況（ 年1回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年1回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 公表の方法 				
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：北海道大学病院管理運営協議会				
会議体の委員名簿				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係	
中村 隆	札幌総合法律事務所	○	有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
長瀬 清	北海道医師会長		有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
土橋 和文	札幌医科大学附属病院長		有	<input checked="" type="checkbox"/> 無
笠原 正典	北海道大学総長職務代理		有	<input checked="" type="checkbox"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）・ 通報件数（年6件）・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）・ 周知の方法：リスクマネージャー連絡会議、医療安全管理委員会、研修会等

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	④・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構、平成31年3月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
・情報発信の方法、内容等の概要 広報誌及びウェブサイトにて、本院の理念と目標、地域の中核としての役割、先進的な医療に関する情報提供などを行っている。 また、市民公開講座を主催し、地域社会へ医療に関する最新情報の提供を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 診療科間の連携についてのルールが整備されており、他診療科への受診依頼、依頼先においての検査結果等の患者情報が電子カルテを通して共有されている。患者の情報が不足している場合は補足説明を電話で直接行う等により緊密かつ緊急に連携できる体制を整えている。	